

599-447



1200501529613

9

447



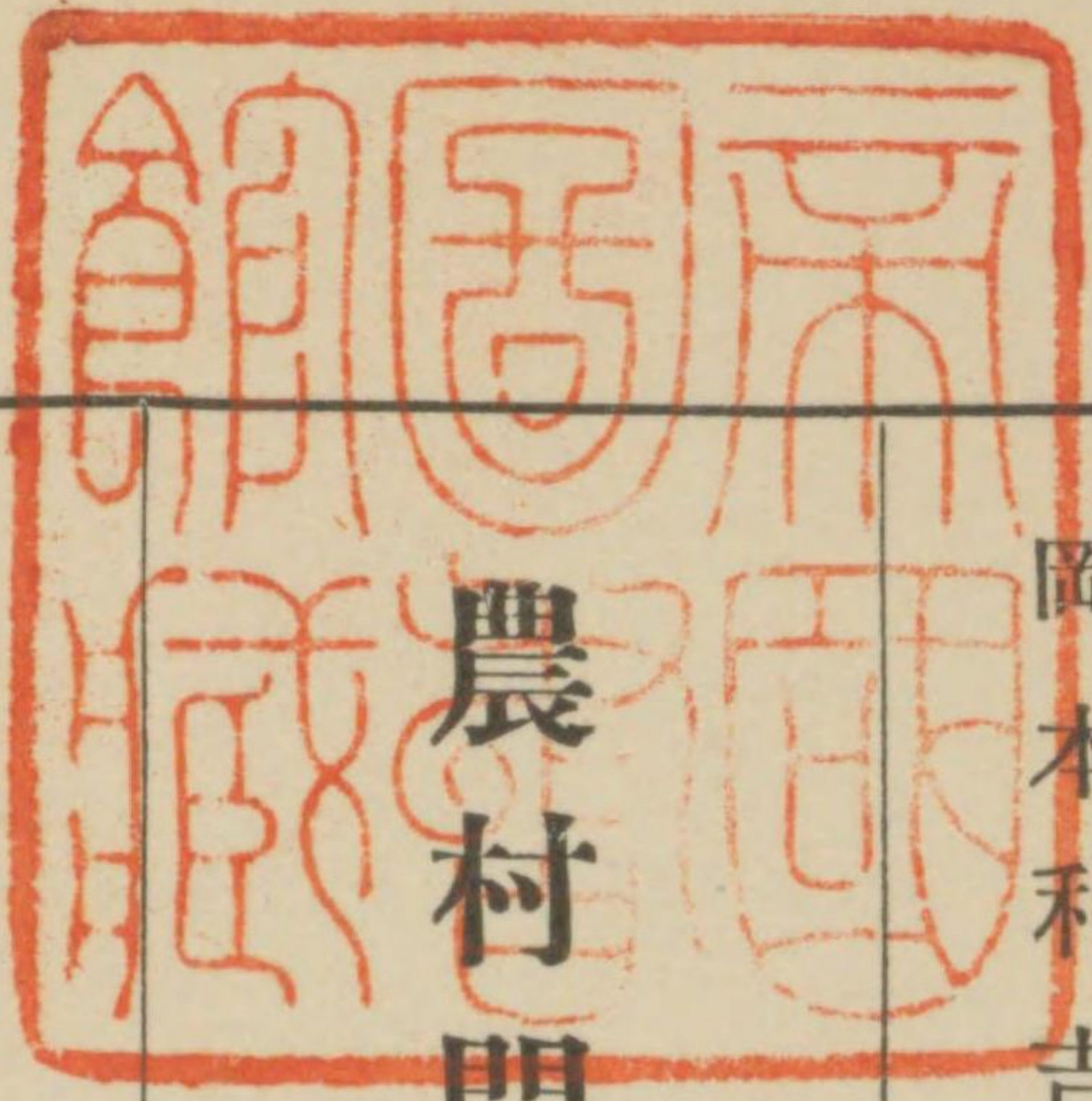
7. 4. 21

農村問題

總論 解決



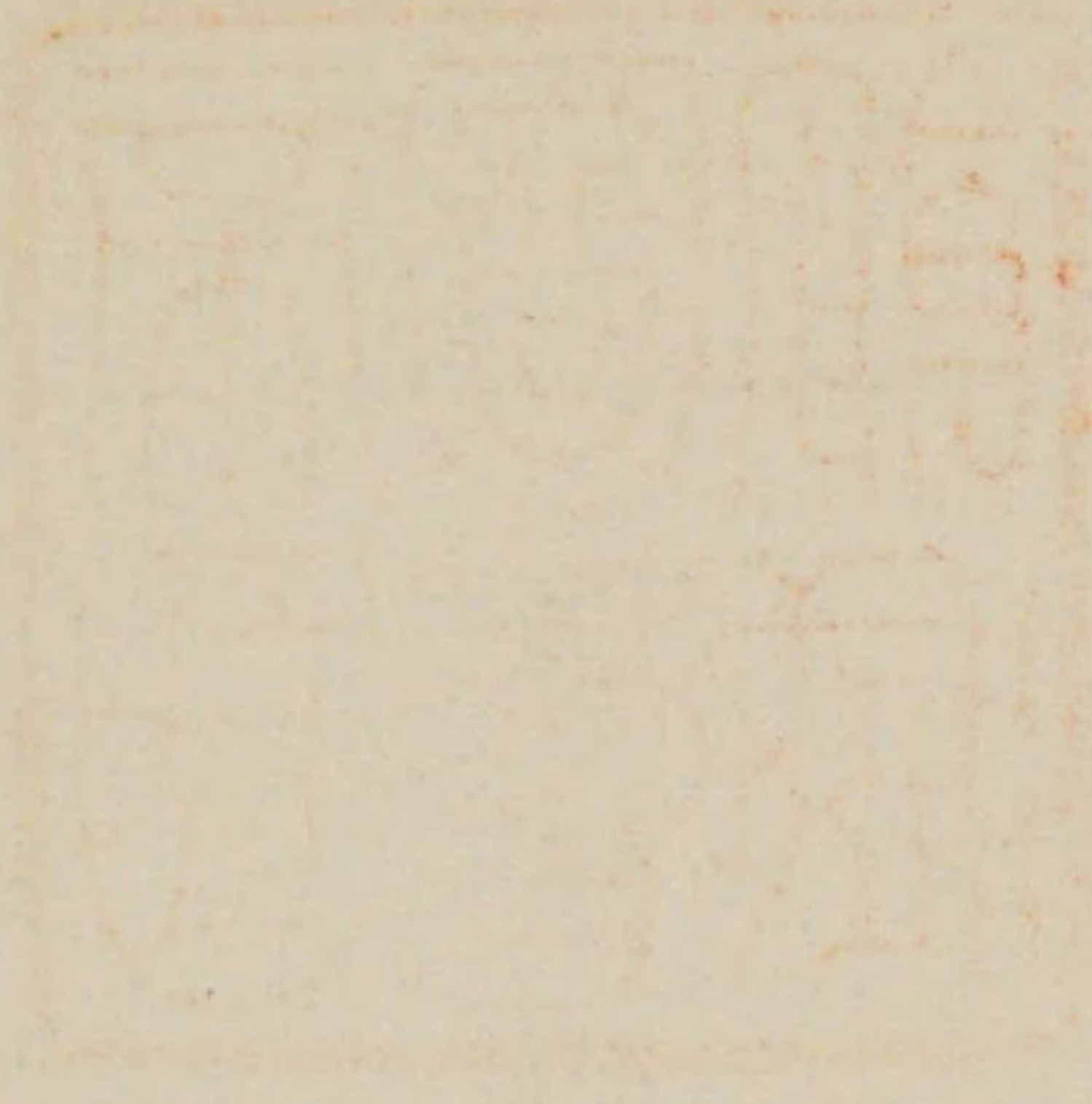
淡江大學圖書館
藏書
民國五十六年
六月



岡本利吉著

農村問題總解決

純真社版



599-447

序

農村は破壊された。疲弊のどん底に落ち、何時立上れるか判らない。此儘では、農村は滅びるであらう。

農村を疲弊さして、國が榮えると思うか。農村が破壊されて、人類の生活が安穩であり得ると思ふか。失業問題も、都會の不景氣も、歸する處は、農村の破壊と疲弊からである。

病源が人體に發生すると、熱や鼓動や呼吸や、不快や倦怠や苦痛や、種々な症狀を起す。醫師の診斷は病源を發見して患者を自覺に導き、服藥か外科の手術かを受けさす。本書は都會の不景氣と失業問題が、結局する處、農村疲弊に基くを明確にし、その農村疲弊の根本諸原因を判然ならしめて、社會問題の完全な解決を指示する。

不景氣は經濟學者と商工金融の實際家に取り不可解の謎である。失業問題は政治家にも思想家にも解決することのできない痛である。しかし都會からの主義や思想を離れて、農村と農民より見るとき凡てが凡て解決する。何人もまづ農村と農民を知らねばならぬ。農村と農民を知らない政治家や主義者や思想家や、勞働者や學者や記者や評論家や藝術家が、都會の遊び場と書齋の机の上でばかり思案

するから、何もかもが間違がうてくる。

本書は赤裸に我國農村と農民の現状を説き、農村生活の物質的諸條件と、農民心理の諸傾向に至るまで、十分に之を判明にする。けれども過去に於ける農村疲弊の諸原因を解剖して、將來に對する農村振興の根本策を立てるが、本書の最大任務である。

本書は平易な文字と文章を用い、農村青年男女の讀本ともならうとする。しかし尖鋭な都會智識階級も本書に依つて、根本の啓示と反省を受けるであらう。著者は富士南岳の葛山に農村青年共働學校を設立し、多年農村中堅青年を教育してゐる。本書は其講義であり、また著者が全国各地の公私諸團體や學校に招かれて、絶えず農村問題を講述する其輪廓の内容を充實して、農村大衆聽講者の満足に答へんとするものでもある。

本書は原文一致の假名遣を斷行した。凡てのことに付き改革せねばならぬ我國では、漢字の癩止ができないまでも、假名遣の言文一致位は斷行せねばならぬ。民族生活の危機に臨み、青年男女の大きな努力を期待するには、少年時代から彼等に無用な能力の濫費をさしてはならぬ。過去に於ける誤謬と失策から、農村疲弊と失業と就職難と不景氣と、其他の種々な重大問題を彼等の前途に積上げた我等と我等の父母兄弟は、少青年の頭上に無用煩鎖の拘束を加へることを、斷然と遠慮せねばならぬ。

我等は我等の子孫を生きた屍とせず、活潑な復興の戰士とせねばならぬ。

昭和六年二月二十五日

農村青年共働學校第四回終業の朝

静岡縣駿東郡富岡村葛山に於て

岡 本 利 吉

増補版の序言

本書を訂正増補して第六版を出す機会に一言する。訂正増補の際、引用の統計をも改めよおかと思おたが、昭和五年以降殆んど村勢一覽表が作れないほど農村わ疲弊し、各町村でわ之を作らずにいる。従て町村以上の官廳で發表するものにも、殆んど信頼し得るものわないであらう。だから引用の諸統計わ、その儘に据置くことが、却つて意義深い記録とならう。

鳴り物入りで騒いだ金輸出の解禁と再禁止の問題を掲げねばならぬのか。再禁止となる一ヶ月ほど前のことであつた。群馬縣の碓氷社の或組合長が私に對し、金輸出が再禁止となれば、生絲が忽ち暴騰して、農村わ直に救われると主張した。私わ其誤解を説いた。しかし彼わ決して彼の主張を曲げなかつた。けれども、金輸出が再禁止されて、生絲わ如何ほど騰貴したのか。却つて都會の輸入原料製造品が暴騰し、農村わ逆に益々苦しくなつてゐる。

貨幣の品位を落すときわ、物價が騰貴した外觀を呈す。金の輸出禁止わ同様の結果ともなる。けれども、金の輸出禁止の場合にわ、外國市場と言ふ貿易關係の相手方があるから、簡單にわ行かぬ。

私わ金の輸出が再禁止されると、外國市場わ日本の生絲等々を今迄よりも安價に買取り、逆に日本わ外國原料を高價に輸入せねばならぬ結果になるであらうと豫想した。現實の結果わ、都會の相場師や輸入原料を手持する商工業者の幾人かに、大儲けをさせただけである。或わ米の騰貴を金輸出禁止の結果だと言ふかも知れぬが、米わ國內消費の貨物であり、金輸出禁止に最も縁遠いものである。

本書わ農村疲弊の原因を、都會と農村の人口割合の破壊、並に金融資本の搾取であるとする。初版でわ金融資本の搾取に關する記述が不十分であつたので、増訂版で之に付いての一章を追加した。増訂版にわ、なお現代より新しき規範の共働農村え進む過渡的な考察をも追加した。本書出版當時の計畫でわ、過渡的な農村對策に關するものを別に出版する豫定であつたが、農村問題總解決と言ふからにわ、本書に於て其點にも觸れねばならぬからである。

讀者に對し特に報告せねばならぬことわ、私が山の共働農場を出て、東京に出版部を設けてから、我等の運動が急に擴大したことである。それわ時代の要求が然らしめたのであるけれども、また私と同志とが頑張つた結果でもある。加藤一夫氏、犬田卯氏、長野朗氏、橘孝三郎氏、中澤辨次郎氏、森田重次郎氏、星川清躬氏、白山秀雄氏、山川時郎氏等が協力して農本聯盟を結成し、その機關誌として「農本社會」を發行することとなつた。マルキストでなく、アナーキストでなく、單純な日本主義

のファシストでもなく、眞に農村の爲に、また日本と同時に全世界の全人類を、農村を基本としての眞理と最善の共働規範に誘わんとする、殆んど總ての人々を網羅して、以上の諸氏と私共とが同心協力し、或わ果敢な論陣を張り、或わ農村塾を開き、或わ模範の共働農場を創め、或わ農村に行脚し、其他の効果的な有ゆる方法で農本共働社會の實現に努力することとなつた。

農村人よ農人よ。眞に力強い中心が出来た。安價な都會プロレタリア思想の階級意識や、その他の認識不足と誤認識に卷込まれず、農村人よ農人よ、判然と農村と全人類の、眞に正しい眞理と最善を把握して、唯一規範の方針を固執しよおでわないか。農村に階級がなく、僅かにある階級をも打倒して、一團の共働農村を實現し、その聯合によつて、商業も工業も、政治も經濟も教育も、凡てを凡て總管理する、眞に明るい農村と農村人を、日本にも、全世界にも、到る處え出現せしめよおでわないか。その他の主義や思想やイデオロギーわ、悉く認識不足か誤認識であることを、此機會に確然と斷言する。

昭和七年一月十日

農村青年共働學校第五回開講の朝

岡 本 利 吉

農村問題總解決 目 次

一	農業の過去を顧る……………	一
二	國粹の破壊と農村の現況……………	八
三	農村窮迫の實狀……………	一四
四	人類生活の基礎わ農業である……………	三三
五	本體わ農村 都會わ重點……………	三三
六	農村と都會の人口關係……………	四三
七	農村疲弊 失業 不景氣の根本原因……………	四九
八	社會惡の一切を清算するもの……………	五九
九	農會わ何をしたか……………	六六
一〇	産業組合わなにをしたか……………	六九
一一	低利資金わ何をしたか……………	七五
一二	農事改良の諸組合わ何をしたか……………	九一

一三	農民教育は何をしたか……………	九七
一四	多收穫わどをなつたか……………	一〇五
一五	多角形農業わどをなつたか……………	一一四
一六	副業わどをなつたか……………	一二四
一七	移民わどをなつたか……………	一三三
一八	結局農民わこんなになつた……………	一四二
一九	凡てわ都會萬能の弊害だ……………	一四九
二〇	學問や思想を顧る……………	一五九
二一	正しい理論……………	一七〇
二二	共働渦卷の原則……………	一七六
二三	生活幸福の原理……………	一九〇
二四	明るい規範の共働農村……………	一九九
二五	農業わどをするか(其二)……………	二〇八
二六	農業わどをするか(其一)……………	二二五

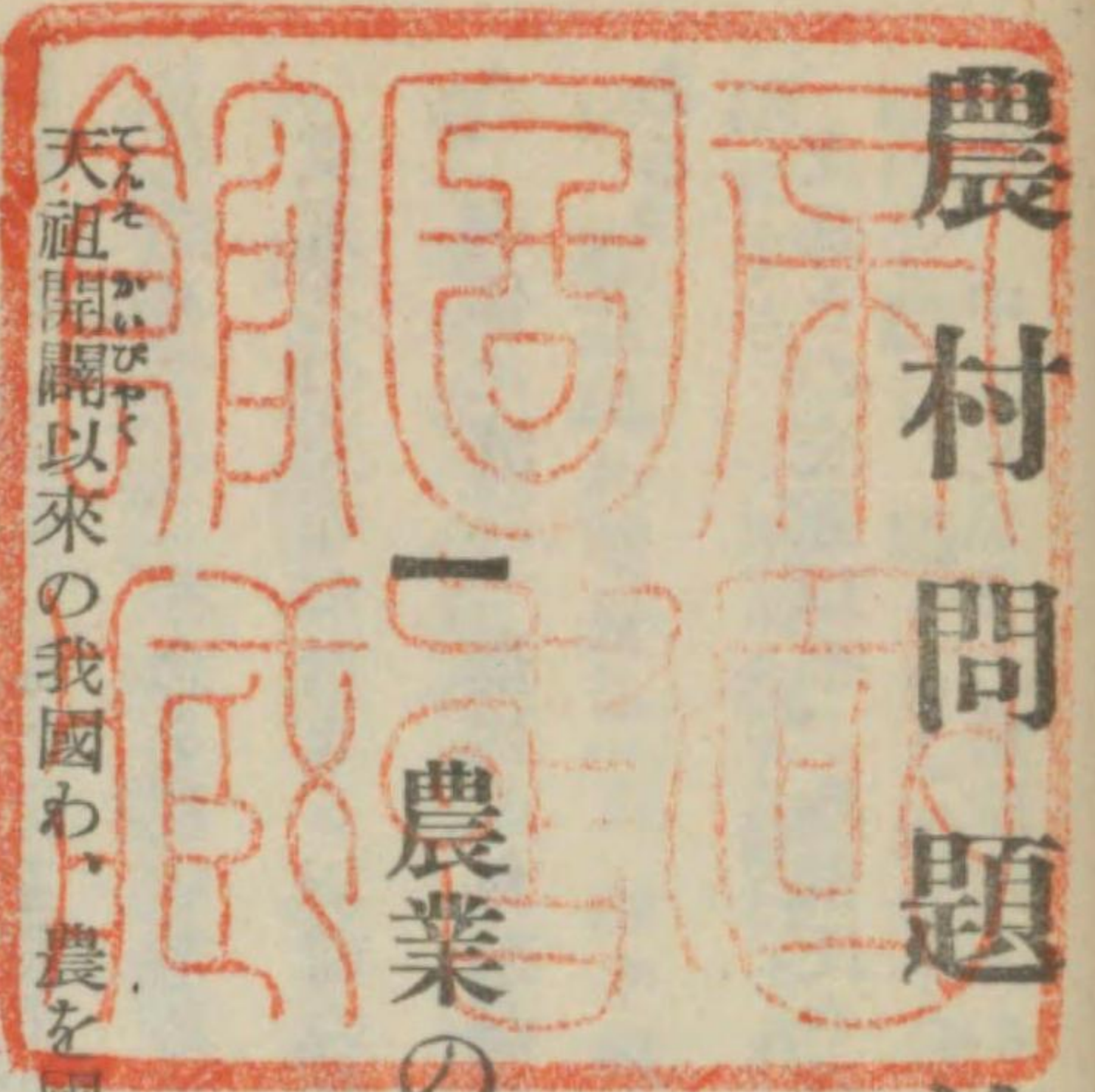
二七	生活わどおするか……………	二二六
二八	次三男問題が解決する……………	二四七
二九	婦人問題が解決する……………	二五三
三〇	小作問題 土地問題が解決する……………	二五七
三一	多收穫 多角形 肥料自給等の諸問題が悉く解決する……………	二六三
三二	人口食糧問題が解決する……………	二七〇
三三	工業と取引わどをなるか……………	二七八
三四	都會問題が解決する……………	二八六
三五	失業と不景氣がなくなる……………	二九四
三六	米わ上るか繭わ上るか……………	三〇一
三七	共働農業だけわ渦卷形に發展する……………	三一一
三八	世界を清算し指導するもの……………	三二三
三九	十年後の確實な展開……………	三三〇
四〇	農民組合 無産政黨 都會消費組合……………	三三九

四一 金融資本の總搾取關係……………三七

四二 過渡期の對策……………三七

農村問題總解決

農業の過去を顧る



天祖開闢以來の我國わ、農を國の本とした。神代に定める所の罪を

- 第一 毀畔あなほち 田の畔くろを毀つ罪
- 第二 埋溝みぞうめ 灌溉の溝を埋める罪
- 第三 放種ひはなち 井關を開けて田に水を溢れさす罪
- 第四 重播しきまき 他人の田に二重に種を播く罪
- 第五 刺串くしざし 他人の田に侵入して自分の田の如く境界を付ける罪
- 第六 生剝いきはぎ 田に使う牛馬を虐待する罪
- 第七 逆剝さかはぎ 生剝と同じ類の罪

第八 屎戸 收穫祝の新嘗祭の日を汚す罪

之を八種の天罪と云い、古事記や日本書紀や其他の古書に必ず載つていて、日本に於て最初に罪として定められたものである。八種の天罪を悉く農業に關するものであり、農わ國の本であるから、之を妨害する者を、神代以來最大の罪として罰したのである。後に佛教が傳來して、殺生、盜賊、暴言、姦淫、飲酒の五戒が罪惡とされたが、平和な古代の日本わ、天祖以來、男女の關係も正しく、五穀の實る豊葦原の我が瑞穂國に、殺人や盜賊や喧嘩口論などする者わなく、農業さへ保護すれば、人々幸福な生活をして、不足のない安らかな世渡りができたのである。我國古代わ、八百萬神を崇めて、社殿のない森に、しめ繩を張り、毎朝其處に集つて、東の地平線の横雲を破ぶり、洩れ出る曉の太陽を見詰めつゝ、邪念を穢い清めて、高天原の平和な生活をしたのであつた。

支那との交通が始まる以前の我國わ、歴代の都を、御即位の時々に改めた。之わ永久の都を定めると、奢侈に流れて農民の負擔が重くなるからであり、仁徳天皇の御仁愛わ、實に我が國粹の誇りである。

支那との交通以來、物部氏や蘇我氏の僭越な權臣が農民に重い負擔をさして、邸を大きく豪華に耽つた。中大兄皇子と藤原鎌足わ、南淵先生に教えられ、農民を本位とする國粹を維持する爲め僭越な權臣を殺し、國土を人民に平分して、人々國土に落ち着いて農業に勵み、生産を豊にして、生活を安穩にする、大化革新を斷行された。けれども支那と交通してゐる間に、奢り高ぶる外國の權臣を見習ひ、藤原氏わ増長して、邸や祖先の靈を祭る寺を莊麗に造營し、其の負擔を全國の農民に背負わした。東大寺其他の奈良の寺々や佛像を造營する爲め、全國より農民が無數に徵發せられ、酷しい勞働に疲れて歸える途中に於て、年々幾萬人も倒れ死んだ。南淵先生の學問を傳える大江匡房の感化を受けた八幡太郎義家は、非常な英斷を以て、農民の負擔を減じ、國々の地頭に命じて、一反三升以上收納するを禁じた。鎌倉幕府わ其精神に従ひ、北條氏の制度でも、公四民六と云うて、田の收穫の四割を租税とし、農民の生活にわ六割を充てしめた。だから豊年でさえあれば、民は楽しんで、腹鼓を打つ諺の通り、生活の不安を知らなかつたのである。

藤原氏わ奢侈に耽つて農民を苦しめたが、源氏と北條氏わ農民を樂にした。弘安年間に元から大軍が押寄せた時、世間では神風が起つて元の大軍を撃退したと傳えているが、實は鎌倉の仁政によつて元氣の盛な關東の農民達が、元から征めて來ると聞いて承知せず、秋の收穫が終え次第、手に手に獲物を提げ、手辨當で九州を駈け下り、元の蠻兵共を追い散らすといきり立つたので、其を聞いた九州の人々も、關東から來られてわ、九州男子の面目が立たぬと、惡戦苦闘した爲め、元の大軍は上陸がで

きず、何時までも海上に漂^{たづな}ふている間に、玄海灘え夏の終りの暴風が起つたのである。元から使が来た時、藤原氏は色を失い、朝廷を動かして元と和睦することを決し、藤原光経を早馬で鎌倉へ使として下らしたが、鎌倉で元使の使を切り殺し、其の報告の早馬が、濱名湖で光経と出遇い、鎌倉の使が元の奴等を打ち切つたと報告すると、藤原朝臣光経わ青くなつて腰を抜かし、馬から轉げ落ちたと云うことである。これを見ても、農民さえ豊であれば、どんな危難の場合でも、國が安穩であるを知り得る。我國は古來より實に農を本とし、農村と農民が窮迫すると、古來必ず亂世と變事が起つたのである。徳川幕府となつて農民わ苦しめられた。徳川三百年の方針わ、大名に農民を搾らし、幕府わ大名を搾り、幕府以外に富む者のないよをにして、日本全體を氣力のない服従者とするのであつた。家康わ天海と云う坊主の奨めによつて、幕府を泥沼の江戸に置き、地固めや造營と稱して、極度に大名と其領民を搾つた。日光や久能山の東照宮も、その造營に幾萬人の農民を苦しめた。家康わ云うた。難儀にならぬ程にして、氣まゝをさせぬが百姓供えの慈悲なり。家康の重臣本多正信わ云うた。百姓を治めるの法わ、一年入用の食糧だけを殘して、其餘わ年貢に取り、彼等の手許にわ財の餘らぬ様に、且つ不足なき様に治むべし。本多利明わ云うた。胡麻の油と百姓わ絞れば絞るほど出るものなり。明治維新わ農民を解放した。大政と共に土地も奉還^{かへ}されて、現に使用する者に所有權が認められ、

軽い地租が最初の租税として課せられた。唐政に習慣付けられた農民わ、軽い租税を恐れて、傳説にも云う通り、田一反に酒一升付けて、村の智者に土地を預けた。其土地わ預つた者の所有に登記され、新しい地主の階級を生じ、地主わ領主が取上げていたものを、年貢として所得にする習慣を生じた。しかし我國農民が、眞に窮迫するに至つたのわ、日露戦争を経て、歐洲大戰以來のことである。今や農民わ、小作人わ勿論、自作農も、また地主さえも窮迫して、農村疲弊が歴史あつて以來の苦しみを、全農民に與えてゐる。

先輩權藤成卿翁の名著「皇民自治本義」より、参考となる二三の短文を左に轉載しよを。

田租二十分の一の制わ、大化大寶共に同一で有つたことわ、上に述べた通りであるが、……延喜の仁政僅に其名を留めて、間もなく承平天慶の亂となつた。天曆の小康、聊か史上を飾りて、庶民わ必ずしも多幸を謳歌したのでわない。負擔わ益々重くなりて、保元平治にわ、一般に五公五民に達し、貪慾なる領主の下に在るものわ、七公三民の極に達した。(二三九頁)

謂ゆる自然の自治、其都てのことが民衆の協議に依りて決定し、農商工漁の職を分ちて互に相給し、凶饉災害疾病憂患、其情を推し恩を推して相救い、訴を起さぬでも大概のことわ、老輩の裁定によりて治まり、警察がないでも穩かに治安が保たれる。是の如き社會の現状に對してわ、面倒なる中央政

府の干渉は要らぬのみならず、其政務に至て簡易に濟む。簡易に濟めば何程の政費も要らぬ。大化の時代に於て二十分の一の田租を、寧ろ國庫に餘剰を生ぜし位であつたるを。大化大寶の定制たる、收穫に對する二十分の一なりし田租が、地主たる貴族寺院長者等に依り逐次に其誅求率を昂められ、遂に其收穫に對し十分の七に上る迄になりたりと傳えられて居る。……後世鎌倉幕府より、徳川氏に至る迄、公四民六、即ち其收穫の十分の四を租税に宛て、十分の六を耕作者の取得となす定例を、田租の中央標準としたのわ、全く大化制度の大目的たる國民に甚だしき幸不幸なき様に鹽梅するの大意に法れるものである。……著者曾て故本莊橋里翁に此事を質だし、現制度の將來に對する學問上の意見を徴したことがある。其話の一節に、「鎌倉の五公五民の制を公四民六の制である。租として納むるものわ十分の三で、十分の一わ其邑里の費用、即ち今の町村費と、溝洫道路の營繕費に當てられ、又十分の一わ名主若くは地主等の取得となる。是れ名主地主の下に糧米が集められて居らねば、軍國火急の徴發をなす場合に不便なりし爲め此の方法が起りたるものである。要わ正租三、町村費一、名主若くは地主一を合せて五となる。之と農民の取得五とを較べ、五公五民と呼び、徴税の最高標準と定めたものである。假令如何なる場合も、是より以上の誅求を許さぬのが法度の主旨であつた。(二四八頁)

土地所有權の認定わ、王朝時代に於ても武家政治の時代に於ても、我國の古代にわ未曾有のことなのである。古人の最も懼れたる所わ土地の兼併で有つた。神皇正統記などにも、「一國づゝをのぞまば、六十六人にてふさがりなん。一郡づゝとゆうとも、日本わ五百九十四郡(明治二十一年の調査によれば七百十六郡)こそあれ、五百九十四人わよろこぶとも、千萬人のひとわよろこばじ」とあるのわ、兼併の弊害を極言したものである。中古以來莊園の兼併が行われたので、或わ莊園わ私有地であつたかとも思わゆるのであるが、決してそをでない。其證據わ推古天皇の時、蘇我の馬子が封戸を分けて寺に寄附せんとした時、之を奏聞したるも、天皇わ許可せられなかつた。又た寶龜十一年六月光仁天皇わ封一百戸を秋篠寺に施されたのであつたが、勅書に永々施すと有つたに拘らず、其時の詔に「物、天下、物、非一人、用一人、今謂、永者、是一代耳、自今以後立、爲恒例」と附言せられて居る。永わ子孫永久とゆう意味でわなく、所有者の終身を以て期限とするとうことなのである。……けれども明治政府わ土地の私有權を確認した。是わ兎に角破天荒の英斷で有つた。然し其利害得失わ、今日と雖も、尙を頗る考量の餘地があるので有るを。(二五五頁)

二 國粹の破壊と農村の現況

國粹を知らずして國粹を破壊してわならぬ。國粹を知らずして、國粹の擁護を叫ぶも無意義である。我國粹は農を本とし、天祖も八種の天罪を設けて農を保護した。神武天皇征夷の大義名分、長髓彦等が土地と人民を獨占して奢を極め、一般人民の衣食住を脅すから、天祖以來の國粹を擁護する爲め堂々と大義名分を正されて、一大革新の大業を樹てられたのである。けれども、歴朝の功臣元勳の子孫も、朝廷の優遇と人民の尊敬に馴れるに従い、長髓彦等の如く土地と人民を獨占し、奢を極めて一般人民を虐げる増長者の通有性を現わしたので、神功皇后三韓征伐第一の功勞者武内宿禰の子孫、蘇我氏が專横を働くや、中大兄皇子わ鎌足と協力し、蘇我入鹿を王座の前に殺した。其時の大義名分も、實に土地と人民を獨占して、農を本とする我國粹の社稷を危くする増長者を除き、國の基礎となる土地を重んじ、土地を愛する農民の生活を安穩ならしめる大精神であつたのである。

古來我國でわ、外國人が恐れながら罪の許しを祈り詫びる造物の神を、「あめつちのかみ」と親しみ祭つた。「あめつち」は天地のことで、天の天たる働きわ太陽が日光を地上に放つこと、農作物を育てることにある。地わ云うまでもなく土地であり、水分と肥料を農作物の根に供給し、農作物わ天上より太陽光線、即ち太陽エネルギーを受け、太陽エネルギーわ植物の青葉に働らき、植物の青葉にわ葉緑素と稱する微細な生體があり、この微細な生體の葉緑素が、太陽光線により刺戟されて活潑な活動をし、空氣中に一萬分の三しか存在しない、極微量の炭酸瓦斯に作用して、其中の炭素を吸引し、この炭素を、植物の根より上る水分等と化合させて、澱粉や纖維質を合成するのである。人類わ澱粉類を食料とし、纖維質を着物や住宅の材料や燃料とするのである。だから、「あめつち」即ち天地が、人類生活の根元であり、土地と人類を總稱して、昔わ社稷と云い、今わ社會と云う。國家わ實に社稷の上に建設され、土地わ國家の基礎で、人民は國家の目的である。基礎と目的を失えば、空中に國も家も斷じて存在し得ない。だから長髓彦や蘇我入鹿の如く、土地と人民を獨占して私慾に耽る者わ、天地の神々も之を許さず、神武天皇や天智天皇が神々になり代り、革新の偉業をなされたのである。朝廷に置かれてわ、古來八坐の守護神を祭られる。其中に足産靈神と云うがある。富有者わ足ることを知らねばならぬ、足ることを知る者わ、有り餘る物を以て、他の同類を扶ける美德がなければならぬと云う精神を尊重されたものである。足産靈の精神を無視して、土地や人民を獨占して横暴を極めるわ、神と人が共に許さぬ大罪であり、我國粹わ常に之等の不心得者に鐵槌を加えたのである。

中大兄皇子が屯倉百八十一所を奉還し、群臣豪族をして之に倣わしめ、男に二段、女に其三分の二を口分田として、人民一同に土地を給し、人をして地を愛せしめ、國本の農業を勵ましめた。之が有名な天智天皇の大化革新であり、其等の功勞に依り鎌足の子孫を藤原氏として代々國の重臣となつた。藤原氏の子孫が次第に増長して、後に天智天皇と先祖の鎌足が定めた農民社稷の國粹を無視し、僧侶等と結托して、佛を敬う美名に隠れ、盛に土地と人民を私して奢を極めたので、宇多天皇や後三條天皇等わ、神人共に許さぬ大義名分の宸襟を憫まされたが、八幡太郎義家が奮起して、地頭に命じ一反より三升以上の上納を取るを嚴禁し、簡易質素の武家政治となつた。武人わ「山海の珍味を蘇、梅干くらげ也」とまで云うて、奢を嚴禁した。鎌倉に遊ぶ者わ、源頼朝の墓が如何に貧弱であるかを心して見ねばならぬ。

我國粹が土地と人民を基礎とし、農業を本とする社稷を中心としたことにわ一點の疑がない。宇多天皇が藤原基經に與えられた勅語の中にも、「卿わ社稷の臣、朕の臣に非ず」と仰せある。だから古人わ「君を輕しとなし、社稷を重しとなす」とさえ言ひ、大江廣元が源實朝の軟弱に失望すると、剛健な北條氏の子弟に心を寄せた。しかし武家政治も最後に増長し、徳川氏わ、武人に有るまじき奢をしたので、神人遂に許さず、山内容堂わ大化革新の古例に倣ひ、率先して藩土を奉還し、明治維新となつた。

明治天皇わ地租改正に際し詔勅を發せられ、「賦に厚薄の弊なく、民に勞逸の偏なからしめよ」と云われ、忘れられかけた我國粹の大義名分を宣明にされた。

元勳にしる、僧侶にしる、富豪にしる、土地と人民を獨占して奢り増長することわ、神人共に之を許さぬ。朝廷の東に傲然と構え、寺院と佛像の影に隠れて、比叡山の僧侶共が、奢に耽つて土地人民を虐げるを見た織田信長わ、諸將を會して、「人を見れば切れ、物を見れば焼け」と、嚴重な軍令を授け、一夜の中に大伽藍を焼き拂ろをて、比叡山の僧侶共を滅盡したことがある。今日の現狀を顧ると、土地と人民を愛して、農業を本とする古來の國粹わ、果して破壊されずに保存されているのである。國粹が破壊されれば、國は必らず亂れる。國粹擁護を叫ぶ者があるわよい。しかし國粹擁護を叫ぶ者わ、國粹の果して何であるかを知つてゐるのである。國粹の擁護を叫ぶ者に、先づ國粹の何であるか知らさねばならぬ奇妙な變態にあるを、我等わ嘆かずにはいられない。

國粹わ、土地と人民を重んじて、其生活を保護し、其生産力を十分に發揮せしめて、社稷即ち社會を安穩にすることである。社會生活の安穩こそ、我國二千六百年の傳統である。

社會生活の安穩わ、土地の有效な利用に依らねばならぬ。古來我國は土地の私有を許さず、普天の下、率土の濱、王土に非ざるわなしと教えて、土地の占有者にわ種々な義務を負わした。土地の占有

者わ、権利よりも義務を負担していたのである。土地の占有者わ作付義務と稱し、田にわ水稻、畑にわ雑作物、山にわ植林する義務があり、土地を占有して有効に利用せぬ者わ、社稷に對する罪人として罰せられた。そればかりでわなく、土地の占有者わ、地目を任意に變更して、田畑の作付を爲さず之に植林するが如きことわ嚴禁され、また土地を賣買讓渡することも禁止された。從て土地の兼併わ起らず、五穀豐作の時わ、豐年祝をして、國中喜び躍つたのである。翻つて今日の農村を見れば、豐年にわ農産物が暴落し、逆に農民は窮乏に泣く。しかも凶作にも、農産物わ高價に賣れると決らず、農村わ歴史あつて以來の疲弊のドン底に落ちてゐる。

漫然と明治維新の功臣等が、西洋文明を鵜呑みにして、土地に絶對無條件な所有權を認めたことが農村疲弊の根本原因である。土地を所有者の絶對自由な私有とした爲め、自由の私有權を制限する作付義務わ廢された。地目變換わ自由となつた。賣買讓渡質入書入も自由となつた。土地の所有者わ、耕作せず小作に出し、小作人から昔の領主に代わり年貢を取る權利が認められた。土地の所有者に義務わなく、只だ自由な權利がある。土地の所有者わ、祖先の森林を濫伐して賣拂らい、また其土地をも賣拂らい、荒廢した山岳原野が、我國總面積の八割を占めて、作付義務のない富豪に獨占されてゐる。之が爲め農民わ自由に下草したぐさも刈れず、炊事の燃料にも窮し、山間にいて馬に與える草を買わされ、行

水の湯を沸す燃し木さえも買わねばならず、買う物わ高く、賣る物わ安く、安くてさえも、作る物わ容易に賣れない。しかし年貢と税金と肥料代わ借金しても支拂わねばならず、今や農村と農民わ天祖以來の國粹の保護を奪われ、農業わ輕んぜられて、商人や工業家や金融業者や高利貸が重んぜられ、保護わ都會に集中し、工場や會社や銀行や、農業以外の商工業が國家の中心でも基礎でもあると、政治も法律も教育も、また一般國民の思想と學問までが、農村と農業と農民を無視してゐる。無視される農村が極度に疲弊し、農民が生活難に行詰まるわ、當然過ぎるほど當然な結果である。

三 農村窮迫の實狀

米や繭の暴落した今日の農村が、極度に窮迫していることわ語る迄もないことである。昭和元年私が始めて農村を行脚したとき、最初の日に栃木縣下都賀郡國分寺村關根部落の黒川長吉氏方え泊つた。芳賀郡久下田村谷田貝部落の横田清治氏方えも泊つた。長沼村や中村や、眞岡町や山前村や逆川村や村から村えと行脚し、貧しい小作人の家に毎夜の宿を乞をて、寝起きと食事を共にしつゝ、實際に小作農民の生活を調べた。黒川氏の家も横田氏の家も極度に窮し、疊さえもない板の間で、蚤と蚊に征められたことを忘れられない。入浴するにわ石鹼がなく、手紙を書くにも、筆も硯もない。黒川氏わ小學校に通う數人の子供を抱えていて、筆と硯を所望すると、近所を探し歩いて、甲の家から硯を借り、乙の家から墨を借り、丙の家から筆を借りると云う工合に、漸く私の所望を満足して呉れた。其年の暮、私わ秋田縣を行脚した。其時わ村々からの求めもあり、部落有志の家に泊つたが、しかし私わ村中の部落を隅から隅えと歩き廻ることを怠らず、部落中を歩いてみると、どの部落でも二軒や三軒わ家らしくない家があつた。例えば南秋田郡面瀨村野田部落にわ、堀立小屋で床さえもない家が五

六軒あつた。家とわ名ばかりで、壁もなく、周圍に蓆を引き廻わし、土間に藁を敷いて住んでいた。雪深い秋田縣で、堀立小屋でわ餘り氣毒だから、住いの中を覗いて見たくわあつたが、餘り氣の毒なので覗き込むことさえもできなかつた。私の泊つた部落有志の小野藤八氏に尋ねて見ると、彼等わ農村に居ながら、土地が得られない爲め、百姓をすることもできず、僅かばかりの日稼ぎをして、細々に生活の烟を立てゝいるとのことであつた。

絶えず村々を歩いて、農民窮迫の實際を善く知る私わ、こをした實例を際限なく書き連ねることを止める。昭和元年と云えば歐洲大戰の好景氣が、なを幾分か名残を止める時であつた。栃木縣でも名産の干瓢の値がよい時であつた。其後の昭和三年のことを、村役場が發表している村勢一覽と云う統計に付いて觀察しよを。

町村役場から、村勢一覽と云う統計が發表されている。其を見れば、全國各町村の實況が略々判明する。けれども、統計の數字だけで議論すると、往々實際に反した結果になることがあるから、私が訪問して、十分に實際を調査した村に付いて、其村の役場が發表した村勢一覽の統計數字を通じ、農村生活の實際を語るとしよを。

極度に貧窮した村の統計を調べるならば、驚くほどの事實を指摘し得る。しかし私わ全國の標準を

語るを主眼とし、極度に貧窮した村の統計にわ觸れない。私が知つてゐる標準以上の、寧ろ夫々の郡内でも善いと評判される村に付き、實際を語ることにする。

長野縣北部でも、小縣郡滋野村ちまがたのむらわ善い村とされている。其村の村勢一覽わ、左の數字を示す。

田	三千八十六反
畑	五千百四反
現住戸數	九百十五戸
現住人口	五千二百二十六人
米收穫高	七千五百五十二石
養蠶收繭量	三萬五千六百六十五貫
其賣價	二十萬九百三十圓
金肥消費額	八萬四千六百三十四圓
國稅	一萬五千九十九圓
縣稅	一萬七千八百六十三圓
村稅	四萬五千六十六圓

現住人口が五千二百人で、米收穫高が七千五百石だから、一人當りが一石四斗四升で、一人一日四合に足りないから、米や其他の農作物わ村内で消費するだけしかない。事實其村の金錢收入わ繭の賣

上のみであり、山林原野もあるにわあるが、其收入わ村全體で一年四百五十圓だけであり、其村は繭の賣上收入二十萬圓で一切の金錢支拂をしてるのである。是非共支拂わねばならぬ金錢支出の第一が税金であり、其次が金肥である。國稅と縣稅と村稅を合計すると、税金が七萬八千二十八圓、之に金肥八萬四千六百三十四圓を加えて、繭の賣上高から差引くと、殘高が三萬九千二百七十八圓、之を一戸平均にすると、年額僅かに四十圓、一人平均にすると、驚く勿れ年額一人に付き七圓五十一錢、一ヶ月只の六十二錢となるのである。それで小學校の學用品を買い、新聞代や電燈代を拂うと、病氣しても醫師に行けず、藥も飲めないことになる。此數字を突き付けて、村の青年男女に質問すると、彼等わ暗い涙を浮べながら、實際小遣錢など少しもないと白狀する。村の資産家の一人息子、共働學校第一回終業の唐澤憲一郎氏わ語る。村内の田畑が、かなり他町村の人に渡つてゐるから、村の收穫の幾割かわ他町村へ支拂わねばならぬ。しかも村の統計わ、貧富を通じてのことであるから、中以下の農家わ、實際氣毒な状態にある。だから家々に相當に大きな借金があり、金利の支拂のことなど思ふと、實に涙ぐましくなると、中學校を卒業して、頭腦あたまのよい彼わ、感慨無量の溜め息をついた。繭價の暴落した今日、其村がどんなに困つてゐるかわ、想像するまでもないことである。

隣の上高井郡高井村にも、共働學校二回終業の内山行雄氏がいる。其村を訪ね、其村に泊つた私わ

其村の生活が非常に苦しいことをよく知つてゐる。其村の村勢一覽から、單に數字のみを掲げよを。

田	千四百九十五反
畑	四千九百十五反
山林原野	四千二百八十五町五反
現住戸數	七百二十七戸
現住人口	三千五百九十七人
米收穫高	二千七百二十四石
大麥小麥收穫高	千九百五十石
收 繭 量	一萬七千六百四貫
其 價 額	七萬五千三百八十一圓
金肥消費額	三萬五千三百七十三圓
租 稅 合 計	四萬三千七圓
林 野 收 入	三萬四千三百四十二圓

此村の青年男女須坂町の工場へ出稼して、賃銀收入を父兄に貢いでゐることであるが、繭の暴落と共に、須坂の工場も煙を立てず、窮迫に窮乏が加つたと、内山氏から近信があつた。

新潟縣中魚沼郡川治村からも、中堅青年小海隆三郎氏が共働學校に來た。三日に續く自治大學が其

村に開かれ、私わ出掛けた。其村よりも遙かに困つてゐる同郡の倉俣村くらまてにも招かれた。倉俣村の方を遠慮して、川治村の統計を左に掲げる。

田	畑	五千二百十二反
現住人口		三千六百四十六人
米 收 穫		八千四百九十五石
收 繭 量		四千二百六十八貫
其 價 額		二萬五千九百六十八圓
林 野 收 入		千三百六十二圓
租 稅 合 計		四萬二千八百九十四圓

此村にわ金肥の統計がないけれども、少なくとも二萬圓以上で、大體繭の賣上が金肥代になり、税金や諸費用の支拂いわ、村内で消費して剩る米の賣上高を充てねばならぬが、小海氏が青年諸君と共にして實査する處によると、五千二百反の田畑の約四割、千九百反が他町村の地主の所有となつてゐるから、其年貢を拂うと、賣る米わ二千四百五十石しか残らず、村民は事實生活が立たず、借金に借金をし、辛をじて生きてゐることである。

飛び離れて高知縣高岡郡戸波村を語る。堂々たる高等小學校や、立派な信用組合の事務所や、其前

に晴れやかな宿屋や飲食店も立ち並び、外観は景氣のよい村と見える。其村の養蠶収入が主で、十六萬一千圓、材木薪炭等の山林原野収入が七萬圓、之に對し税金が四萬四千四百圓、金肥が八萬八千圓、人口が六千二百人であるのに、米の生産高が四千七百石だから、千五百石以上米を買い、差引六萬圓残るが、之を一戸に割ると年額六十圓、一人に割ると年額十圓となり、共働學校三回終業の辻重直氏わ、とても苦しい生活を隠さず訴えた。

米作地の東北へ移るを。秋田縣由利郡平澤町わ本莊米の中心産地である。田が四千五十反、農家戸數が三百三十七戸、一戸當り一町二反の良田を作っている。一萬一千石を收穫し、三十萬圓の年收があり、税金六萬八千圓と、金肥四萬五千圓を支拂い、自用米の價額十數萬圓を控除しても、割合に樂な數字が残る。平澤町わ海濱であり、魚獲の收入もあるから、平和な模範農村として東北でも讚美されているが、米價が半値段に下落した今日でわ、世間並に窮迫の地獄に墜落したと、共働學校三回終業の中堅青年佐藤富太郎氏と佐藤耕太郎氏とが口を揃えて訴えた。

以上の統計數字わ昭和三年のものであり、米も繭も相場の高い時のことである。米價も繭價も慘落した今日でわ、農村わ村としての收支が絶対に償わす、到る處破産せねばならぬ状態となつている。

最近兵庫縣農會の調査として新聞紙の發表する所によれば、一町歩を小作する農家の總収入わ三百五十八圓であり、其中經營費に二百二十四圓十三錢、租税公課に六十五圓かゝり、差引残り僅かに六十八圓八十七錢を以て、成年男女三人と、兒童四人が衣食住に關する一切の生活をせねばならぬ結果となり、到底不可能な數字である。

東京帝國大學農學部實科に留學する浙江省の蔡康瑣氏と楊開渠氏が最近に私を訪問して呉れた。兩人の語る處によれば、支那農民の生活もひどいが、併し日本の農氏の生活よりも、浙江省農民の方が樂に暮している。武漢の政變以來、地主わ田の收穫の三割五分以上を年貢に取ることを嚴禁され、未だ自給自足を中心とする支那農民わ、銀暴落にも拘わらず、日本の農民よりも樂な生活をしていることである。我國農民わ、今や世界中でも一番ひどいドン底に落ちて、破産以外に光明のない、苦悶の終局にまで行詰つている。

けれども支那の内地の農民わ實に酷い。山東省や湖南省や江西省や、其他の支那内地でわ、土匪と軍隊と共産匪等の爲に、農民わ完全に搾られて、家わ焼かれ、家畜わ奪われ、種子わ煮られ、老人や子供わ虐殺され、妻女わ姦されると言う程に、全く生色ないのが支那内地の現状である。これ支那でわ、農村と農村人が自治の組織を持たぬ處え、中央の政治が腐敗したからである。農村を救うものわ農村人自身の組織でなければならぬことを、之に依つても善く了解せねばならぬ。

四 人類生活の基礎は農業である

國粹が完全に破壊され、農村と農民が破産の危機に瀕している。古く天皇も親耕せられ、后妃も織室に當らせられた。天照大神も齊服殿にて神衣を織られ、萬人労働こそ我國の古制であり、労働を卑む悪風は、印度や西洋から傳つた。神と崇められる社稷の中心人物が農耕し機械してれば、制度も藝術も學問も、悉く労働を賞めたゝえて、假にも之を賤しむことわないのであつた。國粹を寫す古歌に農業を中心としての労働を讚美するものが多いのわ、永久にも我民族の誇りでなければならぬ。

明治維新以來、農を卑しんで、西洋文明の形式に迷い、都會を中心としての、商業と工業を保護獎勵した結果は、農業が衰へ、農村が瘦せ細り、農民が都會商工業の重い壓迫を受くることとなつた。其経過を述べる前に、全人類生活の基礎が、永久に農業であることに付き、十分な理解を得て置かねばならぬ。

古い國粹から、無意味に農業が、全人類生活の基礎だと頑張るのでわない。最も新しい自然科学から、農業が全人類永久の生活基礎であることを判明に斷言するのである。之に付き農村青年男女は、

十分な理解を持たねばならぬ。こをした理解から、農業が永久に全人類の生活に最も必要な基礎任務であることを悟り、輕薄な西洋の形式文明を謳歌する迷いの夢から完全に醒め切るであらう。

亞米利加の或る大新聞社の社長がパンフレットを配つたことがある。日本でも或る有力者が、其パンフレットを翻譯して、朝野の識者に配つたと聞いている。其パンフレットにわ、將來學問が進歩すると、人間の食糧も都會の工場で製造されるから、農業の如く骨の折れる仕事をする必要がなくなる。農業は學問が進歩する過渡期に於て、未開人のすることであり、文明人が學問を研究して、凡てのものを都會の工場で製造するよを工夫せねばならぬと書いてある。西洋の近世文明は、この心持で發達して來た。日本も明治維新以來、實は農業を國の本とする根本を放棄し、都會中心の商工業萬能政策を取つたのである。

都會で食糧品や、一切の工業材料が生産できれば、其に越したことわない。古より農が國の本であつても、無用な骨の折れることを何時までも續ける必要わない。果して農業が無用であり、都會の工場に於て食料や工業材料の、凡てを製造し得るであらうか。之は近世科學によつて、正確に答えねばならぬ最根本の大問題である。其の答の如何によつてわ、天祖以來の國粹も捨て、斷然と商工業萬能に變わらねばならぬ。然し解答の如何によつてわ、また斷然と明治以來の誤謬を清算して、都會本位

の商工業萬能政策を棄て、國粹の農業本位を歸えらねばならぬ。我が民族と、世界全人類の大方針を決定すべき根本問題が、我等の前に提出されたのである。

農業が無用であるをか。食糧や工業材料を都會の工場に於て供給され得るのであるをか。之を決定するものわ、歴史でも習慣でも、國粹や主義や理想でもない。此大問題を解答するものわ、近世自然科学の正確な理論でなければならぬ。著者の規範經濟學を八百九十八頁以下に於て、詳細に此問題に答える。其概要を左に摘記しよを。

都會に住んで労働を厭ふ知識階級等わ、科學將來の發達により、一切の貨物が化學的方法に依つて工場より製造されることを夢みてゐるかも知れぬ。そのときこそ筋肉労働を必要とする農業は無用になり、都會の工場で動力を利用し、人間を軽い身形でスキッチを閉鎖する位で、其以上に骨の折れる労働をせず、極端に云えば労働らしいものもせず、思うまゝに無盡藏の貨物を得られるのである。果して斯うした種類の夢想が、我等を繞る物質世界に實現し得る可能性があるのであるか……。

私わ本書の處々で農業が永久に於ける基礎的産業であるを論じた。工場を農業生産の材料を加工して、文化の形式に諸貨物を整理するだけの任務しかないを論じた。果して之が科學の發達による永遠の未來を決定する斷案であるをか……。

蛋白質の或種を工場に於て人造される。應用科學將來の發達わ、一切の有機化合物を人造し得るかも知れない。……空想的科學者の夢わ、一切の貨物を工場で製造することであるを。それわ一切の有機化合物を人造することを意味する。單純な有機化合物だけでなく、複雑な有機構體の生物を人造することができなければ、一切の貨物を工場で製造すると誇れない。……けれども此等わ全く空想である。不可能でもある。農業を永久に人類生活の基礎産業である。……應用化學今日の發達程度でわ蛋白質類似のものを人造し得る程度に止まり、澱粉の合成わ不可能である。澱粉よりも遙かに簡単な砂糖の人造が、最近に瑞西のビクテによつて發見されたと傳えられるが、其製造費わ一砵約二百法で、天然産砂糖の百倍に當る。……けれども應用化學、特に膠質化學將來の發達わ、結局澱粉まで人造し居るに至るであるを。……製造費の點で、やはり澱粉を植物から採られ、單細胞生物も、高等動物も、人類も、自然の蕃殖が阻害されないのであるをことわ確實である。

何故に人造砂糖等々の製造費が高いか。其第一原因わ熱源であり、第二原因わ炭素問題である。……地球上の全人類に必要な貨物を供給するに要する熱源わ莫大である。電氣や瓦斯や石炭や、

考え得る熱源でわ、交通機關を動かし、燈火を照らし、天然材料を整理する工場や臺所を電化し得る程度で、人間の労働を無用にすることさえも出来ない。それ以上の熱源は太陽エネルギーに求めなければならぬ。

佛國パリに於て計量された處によると、夏の日中毎分平均一カロリー半の熱量を、垂直に暴露された一糶平方の地面に太陽を投げかける。此割合で計算すると、一糶平方の地面は、一年約七十九萬カロリーの太陽エネルギーを受ける筈だ。……

太陽エネルギーは全く無代價で地球の全表面を全人類に對し平等に與えられる。高價な動力を利用する工場製造が價額の點に於て天然産貨物に對抗できないのわ、第一に此熱源の相違からである。そこで大きなレンズか何かで、この無代價の太陽エネルギーを利用すればよいと考えるかも知れないが、太陽を一點を強く照らさず、地球の全表面を略々平等に照らすから、集光装置によつても太陽エネルギーを動力とし、之を無代價に利用することの望みがない。結局全世界の全人類の貨物と材料を供給する基礎は、永久に農業でなければならぬことが判明となるのである。

しかし植物は太陽エネルギーを受けて、如何な働きをしてゐるかを明瞭にしないと、私の此の立言は空漠を免れぬ。植物の葉は太陽の光線を受けて、葉緑素作用と云われる働きをしている。……

この葉緑素作用は千七百七十一年 Priestley により初めて觀察されたが、其が空氣中の炭酸瓦斯に作用するものであることわ、千八百四年 De Saussure の實驗に依つて漸く發見された。なぜかならば空氣中に含まれる炭酸瓦斯は一萬分三の極微量であるから、この極微量な空氣中の炭酸瓦斯から、植物の全組織に必要な大量の炭素が同化されよをと想像さえも出来なかつたからである。……

植物の葉は葉緑素作用に依つて空氣中の極微量な炭酸瓦斯から炭素を同化する。此活動の源泉となるものわ實に太陽エネルギーであり、……一ヘクタール(我が約一町)に百億萬大カロリーの熱量を與ふる太陽エネルギーを受けて、……馬鈴薯や玉蜀黍ならば一萬五千疋の可燃性炭化水素質を含むが、之をカロリーに直すと、……略々七千五百萬大カロリーの燃焼熱を持つから、百億萬大カロリーの太陽熱の1%にも足りないエネルギーしか植物は保留し得ないのである。しかし之は……其の作業が空氣中に一萬分の三の極微量にしか含有されてない炭酸瓦斯に向い働くからである。此に熱源以上に困難な炭素問題が横わる。

人類の需要する貨物は多種多様であるが、之を元素に分解すると、最大量に必要なものわ炭素である。蛋白質さえ其組織の五十乃至五十五%の炭素であり、澱粉や糖類の主要成分も炭素であり、棉花や材木や紙等の纖維質は云うまでもなく炭素を主要成分としている。人體自身が炭素と水分と

の化合物であり、我等呼吸作用によつて、空氣中より酸素を攝取し、血液中のヘモグロビン之を身體各部に運搬し、之によつて人體組織の炭素を燃焼して、此に人間エネルギーが發動し、其際炭酸瓦斯を生じて肺臓から放出される。炭素の同化作用と其燃焼作用こそ、植物より人類に至る全生物に共通する有機體の固有機能であり、……實に炭素を全有機生物に取り、構體自身を爲す同質同化の基礎材料であると共に、呼吸作用による其燃焼、生命と生物エネルギーの源泉なのである。

生物の生存と活動に必要な炭素は何處より來るであらうか。其凡て植物の葉緑素作用の所産である。遡て云えば空氣中に極微量に存在する炭酸瓦斯から來る。從て材料貨物の工場的人造、植物の葉緑素作用に代り、全人類に炭素を供給し得るとき初めて解決されるのである。

炭素は地球上種々の形で存在する。極微量な空氣中の炭酸瓦斯に供給源を仰ぐ必要のないでわないかと疑問が起り得る。石炭や石油や隨分無盡藏に地中に炭素が埋藏される。けれども石炭も石油も元來植物の遺骸でしかないを思うとき、また植物の葉緑素作用に歸らねばならぬ。貴重な金剛石や石墨を燃しても炭素を微量である。大理石や石灰石等にも炭素が含まれている。けれども其等の定限なものから無盡藏に炭素を取つてゐれば、その炭素が人體で燃焼して空氣中へ放出されるこ

とわ防ぎ得ないから、結局は空氣中の一萬分の三の極微量にしかない炭酸瓦斯を材料にして、人類の需要する炭素の全量を取らねばならぬことになる。空氣中の炭酸瓦斯のみ、循環して存在する永久無限の炭素源なのである。……最も安定な化合物は炭酸瓦斯と水である。水は電氣によつて分解されて水素と酸素になるが、十八瓦の水を分解するにわ、六十八・四大カロリーの熱量を要する。不幸にして我等の需要する有機物、斯くも不活潑な炭素と水分質から成立し、一般に之を炭水化合物と總稱するほどであり、其化學的構造を主成分に付いて示すと、澱粉は $C_6H_{10}O_5$ 、即ち炭素(C)六と水(H_2O)五の割合による合成物であり、蔗糖は $C_{12}H_{22}O_{11}$ 、即ち炭素十二と水十一の割合による合成物であり、果糖は $C_6H_{12}O_6$ 、即ち炭素六と水六の割合による合成物である。蛋白質の主成分にも炭素や窒素の外に水素と酸素があるのである。しかも蛋白質や脂肪類、澱粉より變化したのでしかない。

有機體物質の人造難、空氣中より炭素を取つて、之を水又其成分と合成することの困難に歸着する。幸に之をした化學作業の方法が発見されたとしても、其作業にわ非常な熱量を要し、たとえ高價を忍ぶとしても、人造有機體物質を大量に製造すること到底不可能である。しかるに植物の葉緑素作用、太陽エネルギーのみによつて、空氣中の炭酸瓦斯に働きかけ、其より炭素を

遊離して根より吸収される水分と合成せしめ、澱粉其他の有機構體物質を重合する。此作用は植物の葉緑素作用のみに固有され、……吾人永久に農業を基礎的生産と覺悟しなければならぬ……働かないで工場から一切の貨物を機械的に動力で生産できると思うわ、科學を知らない空想家の夢でしかない。

植物の葉緑素作用の化學的反應は判明でなく。Baeyer は炭酸瓦斯と水が作用して、最初にフォルムアルデヒド(CH_2O)を作り、……フォルムアルデヒドから糖類が重合されると考えた。……如何にして植物の葉緑素が常温に於て……炭酸瓦斯と水からフォルムアルデヒドを作り得るか確実でない。最近の學說では酵素の接觸媒介により、葉緑素作用は寧ろ突變的に一層複雑な澱粉を重合し、澱粉が分解して糖類となり、また變化して蛋白質や纖維質等ともなると推定している。澱粉は常に微量の燐や石灰を含むが、主成分は炭素六と水五の縮合であり、其分子構造は非常に複雑である。澱粉の種類により相異なるが、澱粉の一分子中にわ、二千箇乃至五萬箇の原子を有している。従て其分子は比較的大きく、限外顯微鏡で見ることが出来る。それでも其直径は一耗の十萬分の一乃至百萬分の一の間であり、そんな小體積の中へ斯くも巨數の原子を縮合せしめることが、實は澱粉人造の一大難關である。けれども其だけの難關は既に突破され、かよをに巨數の原子から成る

分子を、生體化學者はミセルと稱し、ミセルから成るコロイド質の種々な物が人造に成功しているが、併し澱粉の持つ一の不思議は、かくも巨數な原子から成る澱粉のミセル分子は、澱粉の一小粒中に幾億萬個にも近い巨數が重合され、植物の生命に依つて生じた澱粉粒は、植物の種類に依つて異なる一定の形を有し、しかも夫々に相違する性質を持つ同心の數層より成り、其各層は例えば熱或は酵素に依つて不均等に冒される。こをした複雑構造は生活物質の特徴であり、應用化學發達の將來に於て、乾燥澱粉は人造し得ても、生命澱粉の人造が果して可能であるかわ、空想以外に之を肯定し得る何等の根據もない。……

以上に論ずる所は、最近に發達した生體化學の結論であつて、人體の需要が窒素や酸素の如き空氣の主成分でなく、空氣の中に一萬分の三の極微量しか紛れ込んでいない炭酸瓦斯中の炭素であり、しかも炭酸瓦斯そのものは非常に人體に有害であり、有害な炭酸瓦斯の中から、炭素のみを取り出し、その炭素も水を組織する水素や酸素と複雑に化合させて、人體の消化し得る澱粉質にせねばならぬが、炭酸瓦斯は炭素と酸素が強固に結合してをり、之を破壊して炭素のみを取り出すにわ、金剛石を燃やす以上の高熱を要するのである。こをした熱量を消耗して、空氣中の極微量な炭酸瓦斯から澱粉や纖維質を作ること、實驗室で少量に爲し得るとしても、全人類毎日の需要に應ずるほどの大量を工場

内で製造し得るとわ、如何なる未來に於ても到底考え得ないのである。只だ植物の葉緑素のみが、無代價な太陽の光線を受けて、空中炭素を澱粉類に化成する巧妙な働きをして呉れる。人間は太陽の下の大を耕し、日當りよい處え植物の種子を播き、邪魔になる除草をしたり、農作物を種々に栽培保護して植物固有の葉緑素作用を活潑ならしめるのである。葉緑素作用が活潑に働いて、農作物が成長し、また澱粉質の實を結ぶと、刈入れて收穫をする。大地の上で斯様に太陽と共働し、農作物を栽培保護し或わ收穫する勞働を農業を云う。實に農業は永久に全人類に必要な食物と纖維質や燃料等の工業材料を供給する、最根本の生活基礎である。

五 本體わ農村、都會わ重點

全人類に必要な食物と工業材料を供給する農業は、全人類生活の根據でなければならぬ。農業は確かに全人類生活の根據である。しからば、農業に従事する以外の人間は何をなすべきか。もし都會中心の形式的な西洋謳歌主義から判断すると、農業に従事する以外の人間、宜しく都會に集中し、東京でも大阪でも名古屋でも、都會と云ふ都會を、人口四五百萬人にして、繁榮と豪勢を中外に誇るべしと云う結論になる。だから外國でわ、ロンドンでも、ニューヨークでも、巴里でも、人口七百萬人、八百萬人と稱し、世界一番の大都市競争をしている。

都會の工場で食糧品でも工業材料でも生産できるものならば、都會え都會えと集中するがよい。都會萬能の西洋謳歌主義は、都會の工場で食糧でも工業材料でも作れるとき、單に形式的な光榮でなく、實質的にも全人類の生活を保證し且つ光榮ならしめるものとなる。けれども都會でわ、斷じて一粒の米も、一筋の生糸も生産されない。全人類に食糧と工業材料を保證するもの、質實な農村である。だから、都會がどんなに人口を集中して、東京や大阪が數百萬人の豪勢を極めて見ても、その豪勢は

農村の上に据わる形式文明でしかない。我等が慎重に農村と都會の關係を考えなければならぬ。

昨年の夏、秋田縣平澤町青年團の爲めに、同地の小學校で講演した。私わ農村と都會の關係に付いて、農村わ全人口の八割以上を占め、都會わ全人口の二割以下でなければならぬ、今日の如く過度に都會が膨張すると、都會わ農村の搾取者となると述べると、聴講に來ていた補習學校の先生が質問を發した。

過日秋田市で開かれた縣廳主催の講習會へ出席しましたが、某博士が都會と農村の關係を講義され都會と農村わ車の兩輪の如く、互に密接な利害の關係があり、しかも都會が先づ盛大に繁榮すればそれにつれ農村も續いて繁榮するものである。なぜならば、農作物わ賣らねばならぬが、農作物を賣る所わ都會であるから、農作物を買う都會が、先づ繁榮せねば、農作物わ決して高價に賣れず、従つて農村わ幸福となり得ない。農村の隆盛と幸福わ、都會の繁榮に依つて決定される。斯く博士わ述べられ、成る程と思いましたが、果して何れが正しいですか。

嗚呼、某博士によつて代辯される明治維新以來の形式的西洋文明謳歌主義よ。私わ斯くまでも人心の底に深く喰い込ましてあると思わなかつた。誠に幼稚な需要供給の關係に依つて、物價を説明する

形式的な經濟學の議論を移し、都會禮讚、商工業萬能の講義が、全國到る處で、年々と中央や地方の爲政者の主催によつて、農村を指導する小學教員の頭にまでも注ぎ込まれている。多くの善良な青年男女が農村を捨て都會へと、泥沼に注ぐ溝川の水の如く集るも、實に原因あつてのことである。

農民わ斷じて農村を捨てゝわならぬ。都會え都會えと人口が集まるとき、西洋謳歌主義の形式文明より見れば、如何にも都會が繁榮し、文明となつたかに見えるが、民族生活の實質わ、都會に不景氣と失業問題を醸成せしめ、農村に疲弊と破産の行詰りを起す。農村と都會の關係わ、形式的な文化の外形からでなく、人類生活の實質と内面に立ち入り、嚴重に考えなければならぬ。

私わ農民わ全人口の八割以上を占め、都會の住民わ、全人口の二割以下でなければならぬことを斷言する。なぜなら、農民は全人類の食糧と工業材料を生産するから、全人口の大部分が農村にゐて、農業に従事せねばならぬのに、都會の人間わ、最も勤勉な工場労働者でさえ、完全に電化された最新式の機械を動かし、便利な工場的大量生産をするのであるから、最新式の機械を動かす必要以上の労働者が、都會に入用な筈がない。その必要以上に、農村青年が都會え都會えと集まると、失業問題を生ずるわ當然のことである。農村青年わ斷じて農村を捨てゝわならぬ。諸君が農村を捨てゝ、都會え集まるとき、都會でわ勞働力が餘まり、此に困難な失業問題が起る。我國政治の大問題となり、世界

全人類の悩みとなつてゐる失業問題わ、農村青年男女が農村を捨て、都會え都會えと集まることに根本の原因を持つのである。

貧農小作人の次三男が、都會え都會えと集まる時、都會労働階級に失業の脅威を與える。富農地主の次三男が、都會え都會えと集まる時、都會知識階級を過剰さして、大學校や専門學校卒業者の就職難を生じ、また彼等が祖先の良田を質入して、不馴れた商賣を開店するとき、店頭のエルミネーションを以て、都會の繁華を増進するかに見えるが、實わ無用な商店が消費者の必要とする以上に數多く軒を並べるのであるから、商店わエルミネーションの競争をしても、消費の側が増加しない顧客わ、軒を並べて都會に充滿する各商店から、各商店の經營が立派に立つて行く程の多額な買物をしてやる譯に行かず、商店が多過ぎる結果わ、エルミネーションの競争をしても、賣れない不景氣となるのである。

顧客が少なくて賣れなければ、商店わ經費倒れで損をする。どをせ損をするなら、思い切り薄利多賣でやれと、算盤の巧い糞度胸ある商人わ、最後に問屋や生産者を倒すまで、安い投げ賣りを始めてエルミネーションの形式競争から、良品廉賣の實質競争を始める。生き馬の眼玉でも抜く素捷すばしい都會商人のことであるから、上にわ上があり、結局薄利多賣の商人のみが儲り、問屋も彼等を信用し、良品を安く委託する。それに問屋が生産者を虐めねばならぬ。最後に虐められる生産者わ、都會人え食糧を供給し、工場え工業材料を送る處の原生産者の農民なのである。だから都會が膨張して繁華のエルミネーションを飾るほど、農産物わ高くならず、反對に都會の膨張に反比例して、農産物わ安くなり、農村は疲弊し窮乏するのである。

某博士の講義が正しければ、大東京の人口が五百萬人となり、名古屋市の人口でさえ百萬人となつた今日でわ、米一石が五十圓、大根一本が十錢位になつていなければならぬ筈であるのに、都會が膨張するほど、事實に於て農産物わ安くなつてゐる。だから私わ云うのである。都會が過度に膨張すると、必ず農村を搾取することになる。左に其理由を述べよを。

農民わ食糧と工業材料を生産して生活するが、都會の人間わ、どをして生活するか。眞逆か、都會の智者わ農民を搾つて食うとわ放言すまい。農民わ全人類の食糧と工業材料を生産するのだから、農民以外の全人類わ、農民の作つた食糧でも、工業材料でも有難く取り上げて生活すればよいとわ放言すまい。しかし過去に於てわ、西洋文明の謳歌者や、我國に於ても、長隨彦や蘇我入鹿や藤原氏や徳川氏等わ、この放言にも似た農民搾取を實行した。今日でも現に、都會住民の多數が、其れをやつてゐる。都會プロレタリアートの農民支配が、勞農露西亞に於てさえも、其れに近いことをしてゐる。

た。

大東京え五百萬人、名古屋にさえも百萬人の大衆が集まる都會人わ、一體どをして生活しているか。都會人わ儲けて生活している。儲けるとわ、働かないことの異名である。一體、どをすれば儲かるか。よし一錢でも儲けるにわ、詐欺も泥坊もせず、一錢でも金を儲けるにわ、必ず安く仕入れて、必ず高く賣る外わない。これが金儲けの秘訣であり、安く仕入れて高く賣る以外に、斷じて金を儲ける方法わないのである。都會の全住民わ、安く仕入れて高く賣り、其間に金を儲けて生活している。よし自分が安く仕入れて高く賣らずとも、そをしたことを巧妙にする人に使われ、又わ其餘祿を受けて、都會の全人口は生活をしている。農民以上の生活費を要求する都會労働者も、安く仕入れて高く賣る金儲け根性の親類でしかない。

都會人を悪んで斯く云うのでわない。食糧も工業材料も、何一品生産せぬ都會人が、必要以上に都會に集合する結果わ、金を儲けて生活する都會人としてわ、己を得ず農村を搾取する結果となることを、事實を見て正直に斯く指摘するのである。都會人も良心ある者わ、其良心に立ち歸えらぬばならぬ。

人口の過剰する都會人わ搾取者である。彼等は農村を搾取している。だから都會と農村わ車の兩輪でなく、都會が膨張すれば、益々農村わ搾られて疲弊する。今や農村わ破産に瀕している。

都會人の最も勤勉な者わ工場労働者である。しかし彼等わ農民の生産した食物を食い潰しながら、農民の生産した原料を、動力器械で變形するだけである。棉花を紡績糸に變形し、更に紡績糸を織物に變形する程度しか、都會の労働者わ仕事せぬ。全人類に食糧と原料を供給する農民わ、地球の全表面に散在し、太陽と地下の水分とに共働するから、少なくとも全人口の八割以上をなれば、到底全人類に十分な食物と、文化生活の工業原料を満足に供給することができない。しかし動力機械と共働する工場労働者わ、全人口の一割もあれば十分である。我國人口を七千萬人として、都會労働者わ家族まで合計し、七百萬人もあれば十分である。それ以上に都會労働者がいると、都會労働者わ失業し、農民わ搾取されることになる。

労働者以外の都會人わ、労働者に續いて勤勉な者を、商人とする。商人の數わ、都會労働者の一割もあればよい。將來消費組合と其聯合が普及すれば、商人に代わる其従業者わ、極めて少人數で済むであるを。労働者と商人の外に、都會にわ病院や劇場や美術館や學校や圖書館や研究所や、種々な文化設備がある。しかし其等の事業に従事する人員わ、決して多數を要しない。しかも全人類の八割以上が農業に従事するとき、學校や研究所等にも、農業に關するものが多いであるをから、都會のみに

集中するとわ限らぬ。工場さえも、原料生産の農村に移されるであろう。人類大衆わ、少なくとも八割が農村に生活せねばならぬ。全人類の八割以上が生活する農村こそ、日本並びに全世界の本體でなければならぬ。

農村と農民わ、全人類の八割を占め、社會生活の本體である。しかし私わ決して都會を否定する者でわない。都會わ農村の中央に位し、文化の重點となるものでなければならぬ。けれども其文化わ都會のものでなく、都會人のものでもない。中央わ全體あつての中央であり、重點わ全部の中心點であり、中心點わ位置を持つが、それ自身に面積を持つものでわない。都會わ位置であり、廣さでわない。都會わ地形關係上の全農村の中央でしかない。農村人が日本と地球の四方から集まるに都合がよい便宜な處え、學校や病院や藝術館が築造され、假りに其處を都會と云う。しかし此等の文化設備わ、都會人のものでなく、農民のものでなければならぬ。勞働者や商人さえも、都會それ自身の存在でなく、農民の生産する食糧により養われて、農民の生活する原料に加工し、之を農民に返えす、全人類えの寄與者でなければならぬ。日本二千六百年の國粹わ、實に農を本として、神武東征、天智の大化革新、鎌倉前後の武家執政わ、都會を單に全農村の中心點と見る大精神であつたのである。武家執政の指導者大江匡房と廣元わ、之を明言し、大江廣元わ頼朝を強要して、扇ヶ谷の十六井と云う狭い鎌倉に幕府を置かし、都會が過度に膨張すると、全民族が腦貧血で卒倒せねばならなくなると、隋唐の古例を引いて戒めた。

六 農村と都會の人口關係

農村と都會を對立さして、農村の爲に都會を非難するのでわなない。搾取されて疲弊する農民の鬱憤晴しに、都會の惡口を云うほど、吝な心を私わ持つてをらぬ。私わたゞ理論と實際の兩方から見て、正當なことを正當に云う迄である。もし將來に於て、幸にも農村と都會の人口關係が合理化されるならば、農村わ全人類生活の本體として榮え、都會わ其中心となつて、全人類生活の頂上に、最高級の文化を繁榮さすであろを。しかしながら、過去と現在に於てわ、農村と都會の關係が、餘りにも甚だしく正當と合理から脱線している。之を圖解すれば左の通りである。

明治維新の前までわ、人口の八割以上が農村で百姓をしていた。侍まで入れて、都會の人間わ、全人口の一割、乃至一割五分であつた。明治維新以來、西洋文明の都會萬能商工主義を鼓吹し、人口わ都會え都會えと集まつた。それでも日清戰爭の頃までわ、全人口の七割が農村にいた。日清戰爭後に紡績の如き纖維工業が勃興し、官公私立の學校が建てられて、農村でも成績のよい青年わ、都會え都會えと送り出され、末わ博士か大臣かと、大言壯語しつゝ、都會わ益々膨張し、日露戰役の戰捷に醉

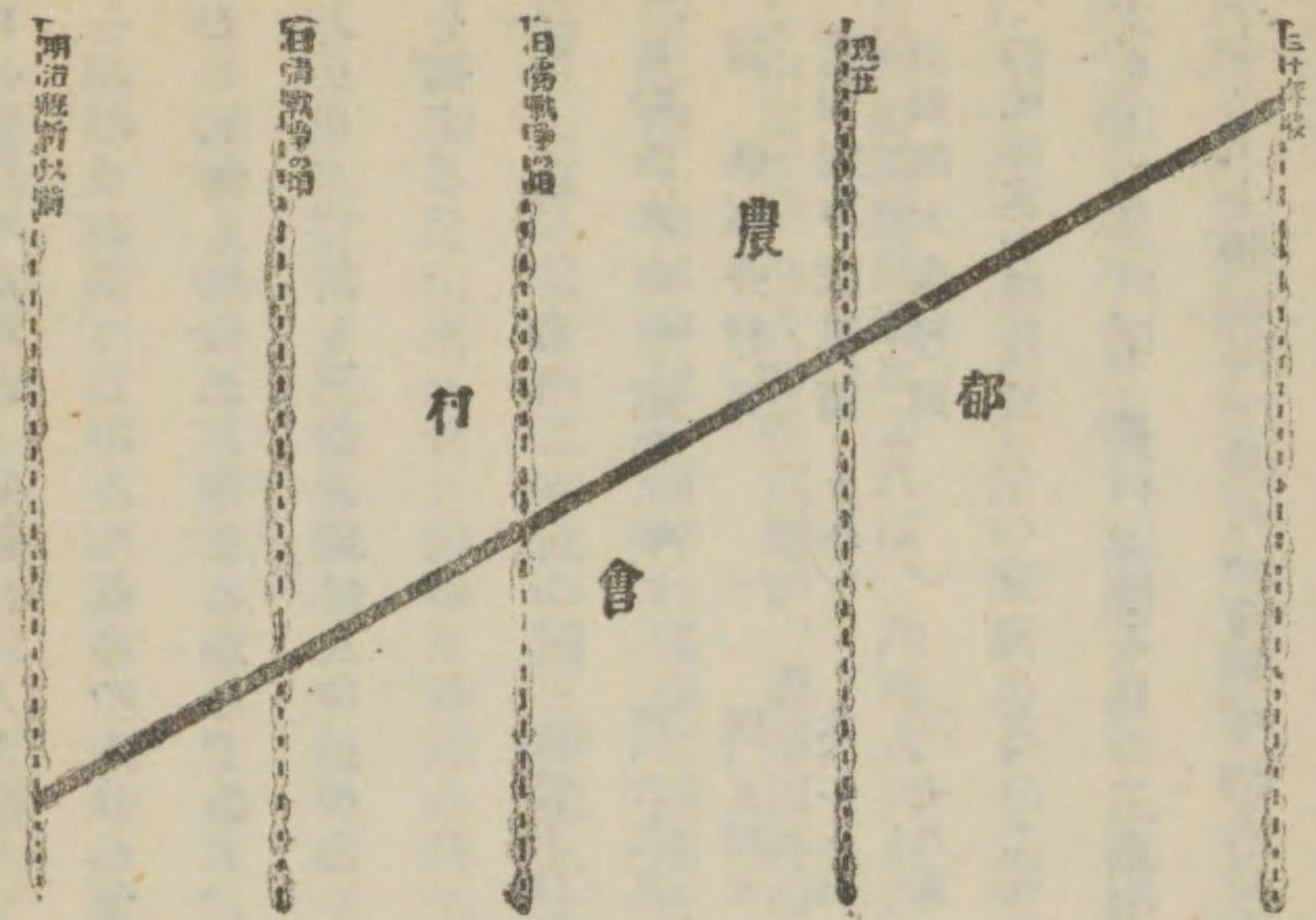
をた政商成金わ、鐵工業や機械工業や、製紙製粉毛織物等の諸工業を勃興せしめ、軍備の擴張と大學

専門學校の濫設わ、頭腦の善い青年男女、並に學資のある低能兒までを都會え都會えと引き出した。

我國の人口わ都會でも殖えるが、なを一層激しく農村で増加する。出産者千人に對する死亡者の割合を見るに、昭和三年に於ける全國平均わ出産者千人に對し死亡者五百七十五人、差引四百廿五人の人口増加となつてゐるが、東京市でわ出産者千人に對する死亡者五百八十三人、大阪市でわ出産者千人に對し死亡者六百卅八人、其他の都會でも人口が多くなるほど死亡者の割合が増加し、人口増加率わ鈍くなつてゐる。東京市の最近の發表によれば、

昭和三年の人口自然増加 二萬二千五百三十八人
昭和四年の人口自然増加 一萬七千九百三十一人

即ち都會の人口わ、出産者と死亡者との差引から生ずる人口の自然増加率わ農村よりも鈍く、且つ



年々と自然増加の人数を減少している。昭和四年に於ける東京市の例によると、現住者千人に付き、人口の自然増加率わ一年僅に八人であり、百二三十年経たねば、自然増加の人口わ、現住者の二倍とならぬのである。しかるに都會の人口わ年々と急速に増加している。之わ農村の青年男女が、農村を捨て、都會え都會えと集まるからであり、之を村々の村勢一覽表に付いて見ると、どの村でも本籍人口よりも、二割も三割も現住人口が少なくなつてゐる。手當り次第の村勢一覽表から、左に實際の數字を掲げる。

町 村 名	本籍人口	現住人口	差引離村者	現住人口に對する離村者の割合
長野縣水内村(昭和二年)	四、六九九	四、〇四二	六五七	一割六分
同 縣高井村(同)	四、五四五	三、五九七	九四八	二割六分
高知縣戸波村(同 三年)	六、一八七	五、一三五	一、〇五二	二 割
山形縣大泉村(同)	三、七八五	三、四一一	三七四	一割一分
静岡縣富士岡村(同)	六、〇二五	四、八一七	一、二〇八	二割五分

之を以て見れば、農村現住人口の二割内外が都會え流れ出ている。本籍を移して都會え出た者を合算すると、大體に於て農村の自然増加人口わ、全部都會え吸収されたと云うことができる。其結果わ歐州大戦中に現われて、戦時好況の成金思想に揺られ、青年男女わ我も我もと農村を捨て、都會え走り

農村わ人手を失のをて勞力の不足から田園が荒れんとした。其情性が今日に及び、内地の農家戸數五百五十萬戸と稱するも、商工業を營むかたわら、副業に農業を營む者約三割を含むを以て、副業戸數の半數を農家と見做し、農業を以て生活する眞の農家戸數を、那須皓博士わ四百七十一萬四千戸と推定し、一戸平均五人七分の家族あると見て、農民總人口を二千六百八十六萬九千八百人と概算する。第三回の國勢調査によれば、内地人口わ六千四百四十七萬千百人なるを以て、農民わ全人口の四割でしかなく、全人口の六割が、農業以外の商工業等に從事している。だから人口割合より見て、明治維新に續く我が傳統の國粹わ完全に破壊され、全人口の四割しか農民を有しない我國わ、もはや農業を本としない都會商工本位の國と變化したのである。

覆水を盆に返えせと無理な難題わ持ち出さぬ。事實を事實として、我國わ古來よりの傳統である農本主義を捨て、都會萬能商工主義に移つたことを指摘する。何人も此事實を靜かに考え、耳を覆をて鈴を盗む、安價な胡麻化しをしてわならぬ。

純眞に純眞に我等わ事實を正視せねばならぬ。國粹擁護に言葉を借り、私わ都會集中を諷言するの
でわな。農民わ全人類に對し食糧と工業材料を生産する必要から、全人類の八割を占めなければ、
日本并に世界わ、一方に過勞に苦しんで疲弊に耐えない農民を生じ、他方に失業に苦しんで働き得な

い都會勞働者と、エルミネーションの競争をしても、賣れない商店の不景氣が、必らず出現するを正
直に警告するだけである。

今日でさえ農村の疲弊に耐えず、都會の失業と不景氣に悩んでいる。此上にも農業を賤しんで、都會
と商工業を尊重する政治と學問と教育と思想と藝術と新聞と雑誌わ、増々農村の青年男女を都會へ都
會へと集中せしめるであらうか。光陰わ早く、水の如く流れ矢の如く飛んで、二三十年が経過した未
來に於て、國勢調査が發表される時、驚くべし我國の人口わ、八割が都會に住み、農村にわ二割し
か住まなくなるであらう。毎年百萬近く増加する我國内地人口わ、三十年後に於て一億萬人となるこ
とわ確實である。都會萬能商工主義を今迄通り續けていれば、そのとき農民わやはり二千六七百萬
農民の數わ、徳川時代に於ても、日清戦争の頃と、日露戦争の頃と、今日と、一向に大差がない。三
十年後の我國農民も亦た、相變らず二千六七百萬、總人口の約八割、七千數百萬人が、東京のみにて
も千萬人、大阪にも五百萬人、京都や名古屋にも二三百萬人、全國大小の都會に密集し、政府統計局
や、東京大阪の大新聞わ、東京こそわ、大阪こそわ、世界第何位の大都會であると、西洋文明の都會
萬能主義の競争者として、名譽ある先頭を誇るであらう。けれども、其頃農村わ完全に破産し、富豪
が道樂に飼う豚にも劣る生活をさせられるであらう。日本並に全世界に、失業の洪水が押し寄せ、之

を救済しよをにも、不景氣が工場と商店を吹き捲つて、税金の取り立ても出来なくなり、全世界わ都
會の化石となつてしまふであらう。純眞に純眞に、農民も都會人も、政府者も政黨人も、學者も新聞記
者も、文藝人も評論家も、過去と現在と將來を見通して、農村と都會を區劃する人口割合の惰性直線
を見詰めぬばならぬ。

新しい主張に反對することのみを反動思想と非難してわならぬ。過去と現在の惰性のままに、正し
い方向に自己を訂正し得ない凡ての氣持と動作と政治と論說と文藝が、悉く反動である。私わ我國古來
の國粹が農を本としてゐることを指摘する。けれども國粹の故に國粹を主張するのでわなく、日本並
に全人類の經濟生活の必要が、私の口をして、我國粹に一致する農業本位の覺醒を、誤つた都會萬能
商工本位の指導原理に向つて突きつけ、彼等に十分な反省を促すのである。反動わ必ずしも國粹主義
でなく、新思想と稱して、理論と實際が指示する新しい方針に反對する、凡ての惰性と氣持と傾向
が、厭ふべき反動なのである。反動を打破し、政治の上にも、主義の上にも、思想の上にも、經濟の
上にも、また文藝や實生活の上にも、誤つた都會本位の商工思想を完全に清算せねばならぬ。全人口
の八割わ、日本でも世界でも、地球全表面の農村に散在し、君も僕も使命として農業勞働に従事しな
ければならぬ。そのとき萬人わ勞働し、しかも失業問題わ消滅し、農村の疲弊と、都會の不景氣も忘

れられるであるを。社會病理の一切わ、農村と都會の人口割合が、必要を離れる變態に原因する。之を訂正することが出来れば、日本並に全世界の社會を合理化されて、農村疲弊と都會労働者の失業と、商工業の不景氣が、共通唯一の病原菌を驅逐し、全人類を幸福な新しい安定の生活を獲得するであるを。農民並に全人類の名に於て、私わ強く之を主張する。

七 農村疲弊、失業、不景氣の根本原因

日本並に世界に於ける三大問題わ、農村疲弊と失業と不景氣である。萬年景氣を誇つた合衆米國にさえ、深刻な不景氣が襲來し、失業問題と農村疲弊にも悩まされている。歐米各國から、私の手元に毎日の如く手紙が来る。エスペラントを語る世界人が、人間學美教に對する感想を述べて、毎日の如く歐米各國より私の手元へ手紙が来る。手紙の主わ概ね失業している労働者である。獨逸ワルデンブルグのラインホルド・ワルター氏わ云う。

獨逸わ今や失業問題で危機に瀕している。現に私わ本年中に十七週間しか、働くことができなかった。今現に失業している。先月から引續き就職することができず、毎旦生活の苦悶を續けている。そをした種類の手紙が、幾通となく私の手元に来る。新聞や雜誌の報導によれば、歐米各國にわ、何處の國でも、數百萬人の失業労働者があり、其解決の如何によつてわ、どを云う變事を、世界の全表面に捲き起すかも知れない。けれども、都會萬能の商工業指導者に取つてわ、農村疲弊も失業問題も、對岸の火災でしかない。農村えわ低利資金を廻し、失業者にわ失業手當でも出し、また急かぬ道路工

事でも起して、時々仕事をさしてやればよい位に考えている。彼等に取り、最も大きな問題わ、商工業の不景氣なのである。商工業さえ好景氣に向えば、失業問題もなくなると、都會萬能の商工指導者わ、淡い樂觀の悲觀をしている。

都會萬能商工本位の經濟學者わ、景氣問題の議論に、最も大きな力を注いでいる。産業合理化等わそをした議論から起る結果であり、歐米各國にわ、景氣研究會とか、景氣觀測所とか云うものまで設けられた。

好景氣を探す景氣觀測經濟學者わ、世界不景氣の年表を左の如く發表している。

千七百二十年 世界最初の著しい恐慌が此年に起り、英國及び佛國を襲う。原因わ亞米利加及び西印度の西班牙殖民地との通商を行う目的の泡沫會社が破産したによる。

千七百六十三年 七年戦役の終了後、英國に軽い恐慌が起つたが、短期間であり、不氣景と云うほどにわならなかつた。

千七百七十二年 軽い財界の混亂があつた。

千七百八十三年 亞米利加殖民地戦争の終末後に軽い財界の恐慌が起つた。

千七百九十三年 佛國と開戦の當初、英國わ政治上の危機に臨み、短い不景氣が來た。

千八百一年 合衆米國の貿易禁止條例等が原因となり、英國え空前の激しい恐慌が來て、輸出わ三分の一以上減少し、工場わ閉鎖され、失業者や窮民が増加した。

千八百十七年 千八百十二年の戦争終了後、合衆米國に最初の恐慌と不景氣が起る。廉價な英國品の流入盛にて、米國の新工業わ閉鎖、州立銀行わ貸出を回収し得ず閉店。

千八百二十五年 流通紙幣が騰貴し、物價の平準が低落し、英國え不景氣を生ず。

千八百三十七年 最初の國際的恐慌が起り、米國から英佛え波及する。

千八百四十七年、次の世界的恐慌が起る。

千八百五十七年 合衆米國に不景氣が起る。

千八百六十年南北戦争勃發のときにも米國に不景氣が起る。

千八百七十三年 第三次の世界恐慌が壞國に始まり、英米獨に及ぶ。

千八百八十二年 佛國株式界に恐慌起る。

千八百八十四年米國に一年間の不景氣が續き、千八百九十一年英國に甚しき不景氣が起る。

千八百九十三年 米國に激しい恐慌が起り、英獨に波及し、千八百九十五年迄歐洲各國を不景氣にする。

千九百三年 好況わ千九百年に頓挫し、英獨佛米に不況が來り、千九百三年紐育に金持の恐慌が起り、千九百五年より好況に向う。

千九百七年 千九百六年紐育と倫敦の工業會社株券が低落し、翌年激しい恐慌となり、千九百十年に英獨の景氣わ直つたが、米佛わ逆に不景氣となり、千九百十二年迄景氣恢復せず。

千九百十四年 世界戦争わ米國に恐慌を生ぜしめ、翌年回復して好景氣となる。

千九百二十年 千九百十八年十一月休戦と共に事業界の不振が始まり、千九百二十年の大恐慌となる。

以上の世界年表によれば、今日より五十年前までわ、不景氣わ十年目に一度位、ほんの短期間循環して來たに止まり、恐慌から恐慌迄を約十年として、十年目に不景氣が循環して來る程に氣樂な觀察をしていた經濟學者わ、不景氣の原因を簡單に考えて云う。好景氣が續くと商工業者が有頂天になり、事業の擴張をやるから、生産が過剰だし、此に恐慌が起るが、一度恐慌が起ると、事業界わ整理され、需要よりも却て供給が不足し、物價騰貴となつて、好景氣が回復すると、誠に簡單に考えていた。この考え方で、大體千九百年の初頭まで説明できた。しかし最近二三十年間の不景氣わ、淺薄な景氣循環説でわ説明できなくなり、扱てこそ歐米各國え、景氣觀測所の類が續々と設立されることになつたのである。

最近二三十年間の事實によれば、好景氣わ短い期間であり、殆んど不景氣が常態となつている。併し智者の商工指導者が絶えず無用な過剰品を生産する筈がないので、需要供給の理窟から來る景氣循環論でわ最近の不景氣わ説明が出來ない。四五十年前迄わ好景氣が常態であり、不景氣わ例外であつた。不景氣の及ぶ範圍も狭かつた。しかるに年を経るに従い、最近の二三十年間わ、不景氣が常態で景氣の好いわ例外である。不景氣の及ぶ範圍も世界文明の各國に擴がり、特に最近二十年間の不景氣わ、農村の深刻な疲弊と、失業保險さえも救い切れない失業者の大洪水を捲き起し、即ち不景氣わ前よりも次、次よりも後と、年を経るに従い、起る度數と、續く期間と、及ぶ廣さと、深刻の程度に於て、加速度に益々猛烈となり、有史以來の經濟界に嘗て見ざる、殆んど不可解の謎を投げかけた。社會主義者わ、資本主義經濟が末路に近付いた瓦解の前兆だと見る。しかし資本主義わ益々合理化され、企業の連合や合同やトラストで、都會萬能商工本位經濟が歐米に繁榮を誇つていて、儲ける者わ、どんな不景氣でも益々儲けている。共產主義の露西亞さえ新經濟政策が資本主義と妥協し、亞米利加方針えと振り向きつゝある。社會主義を實行しかけた獨逸にも、英米に劣らぬ失業者がいる。假りに全世界が資本主義を倒し、社會主義を實行したとして、もし社會主義が、都會萬能の商工本位經

濟を續けるならば、決して農村の疲弊も、都會勞働者の失業も、商工業の不景氣も、現代の惱みとなつてゐる社會の三大問題わ、少しも解決されないことを斷言し得る。露西亞が社會主義を訂正しつゝも進んで行かれるのわ、露西亞人口の八割が農民だからである。

右翼も左翼も、今迄わ問題の所在を誤認していた。心を平にして、根本の眞原因を見極めなければならぬ。政治わ末で、本わ經濟である。主義わ形式で、實質わ生活である。法律わ所有を規定しても我等わ現實の使用を獲得せねばならぬ。

農村と都會の關係を見詰めるとき、一切問題の根本原因を掴むことができる。農業わ全人類生活の基礎であり、全人口の少なくとも八割が農業に従事しなければならぬのに、誤つた歐米都會萬能論者わ農業を捨て、都會え都會えと集中させた。この誤謬から農村疲弊と失業と不景氣が、發熱して頭痛と心臓の鼓動をも同時に高めた。この上無理を續ければ、社會と人類の破産と死滅でしかなくなる。

都會萬能の誤謬が歐洲の大西洋側に起つたとき、彼等わ新大陸の野蠻人を搾取した。南洋土人もも搾取した。東洋え進出して、印度人や支那人や、我等の祖父母と兄弟さえも搾取した。都會萬能の搾取商工業が西歐に開始されて三百年、爾來彼等わ好景氣を續け、餘り有頂天になり過ぎて、時々生産過剰をしでかしたとき、短期の不景氣に見舞われた。けれども絶えず新しい市場わ開拓され、循環し

て來る短期の不景氣を蹴飛ばして、千九百年の初頭までわ、破竹の勢で歐米都會萬能の商工主義わ發展を續け、其模倣に後れなかつた我國も、一等文明國の末坐を汚した。

支那も印度も南洋も亞弗利加も、世界の市場を開拓し盡した商工業わ、もを新たに顧客を得る場處がない。神妙に自覺して、都會の規模を千九百年初頭のまゝに維持していれば、不景氣も失業も農村疲弊も深刻にわ起らなかつたであらう。けれども、工場わ工場と競い、會社わ會社と戦い、商店わ商店と争ひ、國と國とも、都會と都會とも、商工業の發展と、事業と勢力の擴張に餘念がない。永い間の平和な商工業戰を有利に導く爲め、各國の政治と教育と文藝と新聞と言論わ、夫々自國の人心をして農業を賤まし、頭の善い青年男女の全部を都會え總動員する計畫を立て、我國知識階級の全部も斯く教育されて來た。堰を開いた奔流を、途中で支えることわ不可能である。國內總人口に比べて多過ぎる商都會人わ、世界總人口に比べても多過ぎだした。此に世界的に人口割合が破れ、其結果わ農村の疲弊と、都會勞働者の失業と、知識階級の就職難、並に商工業それ自身の不景氣となつたのである。人口割合が破れるにつれ、不景氣わ期間と區域と深刻さを増し、遂に解決されない農村疲弊と失業問題の苦悶を道伴れにした。人口割合が益々破れる將來、不景氣と農村疲弊と失業問題わ、結局どをなるとあるをか。

都會を知つて農村を知らない政治家や經濟學者や思想家や文藝評論家にわ、失業や不景氣の眞原因が解らない。彼等わ今にも景氣が直ると云う。なるほど景氣わ直るであるを。しかし又直ぐ不景氣が來る。次に來る不景氣わ、もを一層猛烈であるを。長い間、その不景氣が續く。政治家や學者や評論家等に、まだ其原因が解らず、低利資金を農村え借したり、急がない道路工事で失業者を救濟したりしている間に、また景氣が直る。しかし又直ぐ、前よりも遙かに烈しい不景氣が來る。なぜなら、都會萬能の誤謬思想訂正されず、都會え都會えと農村青年男女わ集まり、世界の文明わ相變らず、都會萬能の商工主義を保護獎勵し競争さすからである。

根本を見詰めて、完全に誤謬を清算せねばならぬ。幸にも我國にわ天祖以來の國粹農業立國の大本がある。西洋文明の形式を打破して、質實な農業立國の大本に歸らねばならぬ。都會萬能の商工主義の尻馬に乗つて、歐米各國と競争しても、彼等と同じ材料の天恵がない我國に、何の成算があるか。翻つて農業を見れば、氣候温和の天恵がある。國本の農を捨て、何の爲に歐米商工都會國の如く、我國をも破産せしめんとするか。

歐米商工都會國が、未開農業を搾取し得られる間わ、自國の農民わ餘り大なる被害者とならなかつた。しかし歐米商工都會國が、未開農業を搾取し、なをも商工業の仕組が擴げられると、遂にわ自國の農業をも搾取せねばなくなる。此に世界の農村疲弊が大きな問題となり、それにも頓着せず、なをも益々都會と商工業を擴げて、遂に世界人口の總割合を破ぶり、商工都會人が増加するとき、深刻な不景氣と失業と就職難とが、種々な社會の病氣を昂進するわ必定である。純眞に純眞に根本を見詰めて、我等わ今後の對策を協議しなければならぬ。

堰を開いた奔流わ、途中で支え得ない。突然と廻れ右の號令をかけても、都會より農村え群がり歸える失業者の大群を、農村わ如何ともすることができない。茲に現實の惱みがある。禍を轉じて福となし、農村の疲弊を救うと同時に、失業も不景氣も根本から無くする、農村振興の永久策を、私わ順序を逐い説述するであるを。

八 社會惡の一切を清算するもの

原因が判明すれば、方法務必である。農村疲弊と、失業と、就職難と、不景氣の、根本原因が、農村と都會の人口割合が狂うたことであると判明すれば、此誤謬を訂正して、人口割合の狂いを直すこととわ、さまで困難であるまい。天祖以來の國粹に復歸するのであるから、明治以來の五六十年間の短い誤謬さえ訂正すればよいので、我等日本人に取り、比較的容易なことではなければならぬ。

適當な方法によつて誤謬が訂正されたとしよを。農村と都會の人口割合が改まり、人口の八割を農村にゐて、食料と諸原料の生産に勵み、人口の二割を都會にゐて、精巧な動力機械を動かし、諸原料に加工し、また學問や治療や文藝の類の文化事業に勵むとしよを。そのとき完全に社會の種々な罪惡が除かれて、全人類が幸福になる。

地球が廣い。地球面積の十分の一も、まだ開墾されて利用されてをらぬ。狭い日本でさえ、田畑は六百萬町で、總面積の一割六分にしか當らぬ。日本面積の八割は、山岳原野のまゝに放棄されて、植林さえも行届いていない。だから人口の八割が、地球の全表面に散在して、有效な農業をすることにな

れば、世界の萬人が悉く働き得られ、失業問題など忽ち消えてしまふ。耕作して働けば、世界の何處で百姓しても、生活に決して不足せぬ筈である。

世界のことわざで置き、我が日本にも全面積の八割を占める廣大な山岳原野がある。水田のことしか考えないから、山岳原野を顧みずにあるが、水田のない諸外國で、獨逸でも佛蘭西でも、また日本の如く山岳が多く、平野の少ない伊太利でさえも、總面積の四割以上を開墾して畑を拵らえ、麥や玉蜀黍や馬鈴薯の類を作り、牛や豚や羊の類をも無數に飼育している。獨逸よりも佛蘭西よりも、遙かに氣候の温和な我國で、山岳原野の開墾が出来ない筈はない。私わ昭和二年以來、富士南岳の愛鷹山に於て、海拔千六百尺の高處え、葛山かつらやま共働農場を開き、畑の作物に依つて、完全に自給自足の生活をしている。財界の元老益田孝氏も、二十年以前に、將來の人口問題を憂えて、源頼朝旗擧の地、神奈川県小田原町郊外の石垣山を開墾し、數十町の農園を設け、畑の産物、例えば玉蜀黍と大麥を加工し、玉蜀黍を製粉してパンに作り、大麥を潰してベーレーミールを作り、自身が率先して之を常食とし、八十幾歳の老齡で壯者を凌ぐ元氣である。主張を同じくする共働學校終業の農村青年が、本年から其農場の一部を預ることになつた。

東京に行つて見るがよい。もし雨の降る日に芝公園の屋根のある共同ベンチを腰を卸そをと思ふな

ら、何處も満員であるを發見するであるを。無理に其中に割り込んで、先客の語り合うことを聞くがよい。彼等の悉くわ宿る處もない失業者である。天氣の好い日でも、深川の清澄公園に行つて見ると光景も同様である。其處わ岩崎家の別荘を解放して、公園にした處であるが、其處のベンチの執れもだるそをな失業者で一杯になつてゐる。彼等わ幾日も仕事がなく、幾日も食わない失業と生活難を、有りのまゝに、やる瀬なく語り合つてゐる。

働けない失業者の群よ。働きたくも働けないほど不幸わない。働かずに食えれば、吞氣でよいとも思われるが、子供でも肉體を活動さゝすにいと、仕方のない倦怠と、やる瀬のない淋しさを覺える。働かずとも、野球や玉突でもして、遊んでいれば、それわよい。けれども、食えない失業者が、野球や玉突をして遊べる筈がなく、公園のベンチで、晝間わ通行人から異様の目で見られ、夜になると巡回の巡查に追い立てられ、氣まずくベンチの上に坐つてゐる失業者わ、やる瀬なく淋しい無意味な日々を送つてゐる。

労働こそ、人間の特權である。労働によつて、我等わ肉體の發育を旺盛にし、血液の循環から、諸内臓の分泌作用まで刺戟して、諸機能を活潑ならしめ、肉體を健全に發育さすことができる。健全な肉體に、健全な精神が宿る。働かさず、遊ばさず、ベンチに坐らして追い立て、見たり、にらんでみたり、それでいて、彼等に思想の健全を望むわ、山で魚を育てるほどの錯誤である。

大江廣元わ、大磯小磯の遊び人や浮浪者を捉え、多摩川原に移して、今日の大東京附近を開墾した。上杉鷹山が米澤に移されたとき、雪國の男女が長い冬を空しく暮し、酒と賭博で風俗を亂しているを見て、彼等に副業を授け、米澤織物が名産となつた。古今の相違わあるが、人心に相違わない。失業問題の解決にわ、無駄な失業手當を與えるよりも、彼等に筋肉労働を與えねばならぬ。

職業紹介所さえ設ければ、失業問題が解決されると誤認してわならぬ。職業紹介所わ職業を作らず、たゞ解雇と就職の統計數字を膨脹せしめるに止まり、産業合理化に都合よい機關である。失業救済にわ、職業そのものの増加以外に、斷じて方法がない。

急がぬ土木工事、そんなもので失業問題が解決できると思てはならぬ。失業が十年位に循環して來る一時の不景氣に基づくものなら、一時を救う爲に急がぬ土木工事でも起せば、失業者に筋肉労働を與え得るが、失業の根本原因が、農村と都會の人口割合の破壊にあると判明すれば、捨てられてゐる山岳原野の開拓以外に、果して失業救済の根本策があるであらるか。

山岳原野が開發されたとしよを。幸にもそをしたことに依つて、都會の過剩労働者も、過剩商人の落伍者も、山岳原野を開拓しての農場え收容されたとしよを。今後、生れる農村青年の次三男も、ま

た山岳原野の農場を迎えられるとしよを。かくして、若しも人口割合が訂正されるならば、それに従い農民の数が増加するのであるから、農民の購買力が増し、一方に都會商人の幾割かわ落伍して淘汰されるのであるから、即ち一方にわ農民全體の購買力が増し、他方にわ商人の数が減じるのであるから、都會に残っている商人の顧客が殖えて売上げが多くなり、商賣が繁昌し、不景氣でなく、好景氣となる。だから、不景氣を好景氣にするものわ農村の振興であり、農村を振興するものわ都會でなく都會を振興するものが農村である。農村が振興され、それに續いて、都會が振興されると、失業問題も消滅する。若し尙ほ失業者がいれば、彼等をも山岳原野の農場へ收容すればよい。

失業問題を解決し、不景氣を退治するにわ、先づ農村を振興せねばならぬ。農村の人口が多くなり、山岳原野が續々と開發され、緩斜地かんしゃちにわ畑や牧場ができ、急斜地きゅうしゃちにわ植林され、山の中腹を縫うて自動車道が通り、家も建ち、花も咲く。をしたことを眞の農村振興と云ふ。

山岳原野まで開發されると、必ず農産物が殖える。農産物が殖えると、供給過剰となつて、農産物の價額が暴落せぬであろをか。心配無用である。農民が根本に於て、自給自足を生活の基礎とし、餘る物を賣つて、不足する物を買うことになれば、よし賣る物が安くなつても、生産物の大部分わ自分で消費するから、大して農民に取り損害とならぬ。自給自足の基礎を破壊し、凡てを賣らして、凡てを買わすとき、農産物の下落わ、農民生活の致命傷となる。

農村が山岳原野に擴がれば、山にわ材木があり燃料があり、建築用の石があり、家畜を飼うに青草があり、家畜を飼えば肥料ができ、牛からわ乳、鶏からわ卵、豚からわ肉、繭からわ生糸、木材わパルプにして紙等に變形される。冬期農閑にわ勞力が餘るから、部落農民が適當に分業すれば、大工も鍛冶屋も指物師も、十分に稽古することができる。豆があるから味噌を作り、麥があるから醬油を作り、生糸で織物を作り、牛皮で靴を作り、それだけ自給自足すれば、都會からわ最高級文化生活需要品さえ買えばよくなる。全國の山岳原野を、もし農民が最有効に利用することを許されるなら、全農民わ十分な努力をして、日本全土を完全に利用し、農民自身の生活需要を十分に満足しても、なを餘る食糧と工業原料を豊富に都會へ送るのであるを。をした過剰生産品と交換に、都會わ高級文化製造品を農民へ送る。搾取わなくなり、都會と農村わ此時、始めて車の兩輪となる。社會惡の一切を清算するものわ、農村と都會の人口割合を訂正することであり、農村が全人口の八割を占めて、先づ十分に振興されてからでないに、都會勞働者の失業問題や、都會商工業者の不景氣わ、決して根治されぬのである。全人類生活の基礎となる農民を破産さして置き、都會の失業者のみを救い、商人工業家だけの好景氣を保證することわ、絶対に不可能である。國の基礎から鞏固にし、其の上に文化を繁榮さ

せねばならぬ。

方針を決定した。前途が明るい。けれども如何にして、山岳原野まで開拓し、肥料を自給する有畜農業を普及さし、全農民の生活を自給自足の基礎に引き戻すか。大江廣元の故智を真似て、都會失業者に山岳原野を開かそをとしても、山岳原野の上にさえ、窮屈な所有權が確定し、また農業を知らない者に、平野の百姓以上に困難な、山岳原野の開拓と、苦勞の多い畑作農業が出来るかわ疑問である。まして有畜農業と農産加工の自給自足をさすにわ、莫大な資金と熟練の技術がいる。此に困難な實行問題が横わる。それよりも先に、五十億萬圓以上の農村負債を如何にするか。方針を決定しても、實行に重大な難關がある。之を突破して、現實に農村を振興するものわ、共働組織による、部落の農事組合と其聯合である。其詳細を述べる前に、従來行われて來た農村振興策の無効であることを指摘せねばならぬ。なぜなら、病氣の原因が判明しても、治療の方法に迷うと、病氣が治らない。病氣に罹れば、信賴する醫者の處方に従い、苦い藥を飲み、またわ外科手術さえも受けねばならぬ。けれども神佛への祈願や、膏藥張りで治ると錯誤していれば、醫者の指圖に従うことができない。我國農村の疲弊わ、既に瀕死の状態であり、此上に何時までも、ああでもない、こをでもない、在來の農村振興策に迷をていれば、光陰わ矢の如く、二三十年わ直ぐ經つて、内地人口が一億萬人となつたとき

農村と共に我國都會が破産するであろうを。無効な議論を止めさして、唯一根本の治療方法え、指導者と農民大衆の心に向けさす爲めにわ、在來の農村振興策の無効であることに付き、概略の了解を與えねばならぬ。

九 農會わ何をしたか

種々な方法が、農村を振興する對策であると提出されて來た。それ等の一つなりと眞に効能のあるものなら、農村わこんなにも疲弊の底え行詰らなかつたであるを。今日農村が行詰り、破産と瀕死の状態にあるわ、過去に提出された一切の方法が無効であることを確實に語る。農會や産業組合や低利資金や農事改良の諸制度や多收穫や多角形農業や副業や移民や開墾助成や農事教育や畜産奨励や、大體に於て此等が現在と過去に採用された農村振興策である。本書わ過去の批判をするが目的でないから、極めて簡単に此等の諸策が農村振興に役立たず、往々にして逆に農村の疲弊を増したことを略述するに止める。

獨逸の制度に倣い、我國農村え、帝國農會を主腦とする系統農會けいとくが設けられた事情に付き、詳細を語る必要わない。市町村に市町村農會があり、其上に府縣農會があり、東京丸之内に帝國農會がある。表面わ自治組織であるが、實わ系統農會、即ち中央政府の特別機關である。事務わ市町村の技術員が執り、府縣農會や帝國農會の役人わ、政府側の當局者が指名する。

機關わ人によつて動く。だから人を見れば、系統農會の正體を知ることができる。町村技術員の大部分わ、地方農學校を卒業し、縣立農事試験所の短期講習を終えた若年者であり、實際農業の經營にわ、何等の素養そやうも經驗もない者である。

指導者わ經驗者でなければならぬ。經驗なき者の指導わ、單純な取次ぎとしかならない。實際系統農會の任務わ、取次ぎ役をするに止まる。恰も現代の國民教育が、師範學校を卒業したばかりで、實生活に何の經驗も徳望もない若年者の教員によつて行われる爲め、教育わ品性の淘汰とたうでも、人物の教養でもなくなり、單純な讀書算術程度の知識の切賣りでしかなくなつた如く、系統農會の第一線に立つ町村技術員が、農業經營に無經驗な若年者であるが爲め、下より上に向い統計を報告し、上より下に向い、農事試験所の成績を傳達する取次ぎ機關でしかなくなつた。系統農會の順從な官僚機關、我國農會の正體わ、ただ之である。

しかしながら、一反平均一石の收穫しかなかつた我國農事を、技術的に向上さして、一反平均二石以上としたことわ、試験成績と、統計報告の系統的な取次ぎ農會に對し、十分に認めてやらねばならぬ過去の功績である。

過去に於ける農村振興わ、結極する所、農事改良であり、農事改良わ多收穫を目標とした。永い間

の農事改良多收穫獎勵時代にわ、農事經營に無經驗な農會技術員と、縣農會技師と、帝國農會幹部で宜しかつたのである。

技術わ小手先の劍道に類し、經營わ度胸と兵法に類する。技術を重んじて經營を無視した處に、農村今日の疲弊と行詰りがある。だから過去に於て系統農會わ、農村技術を進歩せしめた功勞わあるが經營難の農村疲弊が破産の状態にまで行詰つた今日、系統農會が在來の儘でいれば、無用な過去の遺物でしかなくなる。農會費の負擔に窮して、町村農會廢止の聲が起るも、理由がないのでわない。

一〇 産業組合わ何をしたか

産業組合わ強ち農村振興の爲めに生れたものでわないが、産業組合の管轄わ農林省であり、産業組合の講座わ農科大學に置かれていて、産業組合關係者にわ、農學出身の者が多い。一萬數千の全國産業組合も、大部分わ農村にあり、事實に於て産業組合わ、農村振興の別働隊として生れた觀がある。農村産業組合の最も主要なものわ信用組合である。次で購買販賣利用組合があり、農業倉庫さえも其傘下に經營されていて、農村の經營を主催する者わ、産業組合であるかに見える。

信用組合わ獨逸に初まる。獨逸に於ける信用組合の創立者、ライフ、イゼンの方針に従ていたならば、確かに農村を振興するに功勞があつたのであるを。

千八百四十九年ライフ、イゼンが獨逸のウエスタールドえ設けた信用組合、並に其例に倣う本當の信用組合でわ、小作農民え躊躇なく長期の低利貸金をする。けれども誰にでも貸金をするのでなく各組合の區域を狭くして置いて、正直で律義な人ばかりに貸金をする。組合の區域内にいる人わ、貧乏人も金持も組合に入れ、金持からわ貯金を預り、また無報酬で役員などになつて貰い、從て報酬を

支拂う現金出納係だけであるから、組合の経費殆んどいらぬ。組合各組合員に付き勤勉で正直で平生から借りたものを律義に支拂う善良な習慣があるかを豫め調査し置き、借入の申込があると、ことをした信用調査で良い習慣があると決定されている者に限り、借入申込の目的が農業資金である場合にわ、無擔保に長期低利の金を貸す。しかし借入のとき申込んだ目的以外え其金を使うことを許さない。區域が狭いから、借入後の用途を監督することができる。ことをしたことを勵行する信用組合をライフ・イゼン式と云い、獨逸の農村でわ、専ら此種の信用組合が設立されている。此の信用組合わ平生から勤勉で正直で律義な者にしか、しかも生産上の資金しか貸さないものであるから、無擔保でも貸倒れになる心配わない。貸金を返す資格わ、擔保や財産よりも、返す意思と返し得る事情である。ライフ・イゼン組合わ勤勉で律義で正直な組合員だけに、無擔保で長期の低利生産資金を貸すから、ことをした信用組合が農村え設けられると、それだけで農村の氣分が改まり、農村が振興されるのである。しかるに我國の信用組合なるものわ、ライフ・イゼン式とわ、似ても似つかぬ偽物である。

昭和元年農村行脚の第一回を栃木縣に試みたをり、私の發見した事實を、アルス文化大講座の第一卷消費組合論に掲げた。左に之を轉載する。

全國一萬四千五百の産業組合中、其九割迄わ信用組合、又わ信用組合を兼營する購買販賣利用組合である。一縣内に二箇所位わ優良組合があるを。併し一郡を端から端え村廻りすると、良い組合に出遇うわ、一ヶ月歩いて一回もあるまい。最近私の行脚わ栃木縣芳賀郡の各町村に向けられた。

上三川町に信用組合がある。農業倉庫を兼營し、其方でどをにかやつている。信用組合わ資金が固定し、不活潑にしか動いてをらぬ。中村にある信用組合の方が成績が宜しかるをと教えられ、鬼怒川を渡つて中村え行く。日進信用購買組合とゆうのがある。縣廳え報告される農林省えの統計材料にわ、先づ模範的の數字が並んでゐる。最近の事業報告わ

資 産		負 債	
拂込未済出資	二四・〇〇	出 資 金	九、八六六・〇〇
預 金	九・七九	借 入 金	五、〇〇〇・〇〇
什 器	一九五・三六	貯 金(員内)	二、一六八・二七
貸 付 金	二二、四〇九・〇二	貯 金(員外)	一、〇三五・〇〇
建 物	一、〇八二・九六	掛 買 金	二、五三五・三五
賣却未收	三、七四一・六一	諸積立金	九、九一三・〇〇
未收入利子	五、六一五・四〇	本年剩餘金	一、一八九・〇〇

諸積立金が九千九百圓あり、本年剩餘金が千二百圓もあるので、上三川町組合が郡中の模範だと私

に教えたも道理である。處が實地に行つて見ると事業を休止して整理中だとある。理由わ貸付金が元利共に延滞し、其うえ酒や味噌諸雜貨の購買代金を支拂う者がないとのことである。

中村に三徳信用組合と云うのがあつた。某名望家が組合長で、遍照寺の住職が専務理事で、一時わ盛大であつたが、遍照寺の住職先生八千圓を使い込んで組合を解散になつた。同村に若旅信用組合と云うがあつたが、之も日進組合同様の運命に陥つて解散してしまつた。

中村の隣に物部村とゆうがある。二宮尊徳翁居住の地である。數個の信用組合があるが成績わ振わない。……眞岡町に信用購買組合がある。此組合にも前組合長の大きな使い込みがあり……信用事業を休止し、農業倉庫法の保護による農業倉庫の兼營で組合を維持している。郡内第一の模範村逆川村にわ植林に付き特筆大書すべき実績があるが、信用購買組合の資金が固定し大苦しみである。併し模範村であり、村長が組合長を兼務して立派な農業倉庫を茂木町に持つてゐるから、何とか局面の展開わ出來そをである。私が訪問した時わ善後策協議の最中であつた。

ライフ・イゼン式とわ全然反對の方法に依つて經營されている我國の信用組合わ、一般下層農民に生産資金を供給するよりも、組合長理事有力家に、贅澤費用や相場の資金を融通し、大口貸金が固定して、農村よりも先に、農村を振興する機關の産業組合から、疲弊と破産の第一聲を揚げた。農村を

振興せずして、逆に農村を疲弊と破産に引張り込んだものが、信用組合を中心とする産業組合だと云うことができる。

信用組合の外に、産業組合にわ、購買販賣利用組合がある。其等も丁抹の如く、或わ英國ロチデル市に於ける、世界最初の開拓者組合の如く、正義と理想を以て正當に經營されるならば、確かに農村を振興する一助となつたであるが、自治を失のをて、系統産業組合の天降り式により、農村を振興する注意からよりも、寧ろ都會商工業者の無手数料代理店として働かされてきた結果、少しも農村振興の役割を果していない。

購買組合があると、都會の間屋わ大量に商品を捌くことができる。信用購買販賣利用組合の事務員わ、事務所に坐つて、商品を扱う知識に缺けた素人であり、氣位わ小さな銀行の支店の月給取りであるけれども、狡猾な問屋の番頭にわ、半纏を着せられた案山子位にしか見えぬ、村の小賣商から返えされた不良品を、其足で其村の購買組合え持込み、この品わ最新着荷の優良品だ位の驅け引きをする。

購買組合わ中間都會の商人に取り、誠に都合の好い家賃のいらぬ販賣所である。

農産物の出荷を取扱う販賣組合わ、名實共に都會の間屋の無手数料代理人である。從順に都會問屋の指値で、農産物一切を取纏めて積出して呉れる。生産者より直接に消費者えでなく、生産者の生産

物を取纏めて、都會の問題を便利に荷送りする販賣組合の效能を、都會萬能商工主義の機關でしかな
5。

利用組合にわ善いものがある。群馬縣の碓氷社^{うすひしや}わ、明治十一年から農民の藪を集めて、村々で組合
製糸にしている。利用組合によつて、製糸其他の加工に伴なう工賃が村々落ちる。確かに善いこと
ある。しかし其位^{せいぐらひ}でわ農村を振興されない。全国各地の組合製糸が破産に瀕し、或わ完全に破産し、
隨分と農民に迷惑をかけた例を列挙に暇がない。碓氷社も危機に瀕しているが、堅實なものもある。
一步を進めて何故に生糸を完全な製品として、直接都會の消費者を賣り出さぬか。利用組合の手と足
を縛り、そをしたことをさせない無形の方針こそ、明治政策の骨子をなす都會萬能商工本位主義なの
である。系統産業組合わ此主義に縛られ、従順な取次役であり、また農民自治の眞正な組合と其聯合
を未然に邪魔^{じま}せんとする癡醉劑^{まどろけざい}である。

一一 低利資金を何をしたか

信用組合と云えば、低利資金を聯想さす。過去に於て農村を救うと云えば、必らず低利資金を貸付
けることであつた。政府も政黨も農村に人氣を取る爲にわ、種々な名目で必ず低利資金を貸付けた
農村の疲弊を本當に救う爲めに低利資金を貸付けるのなら、方法に依つてわ、低利資金誠に結構で
ある。けれども過去に於て貸付けられた低利資金わ、不純の動機と方法を持つていた。

低利資金とわ、二十數億萬圓の郵便貯金を主とし、大藏省預金部の保管するもの、簡易生命保險の
積立金なども、低利に融通されるものを云う。下村宏氏の財政讀本にわ、大藏省預金部資金の性質を
左の如く記述する。

大藏省にわ預金部特別會計とゆうのがある。其資金わ一般會計と相伯仲し、しかも一般の歲計わ
豫算あり決算あり會計検査院あるに反し、預金部の資金わ大藏大臣の管理監督の下に日本銀行をし
て運用を取扱わしめ、大臣の一存によりて自由に放資せらるゝが故に、或わ打出の小槌とも玉手箱
とも云われ、又伏魔殿と稱せられた。預金部の資金わ、郵便貯金及振替貯金、貯蓄債券賣却代預金

各特別會計其他預金、預金部積立金等より成り、その運用に大體資金を供給せる者に緣故の遠き在外資金の運用上の安全辨たる國際投資と、緣故の深き在內資金の安全辨たる國內投資に二分せられる。

國際投資としてわ、英國大藏省證券、同國庫債券、米國大藏省證券、同戰勝公債、在外預金等、歐米に投資せる三億餘圓の問題なけれども、彼の團匪事件の賠償金として政府の取りしものを買ひとりし支那政府債券三千四百萬圓の如きわ無利子同様である。又國內投資としても鐵道會計貸付の一億八千七百萬圓の外、預金部の資金の大部わ公債及特種銀行債券の背負込所避難港となつて、國債が財界不況等により消化不況なるときわ、常に預金部にて之を引き受け、積り積りて二億圓を突破して居る。又勸業債券、興業債券、地方債、其他の社債券に投資せるものわ、資金供給者に近き者に廻り／＼つてゐるものであるが、中にわ此等銀行を通じて縁遠い政商救済に向けられしものが少なくない、國際汽船、帝國蠶業、其他此種の特種貸付も相當にある。元利共フイになりつつある所謂西原借款中政府保證の債券のみにて一億圓、此延滞利子だけで四千萬圓を超過して居る。預金部の資金運用に對してわ國民わ無知なるが爲め、議會わ之を知るも、之によりて利を求めんが爲め、漫然として財政の弊害を助長し、遂に今日に至つたもので……大正十四年度濱口藏相の時

資金運用委員會を起してその運用を監督することとなつた。(財政讀本二三四頁)

預金部わ伏魔殿でもあり、特殊銀行の避難所でもあり、資金運用委員會の監督を受けるが、其委員わ重に金融關係者であるから、表面體裁のよい農村救済の爲の低利資金も、實わ勸業銀行や農工銀行等の金融業者をして私腹を肥やすに役立つてゐる。

農村に對する低利資金の大部分わ、産業組合を通じて貸付けられる。其他にも、耕地整理や水利組合等に對しても貸付けられる。時の政府の方針に従ひ、大藏大臣の一存によつて、かなり政略を加味して貸付けられる。産業組合わ組合長理事監事に、夫々町村の有力者を網羅してゐるから、低利資金の貸下げを受けるに、時の政府の特別な政略が動かないと考へるわ、寧ろ不思議な想像である。産業組合わ出資金を限度として、組合長理事役員も其以上の責任を負わぬ法律上の規定となつてゐるに拘わらず、さて低利資金の貸下げを受ける段となると、組合長以下役員一同の無限責任連帶保證に依つて、組合が借入れることになる。低利資金が産業組合をも伏魔殿とし、農村を振興せずして、逆に不徳と破壊に導く原因わ斯した處に發生するのである。

組合長以下役員連帶無限責任を以て借入れた低利資金であるから、其資金が組合の本來の目的に使用されず、例えば信用組合え融通された低利資金が、組合長以下理事監事の役員の間分割されて

不當貸付となり固定するわ、寧ろ當然である。

長野縣下伊那郡龍丘村え、私わ二回も訪問した。其村の統計表わ、外面的にわ其村が非常に豊であるらしいことを示す。昭和四年四月調の同村一覽表によると、

田	二千二百九十四反
畑	千四百六十五反
戸	七百六十九戸
現住人口	四千五百四十二人
米收穫高	二千六百三十八石
生糸賣上高	四十七萬八千八百八十圓
金	六萬六千七百五十七圓
租	六萬八千五百四十八圓

此村にわ産業組合があり、村内の繭を悉く集めて生糸にしているから、村民の収入わ生糸の賣上代金四十七萬八千圓であり。米の不足を三千石と見做して、其買入金高九萬圓に、金肥六萬六千圓、租税六萬八千圓を加えて、合計高二十二萬五千圓を支拂い、殘金が二十五萬三千圓、一戸平均にすると三百十六圓程で、全國でも豊かな村でなければならぬ。

私わ隣村の三穗村へ行つていた。龍丘村から數名の有志が来て、無理に其村え連れて行かれた。最初に其村え連れて行かれた晩、私の泊つた家で、座談會が催され、村中の有志が老人も青年も集まつて來た。座談會の話し始を、一番の老人がした。一體村の借金わ幾等あるかと云う質問が切り出してあつた。若い青年が答えたのに、後で聞けば其青年わ村の信用組合の常任である、村の借金わ七十萬圓位であるらしい。老人わ、いやもつとある、少なくとも百萬圓ある。だから、どをしてもやつて行けない。第一私が遣り切れない。仕方がないから忤に財産を譲る話をする、忤わ受取らぬと答える。理由を聞くと、お父さんが爺さんから受取る時わ瑕なしであつた。瑕のあるものわ受取れぬから、無瑕の物にして呉れ、そをしたら受取ると云うので、俺の力で無瑕にできれば、お前に渡すと云わぬが俺の力に及ばぬから、若いお前の力を頼むのだと談じて見たが、忤わ中々承知して呉れない。私達老人の力でわ、もを到底借金の整理わできぬから、青年の奮起に俟たねばならぬと、非常に意外なことを、其老人が一同の者に云うを聞かされた。其老人わ龍丘販賣利用組合と云う産業組合の組合長、即ち村中の經濟力を握る組合製絲の組合長なのである。其席上で老人や青年が續々と種々な意見を吐き合つた。或る青年が信用組合の組合長がけしからぬから改選しろと勇敢に提案した。すると組合製絲の組合長老人が、いや矢張り彼を組合長にして置かぬと、彼わ責任を感じなくなるからいかぬ。組合

長にして置けば、彼も責任を感じて幾分かなりと拂う氣になるだろを。信用組合の組合長が眞先に大きな貸付かりづかりをして、利子も支拂わず固定している。こをした事情で龍丘村わ、村勢一覽の統計でわ非常に豊に見えるが、内實わ全村民が破産せねば解決できないほどの借金を背負をている。我國農村の負債總額わ少なくとも五十億萬圓であり、私の居村の葛山かつらやま二百戸部落中、駐在巡查の調べによれば、借金のない家わ三戸しかないと云うことであり、見る影もない荒家の農家でさえ、無盡等々の借金が、必らず千圓以上もあるのである。

明治四十四年に於ける農家負債の總高わ、大藏省理財局の調査によると、七億四千六百萬圓であつた。農村疲弊の聲に驚いて、最近政府で調査してみると、五十億萬圓に達するとゆうことである。しかし此數字の中にわ、商店からの掛買かひいしている品物代金や、醫者えの滞り、個人の隠れた高利貸からの借金の全部わ含んでをらぬから、或る農村通わ我國農家の負債總額を百億萬圓と推定する。我國の公債わ約六十億萬圓だが、其中外國債わ十五億萬圓に過ぎない。農民の負債わ少なく見ても五十億萬圓なので、日本全體の内外公債の合計を獨りで背負ひ込む者わ、農民と云うことになる。

識者わ我國の公債が多いことを憂えて、國民一人當りが百圓にもなると警告するが、農民負債が我國公債の全額を超え、疲弊のドン底に落ちて見る影もない農家の一戸平均が、千圓以上の借金を背負をていることを見逃し得るか。しかも公債わ四分か五分の低利なのに、農民の負債わ政府の低利資金でさえ、信用組合を通じて農民の懐に入るときわ一割以上の高利となり、低利資金以外のものわ、二割にも三割にも及ぶ高利である。

昨年春、農家負債が五十億萬圓に及ぶと發表されたとき、或る大新聞の論説わ、しかし農民にわ一方に預金がある。信用組合から借りる一方で、また信用組合に預金し、銀行から借りる一方で、また銀行や郵便局に預金している。だから差引きすれば、農家の負債わ如何程でもない。農家に限らず、商工業者わ皆農家以上の負債を平氣で背負をていると、耳を蔽をて鈴を盗む言論で、自ら欺き人を欺いた。

統計を取れば農家にわ負債があると同時に、また預金もある。農村信用組合中でも、貸金が少なく預金が多く、中央や地方の銀行え巨額の現金を預けているものもある。例えば山形縣の模範となつていゝる大和村信用組合でわ、昭和三年末の貸付金十五萬四千餘圓に對し預り金十八萬八千餘圓、銀行預金が十萬七千餘圓、全國の模範組合である。しからば其村の農民わ皆富んでいゝるかと云うに、私わ其村え二回行き、大體事情を知つてをるが、其村でわ預ける者わ預ける専門で、借りる者わ借りる専門である。處が信用組合の方針として、危険な貸付わ一切しない。だから借りたい人があつても貸さぬので

ある。専務理事長南三右衛門氏の談によると、本年夏、其村の連枝と云う戸數四十幾戸の部落から食う米がなくなつたから、秋迄の米の買入代金を借して呉れと、二十戸近くの者が連名で願ひ出たが、百姓でありながら夏はや食う米がないよをでわ、貸してやつてもまた來年の夏になると同じことで、信用組合から見ると不良貸付と云わねばならぬ、獨逸のライフ・イゼン式でわ、有效な生産資金を貸すが、食い潰す生活費用を貸さぬ。しかし諸君が米代がなくては、明日から困る譯だから米の代わりに秋の收穫まで麥を食う決議をするなら、米の半値段の麥代を貸そを。そをすると麥を食う習慣が付き、一年間の米の節約で來年わ借金せずに食えることになる。けれども同じ村にいて諸君にばかり麥を食わす譯にゆかぬから、私達も麥を食うことにしよを。かく説かれた借手の諸君わ閉口して、金を借らずに引取つたと云ふことである。

農村の銀行支店長の中に私の友人がいる。郵便局長や局員の中にも私の友人がいる。此等の人々に付いて調べてみると、銀行でも郵便局でも、預ける人わ村の善い階級であり、村の善い階級でさえ、銀行取引して預金のある人わ借金せず、借金をする人わ預金せず、つまり銀行えでも信用組合えでも郵便局えでも預ける人わ預ける専門であり、借りる人わ借りる専門である。即ち農家負債の總額五十億萬圓に付き、農家の中でも暮し向きの善い預ける専門家わ借金を分擔せず、庄内の本間家や新潟の市島家や、其他の暮し向きのよい郡町村の名高い地主わ預ける専門で、即ち我國公債の全額よりも多い農家負債を一手專賣に背負い込む者わ、五百萬農家中の貧農のみである。此に於て問題わ益々深刻になつてくるのである。

地方銀行の支店長わ語る。信用組合長も語る。歐洲戦時の好景氣時代にわ、一方に借りて他方に預けていた者もある。彼等わ銀行より借りて、其金を下層農民に貸し、利鞘を取つていたのである。しかるに不景氣となり、此頃では下層農民が元利を拂い切れなくなつたから、一方に借りて他方に貸すと云う人がなくなり、預ける人わ公債や株券でも持ち、利息や配當金が手に入る人で、使い切れない金を預け、一般農民わ不動産でも擔保に入れて、借りる専門であると云ふことである。これで事情わ判明した。都會の商人や工業家わ、仕入資金に金を借り、其金で買つた物を高く賣つて儲けるから、都會商人や工業家に借金があるのわ當然で、彼等わ借金しても平氣であるが、農産物に加工せず、また直接消費者に販賣もせず、單に米麥芋大根を作つて、安く問屋え運ぶ農民が借金すれば、もを終いである。しかるに現に今我國農民わ、見る影もない貧農さえ、一戸平均千圓以上の借金を背負わされ稼いでも稼いでも浮ぶ瀬のない淵に落ち込んでいる。無暗に政府と政黨が結托して、黨勢擴張の爲に低利資金を貸して呉れたことが、抑も農家負債の始まりである。

或る村で耕地整理組合を作り、數千圓の補助金と數萬圓の低利資金を借りる運動をしたら、毎月の如く縣廳から役人が来る。等旅館え宿り込み電話が掛る。其夜わ藝者を上げて遊ばしてやらぬばならぬ。日曜にまた魚釣りに來たと、宿屋から電話が掛る。また遊ばしてやらぬばならぬ。盆暮にわ吉良上野介の顔をするので、課長以下係官の幾人かえ、重い贈物がある。補助金を貰う前に補助金の半額を消えてしまい、名義の付けよがない借金ができた。具體的に關係者の名前を申さぬが、こをした類の事實が随分と澤山あるのである。權藤成卿翁が言う、日本わ古來賄賂の國、幾度か三韓を征めて幾度か三韓を失のをたも、悉くが賄賂の爲であると。大江家より傳わる我國外交關係の秘史、八鄰通交が公にされるなら、驚かされる事實の多いことである。

農政關係者わ篤と反省せねばならぬ。もを決して賄賂や遊興の強要や勸誘や金利で、農村と農民を搾つてわならぬ。けれども金利を取ることを商賣とする銀行が農民を搾る。政府預金部の低利資金取次から、農民え金を貸す味を覺えた特殊銀行、また之を傍觀する普通銀行わ、農民に金を貸したいと食指が動く。凡てが秘密に計畫されるから、正確にわ言えないが、其間の事情を私わ想像して見る。

信用組合等々で低利資金を運動しているが、中々借りられそをにない。そこで銀行の窓口を覗いてみると、まあ中々這入れとのことで應接室を通る。話わ有望に運んだ。大藏省の低利資金を借りるに

しても、實わ組合が借るのでなく、組合の名前で役員一同が連帶無限の保證をするのであるから、道理わ一つだ。不動産を擔保にしさえすれば、役員一同の連帶に對し、幾らでも直ぐ銀行から貸して呉れる。運動も何もいらぬ。早速組合え歸ると相談が纏まり、銀行から年一割位の利子で貸出を受け、其金を年一割二分位で各自が分け、残りを年一割五分位で一般組合員に貸付ける。

旦那様、肥料代がないから金を貸して呉れと、小作人が頼みに來る。貸さぬと旦那様人望が悪い。随分と無理をして、地主が小作人え金を融通し、其金が返えらず、非常に困つている人を多數に知っている。共働學校終業者の中にも、そをした事情の人がいる。

小農者でも金の融通が付かなくなると、思い切つて銀行え行く。銀行わ個人農家から不動産を擔保に取ると、結局不動産を背負込まねばならなくなるを恐れ、低利資金のよをな巧い方法を思い出し應接間に引張り込んで、小口の個人貸付わ手數だし、農村の金融機關にわ信用組合と云うものがある筈だから、よく信用組合と相談し給え。銀行わ信用組合の方えなら幾らでも金を貸すから、君等わ更に信用組合から借りたらどをかと教える。彼わ感激し、實に話の分る支店長だと、早速二三の隣人にも謀り合い信用組合え相談に行くと、信用組合も實わ大喜びで、役員一同が連帶保證をし、都合よく銀行から低利に金を借りることになる。正直な農民わ銀行の月給なしの外交員をした譯である。銀行わ

金を貸すが商賣で、金を預るわ商賣でない。預つた金を、實わ高利に貸付けて、利鞘を取ることが、銀行の本當の營業であり、不動産でも擔保にして、連帶責任で確實に金を貸す道が轉じて來ないかなあと待つてゐる處え、農民が金を借る相談に來たので、談わトン／＼拍子に進行し、忽ちの間に五十億萬圓の農村負債が取引された。

大藏省預金部わ智恵者揃いで大事を取る。西原借款などに引かかり、支那や政商等から食われて、かなり大きな穴をあけ、國民の血税で尻拭いさしても、愚な農民に引かゝることわない。大藏省の金わ勸業債券や農工債券を引受けて、表面の責任者わ安全確實な勸業銀行や農工銀行にして置く。しかし銀行家も決して愚な農民に引つかゝらぬ。其處わ政府と了解しあい、有限責任であるにも拘らず、役員一同の連帶無限責任の連判状を作らす。幸にも我國信用組合わライフ・アイゼン式でなく、系統産業組合の官僚天降りであるから、月給いらすの銀行の外交員にこき使うに都合がよい。大藏省と農林省が相談濟と見え信用組合其他の産業組合を設立しよをとすると、役員一同の資産調査をし、大體に於て一町村一組合でなければ認可せぬ。なるべく區域を狭く、そんなライフ・アイゼン式を講義しても、農民本位でなく、銀行と預金部本位の、農林省や府縣係官や産業組合中央會と其支會の役人達に理解に行く筈がなく、産業組合わ租税を免除されて、國民利福の爲に獎勵されていながらも、國民の膏血を搾る高利貸金融資本家の無報酬な外交員となつてしまつた。

町村の地主有力者を網羅し、系統産業組合を作らして置いて、組合わ有限責任でも、役員一同の連帶無限責任で銀行から金を借らし、更に其銀行え大藏省預金部から元金を廻して置けば、銀行わ政府の金で商買ができ、政府も銀行も、減多に損をすることわない。だから勸業銀行農工銀行等の特殊銀行とも云う。町村内の地主有力家に連帶無限責任を負わしてあるから、町村全體と、一町村一箇主義の産業組合が潰れぬ限りわ、銀行に決して迷惑が掛らぬ。そをして置いて、なをも其上に銀行に責任を負わし、慎重に政府の低利資金を貸出すのであるから、銀行が潰れぬ限り、町村が破産せぬ限り、産業組合と有力農民が全滅せぬ限り、銀行も政府も決して損をせぬ仕組になつてゐる。誠によく考えたものである。しかし、かく大藏省并に農林省が慎重に慎重に考えたのわ、政府が損をせぬ責任免れの慎重であり、其金が農村に有効に使われて、農村が振興されるかの實際に付いての慎重でわない。都會萬能商工主義わ、斯くの如く進化して都會萬能金融資本主義となつた。

慎重に慎重に低利資金の貸付形式が心配されるに連れ、無限責任の連帶保證をした産業組合の役員達も、萬一の場合の自家防衛を考ふるが當然になりだす。彼等が低利資金を自分の懐え分割し、成るべく有利に之を運用しよをと焦せるのも尤である。そのとき何村の信用組合が幾萬圓の金を借り受け

たと聞込んだ金融界の寄生虫、株式取引所の外交員わ、決して益槍してをらぬ。彼等の活動わ即時に開始され、何々會社の株券が非常に有利なことを、會社の宣傳印刷物や、有利に其を紹介した經濟雜誌や新聞記事などを持參して、敏捷に彼等わ其村の地主有力者を戸別に訪問する。結果わ推して知るべしである。切角借りた低利資金も高利資金も、紙屑同様な泡沫會社の株券と摺り替えられたのである。かよをして哀れにも明治末年迄わ、農民負債が七億萬圓であつたのに、歐洲大戰の好景氣中に、米も藪も暴騰し、大根一本が八錢になつたことさえある其間の十數年間に、農民の負債が五十億萬圓を突破して、其に代わる何物も與えられず、たゞ負債のみが農民の懷に残つた。顧みれば全く夢である。確に夢である。その夢が醒めた。醒めて見れば、我國農産の年額わ好況時代でさえも三十數億萬圓であつたから、農産年額の二倍以上の負債を、農村と農民わ何物も取らず完全に只だ貸して貰るをたのである。土地價額を吊上げて置いて擔保流れの土地を高價に背負ひ込ました者も金融資本家である。金を貸して専門に只だ儲ける銀行財閥わ、都會と商工業え十分に貸付け終わると、商工業の過度の膨張を警戒始め、新しい放資の安全辨を農民と其不動産に見付けるわ自然の順序である。特殊銀行わ米價の引上げと土地價額の吊上げに裏面の苦心をし、吊上げられた土地價額の六掛け位迄を融通して擔保の極限にまで農村え貸出した。貸して置いて、商賣仲のよい株式仲買の外交員を廻し、事實を

知らない泡沫會社の株券を背負ひ込ました。其等の株券わ恐らく都會商工業に對する銀行の不良貸付の擔保となつていて、銀行の金庫の中からも出たであるを。銀行と都會商工業の失敗の尻拭きをさす爲に、何にも知らぬ農民に投機心を鼓吹した者が確にある。

私わ多くの事實を知つてゐる。私の周圍に集まる青年の中にわ、父兄が信用組合に連帶無限の關係をして全財産を失ない、恨み骨髓に通る者、信用組合や銀行から金を借りて投機に失敗した地主階級の無常に泣く子弟が、數多く私の周圍にいる。低利資金が廻わされ、如何に運用されているかの秘密な事情も、隨分と微細に聞いている。餘り多くを語らず、政府當局者や、産業組合關係者や、金融業者に、幸にも一人なりと良心が復活することあるを望む。

銀行、信託會社、保險業者、無盡業者、高利貸、質屋等々の金融資本家が、我國に於て運用する資本金、預り金等の總額を二百億萬圓以上と概算する人がある。其金わ貸して預り又た貸して預り、幾回にも躍るが、假に平均二回躍るとすれば、四百億萬圓が平均一割五分に運轉すると、年額六十億萬圓が金融資本家の収入となり、重役以下の使用人わ、十分な俸給と賞與と退職手當を貰い、積立金もすれば、年一割位の株主配當もする。しかも彼等わ不景氣を知らず、不景氣となればなるほど、會社工場商店からさえ、益々高く利子を取り、今や我國わ都會萬能金融資本本位となり、其前にわ會社も

工場も商店も農村も頭を垂れてしもをた。正確な統計を以て之を證明することわできないが、都會整
澤階級の殆んど全部が、金融關係者と其使用人、竝に之を保護し助長する官公吏、軍人、警察官、教員、
株式取引員、其外交員、報道記者、等々であるを思うとき、生産を枯らして、金貸が榮えるを、果し
て健全な社會國家の組織と考へるか。見よ。財閥の凡てわ、銀行を營んでいて、政府首腦者や、經濟
界の樞機に參與する者の大部分わ銀行出身者でないか。都會萬能金融資本主義が、失業者を出し、不
景氣を産み、農村を疲弊させた。けれども、もを彼等も農村と都會の人口割合直線を見詰め、胸に手
を當て、暮夜密に考へねばならなくなつた。

一一 農事改良の諸組合わ何をしたか

耕地整理わよい。灌溉排水の水利組合もよい。作業を共同する農事改良の實行組合もよい。茶業の
組合も、養蠶の組合も、畜産の組合も、養鶏の組合も、悉く此等わよい。しかし背後に隠れる指導原
理を見るならば、善い一切のものが、農村を繁榮に導かず、都會商工業と金融業を繁榮に導いて、農
村を逆に疲弊え突き落していることが知られる。

耕地整理が何故逆に農村を疲弊え突き落すか。耕地整理そのものわ善いが、耕地整理の爲に低利資
金を貸し、補助金をさえ呉れることが、農村を疲弊の底え突き落した。低利資金もよい。補助金もよ
い。純眞な氣持ちで、眞に必要な額を補助し、或わ低利に貸して呉れたなら、誠に申分のない結構で
あつた。けれども不純な動機から、其設計を縣廳がして呉れる。そこから逆の結果が現われる。

縣廳の役人わ取次ぎをするだけで、取次役人に別段不純な動機がある譯でない。旅館から電話をか
けたり、魚釣に寄つたりすることわ、不純な動機からであるが、耕地整理の設計書に現われる不純な
動機わ、中央行政官廳から命令される。其命令に基き、縣廳の役人わ、迎も素晴らしい設計書を作り

低利資金と補助金と、組合自身の借入金と、組合員からの出資金と、村中の財源を總動員して、其計畫を實行さし、縣廳の役人が出張して、親切に指導して呉れる。

經費の一部が賄賂にもなる、親切な監督費にもなるが、しかし大部分が人夫賃銀として消耗される。けれども人夫が村人が出るから、其賃銀が村人へ戻り、何處へも出て行かぬでわなないか。村人へ賃銀に貰うたものを、丹精に貯金すればよい筈である。

誠に理窟をそである。けれども耕地整理をすれば、翌年から收穫が幾割か多くなると、誠に結構な設計書を見せられた村人へ、はや農村が振興した氣になつて安心し、幾割増收の前祝をするが必定である。耕地整理が始まると、村の商人へ種々な物の仕入を始める。毎日人夫にで、減らされた胃袋が要求しそをな御馳走を十分に仕入れ始める。酒も女も仕入れる。監督者からも模範の實例が示される。結果を推して知るべしだ。

縣廳の設計書が中央政府の方針に従い、農村とても一日の勞働賃銀が一圓幾十錢でなければ勞働が神聖でなくなると、仕事に出た村人へ一日一圓幾十錢を支拂う。農村の氣分と習慣が忽ち一變し、宵越の金を使わぬ勞働者氣分で、耕地整理がすんだ後までも、村の習慣と生活程度を高める。儲けた者へ商人である。村人へ耕地整理の勞働をしたが、贅澤を覺え酒飲みが増長したばかりで、何の貯蓄も残らない。今も今、鳥取縣の鈴本と云う青年から來た手紙の中に、「……下神部落ですが、大砂濱を開墾助成法を適用して耕地整理をしています。約四千圓ほど助成金が來たが、その中二千圓餘り飲食費に充當し……」耕地整理をするに村人からも出資をさし、村の流動資金が枯れ、その上にも一時借入金をさせられるが普通である。だから耕地整理をすると借金が残り、少しばかり收穫が殖えても、借金の利拂位にしかならぬ。こゝにも都會萬能商工金融資本主義が、耕地整理の美名の背後に隠れてゐるのである。水利組合も其例であり、耕地を整理して多收穫をさし、灌溉と排水を善くして、早魃や洪水の年でも、多收穫を續けさすことへ、國民の食糧を豊にし、米價を安くし、都會萬能商工本位に都合よいことである。共同耕作の農事改良實行組合でも、製茶や養蠶や畜産や養鶏の諸組合まで、大體が斯した都會萬能商工本位の打算に差支ない程度に於て許され、其等の組合が都會萬能商工業、若くは金融資本主義を發展さすに都合よければ、補助金を與え、或は低利資金を貸付て奨勵して呉れる。明治政府以來の方針が都會萬能商工金融資本主義であり、農村の爲に農村と農民へ親切に施された施設も一もないのである。もし農村の爲に農村と農民へ親切に施されるならば、耕地整理も水利工事も、農閑期に於ける奉仕的な自家勞力により、工業材料に必要な購入物品の少額資金のみ補助されたであらう。しかるときは農村へ勤勉努力の良習慣が残り、風俗攪亂と借金が残らなかつたので

ある。

農事改良の共同耕作や、共同調製等の實行組合こそ、純眞な動機で農村を振興するものであつた。外形如何にも左様に見える。此等農事の改良組合、共同耕作や共同調製等により、労働の能率を高めて、作業日数を短縮し、農民の苦痛を軽くする。しかし農村に缺けるもの、労働力ではなく、仕事と収入である。共同耕作により、早く田植を終えたとして、農民が節約された労働力を如何に活用するであらうか。都會に壓迫されて副業のない農村で、共同耕作で労働時間が短縮されると、善い方で其だけ晝寝の時間を増し、悪い方で酒飲みと勝負事の時間を増す。秋の共同調製も同様であり、酒屋え殖えて行く借金と、石油發動機や穀摺機等々の購入代金が、また新しい借金となり、農村え苦しみを加えるばかりである。結局共同耕作や共同調製の農事改良組合も、都會商工業え御奉公したまでである。だから丁抹代理公使アイラル・ペラム氏わ自國の例を引いて、此種の共同耕作等々の農事改良實行組合の愚かなことを警告した。彼曰わく、丁抹にも嘗てわ能率本位の愚な共同農事改良組合があつて、政府も之を奨励したが、結局それわ仕事を早く済まし、徒に農民を遊ばして、農村の浪費と負債を増すだけにしか役立たなかつた。故に賢明な丁抹農務當局わ之を禁止し破壊し、英國ロチデールの共働組合精神による眞正な農村共働組合と其自治聯合を奨励し、疲弊した丁抹の農村を今日の隆盛に導いた。我國の農政學者や農務當局者わ、口を開けば丁抹のことを云うが、都會萬能商工金融資本主義の誤謬潜在意識に支配されて、日本流にと解釋する丁抹農村の凡てが、せい／＼碧海郡流儀位にしか映らず、帝國農會や府縣農會で、時代錯誤の頭の古い古い共同耕作や共同調製の類を奨励している。

茶業組合に付いてわ多くを語らない。志ある者わ静岡縣に來て、製茶の取引が如何に煩雜な幾階段もの中間者の手を経てゐるかを調べてみるがよい。巧妙な都會商人のからくり、その一階段を通る毎に、一割も二割も手数料を取らすが、都會萬能農村搾取の系統的中央方針なのである。だから養蠶組合で、桑園の改良や稚蠶の共同飼育位を奨励し、繭を多收穫することを教え込み、せいぜいが製糸の組合組織を許す位である。生糸で織物を織る段になると、何の奨励も補助も低利資金の融通もなく、反對に都會の織物會社を奨励して、村の女が手機織るを野蠻だと笑い、小學校の手工教育に、農民美術の出來損ないを眞似さしても、齊服殿で手機織る天照太神の眞似わささない。從て養蠶組合を作ると、外國から輸入する飼糧小麥の輸入税を免除し、寧ろ都會商人に都合のよい保護をして呉れる。畜産組合も競馬を奨励する位で、却て農民の邪魔になる。乳牛を飼うことわ奨励するが、農家が其飼う牛の乳を賣ることわ嚴禁する。木炭や其他の重要物産に關する同業組合も、生産農民を壓迫して都

會商人の利益を擁護し、物價わ下落しても、少しも下げない組合費用を強制徴收して、役人共が贅澤している。

農村を壓迫し、農民を搾取する都會商人工業家金融資本業者擁護の制度わ、實に至れり盡せりである。其結果わ都會え人口の六割を集め、頭のよい者わ全部が都會え總動員されて、農村えわ頭の働きが鈍い者ばかり殘され、搾られても搾られても有り難がり、五十億圓百億圓の負債を背負をて、ペチ⁺ンコに破産せんとしているのが、我國現在の農村と農民である。

一三 農民教育わ何をしたか

語れば語るほど私の息わ詰まる。けれども語らねばならぬ。強い力で私の口を歪められても息の通う間わ語らねばならぬ。農村と農民の爲に本當のことを語る人が、世界と我國に一人もない今日に於て、私わ息の通う限り語らねばならぬ。農村と農民から財産と生活の一切を奪い、五十億萬圓百億萬圓の大きな負債を背負わした上に、その農村から智識と人物を奪い盡したものが、明治以來の農民教育である。

山縣寺内の公伯語り合をて、日本わ國民皆兵だから、都會と農村を一率に、國民の義務教育をせんといかんど。斯くの如くにして文部省が歴代引繼ぎをして、國民皆兵の都會萬能、商工金融資本主義西洋形式文明心粹^{しんすゐ}の義務教育を、山奥の村々にまで根氣よく徹底^{てつてい}させた。現代わ其弊害に耐え兼ねてまづ教育制度を根本から改革せねばならなくなつた。文部當局に一人でも新しい時代の要求を理解する者があれば幸である。

大阪財界の巨頭岩下清周翁、財界を去つて私の居村富岡村に不二農園を經營し、温情學舎を建て、

村の小學兒童の爲めに、村を理解さず農民小學教育を始めた。私が富岡村葛山の山中え、農村青年共働學校を開いた第一回開校のとき、翁わ老軀を無理して私を訪問して上られ、若輩な私を先生と呼んで、涙を浮べ感激して語られたことがある。不幸にして翁わ、私を訪問して歸えり、間もなく病を得て世を去つた。翁わ桂公に接近し明治政府の都會萬能商工金融資本主義を繁榮させた巨頭の一人であるが、過去を清算して農村に退いてみると、萬感交々起つて、遂に農村小學兒童を全國劃一の都會萬能教育で教える弊害を見るに忍びず、村の兒童の爲に温情學舎を開いたのである。しかし翁の誠意は村民と村當局に受入れられず、温情學舎に通う少年わ極めて少數であつた。

私の郷里高知市に土佐銀行の頭取をしていた大脇幾司氏がいる。都會萬能金融資本業者の過去を清算して見ると、餘りにも農村が痛ましいので、田畑を求め農作をし、其成績を全國行脚で智識階級が知識を以て百姓すれば、こんなにも十分な結果が上ると實例を語り傳えよをと發心した。彼わ土佐のトルストイとさえ云われたのである。しかし自分で百姓してみると、年々莫大な缺損が生じ、土佐のトルストイ語るを止めた。

もを遅い。一切のからくりが都會萬能、商工資本主義に組織されて、要所々々え農村から奪い取つた知識階級が、光つて坐つてゐる。岩下清周、大脇幾司、偉いことわ偉いが、一人や二人の力でわ、如何ともすることができない。

農村から知識と人物を奪い取つたものわ教育である。小學校から中學校から女學校から大學校まで學校の全部が都會を標準にした教科書を教え、都會のことしか知らない百姓嫌いの勤め人によつて教育されているを語るわ野暮である。友人奥むめお氏が嘆じたことがある。私わ女子大學を出たが私の家政科の先生わ米國の女子大學を出た。私わ其先生に米國から教わつて來た家政の立て方を教わつた月給二百圓を標準にした家政學である。料理の講習も西洋料理で、日本料理などすることわ教えられず、さて卒業して結婚すると、忽ち現滅の悲哀が翌朝の臺所の鍋から湯氣に混じつて立ち上つた。實さい飯を焚くことも、満足な味噌汁を煮ることも知らなかつたのである。五十圓か六十圓の安月給取りの花嫁わ、學校で教わつた全部が、亞米利加の夢物語であつたを發見し、馬鹿々々しい教育を詰め込まれたことを、呪わしく感じた。馬鹿々々しい亞米利加の夢物語が、何處の農村女學校でも教えられている。地方の女學校の家政科の先生わ東京の女子大學を卒業し、女子大學の家政科の先生わ亞米利加の女子大學を卒業し、最高學府を亞米利加又わ英獨佛とする西洋鵜呑主義が、かくの如く學校を通つて、農村の臺所にまで侵入しなければ止まない勢を示している。私わ其實物を伊豆下田で發見した。中泉農學校長細田多次郎氏と私が、下田の高等女學校を會場として、附近農民の爲に開かれた講

演會に出席したとき、うまそをな西洋料理の模型が、教科材料として廊下の陳列戸棚に並んでいるを見た私わ苦笑した。細田校長も苦笑した。細田校長は我國の女子教育が月給取りの奥様を養成するが目的であり、農民に取つてわ内助の反對の内妨教育でしかないを痛感し、文部省に出掛ける都度遠慮なく之を警告しているからである。

小學教員の顔を見るがよい。彼等わ小地主又わ自作農の家に生れながら、土臭い百姓をするが厭さに、師範學校に入學した者である。そんな人物に百姓の教育が出来る筈がない。だから小學生徒の中でも成績の善い者があると、お前えわ百姓さすが惜しい、中學校え行き給え、中學校え行けねば、師範學校え行き給え。かくの如く系統教育制度が、明治政府の都會萬能商工本位主義を人物の上にも實行さして農村から全部の知識ある人物を奪い、悉く都會商工業金融資本主義の御用を勤める月給取りに養成してしまつた。地方一般の氣分が百姓をする人間を、しよをのまない者とし、成功者とわ都會え出て官公吏銀行會社員となり、成るべく金儲け仕事に忠勤を勵んで、高い月給を頂戴することを云うよになり、優越感が此に發生して都會え出掛け、末わ博士か大臣か、一級でも高位高官に上り、一圓でも多い月給を取る成功を、都會の官廳と會社銀行工場の中に夢みる優越感こそ、明治以來の學校倫理を定める根本大原則である。

優越感を抱かされて實生活を見るならば、百姓して満足される優越感わ、たかく隣人よりも多收穫をすることでしかない。品評會で賞められたとして、それしきのことわ學校で教え込まれた優越感が満足する筈がなく、優越感を教え込まれて、其目で廣く實生活を見るならば、末わ博士か大臣えまで、或わ社長にも重役にもなれる都會生活が、農村青年男女の憧れとなるに決つている。都會萬能を清算して農を國の本とするにわ、四民平等に神集をて、天の安の河原に八百萬の神々が、一人一票の協議をする、和らぎの精神を倫理の根本と改めなければならぬ。優越感さえ打破すれば、一切の問題が解決される。其時始めて萬人わ農業労働に安んじ、都會わ農村の中央となつて、眞に幸福な民族と全人類の生活が出現するのである。優越感が教育の根本に頑張る間わ、都會萬能商工金融資本主義を清算することわ不可能である。まづ教育より其根本の優越倫理の指導原理を驅逐せねばならぬ。こをした倫理の根本問題に付いてわ、細論を人間學美教に譲る。

最後に農學校に付いて少しく語るであるを。農學校わ農民を作る處と思をてわならぬ。農學校わ農民を作らず、農民を監督し指導する者を作る處である。農學校でわ、技術の實習もさすが、それわ農事試験所の報告を理解して傳達さすに必要な能力を養成する程度である。だから私の友人の篤農家永

田新司郎氏わ、農學校の卒業者でいて、子供わ中學校に通わしている。理由を聞くと、農學校わ三年であり、三年でわ十分な理解力ができぬから、中學校え通わす。理解力さえ十分にできれば、百姓の技術わ學校で教えて貰わすとも自分で教えてやる。更に質問して、中學校え通をていと、百姓が厭になりわしないかと聞くと、永田氏わ無雜作に、農學校に通わした處で、どをせ百姓が好きになる教育わして呉れないから、結果わ同じであると答えた。清水市にわ商業學校があり、中學校も農學校もない。だから附近の農家わ子弟を商業學校え通わしている。共働學校二回終業の遠藤與八氏わ三保松原で果樹農業をやつてゐる純眞な青年であるが、商業學校を卒業し、平氣で毎日黒くなつて土掘してゐる。

農家に取り最も大切なことわ、一年中の作業計畫が善く出来ることである。毎日の仕事の段取が善く出来ることである。作業計畫と段取が中心となり、種々な經營上の難問題が発生する。耕地面積や人手や資金や市場の關係等により、經營上の實際問題わ非常に複雑である。そをした經營上の作業計畫や、毎日の仕事の段取や、其等をうまく運ばす實行能力等わ、實際に田畑や家畜を充てがわれて、草を生やさず、家畜を瘦せさかさず、しかも經濟的に引き合をた農業の經營を實行して見なければ、到底机の上で教えることの出来ないものである。だから狭い農學校の實習地の上で、人手の多い學校

教育が、黒くなつて働き得る有爲有能の農人を養成し得ると思えば、大きな見當違である。農村と農民を指導し監督するにも、實わ農業經營の骨を心得ていなければならぬのである。

私が京都大學の農林經濟科で話をしたとき、私の前に獨逸人が獨逸の農科大學教育のことを語つた。其話によると、獨逸の農科大學でわ、學術教育を終えたと二三年間實際の篤農家の農場え住み込み、農夫としての實地經驗を積んで、然る後に再び大學え歸り、本當の卒業をして、農村の指導者になると云うことである。また丁抹でわ國民の義務となつてゐる中等教育を十三四歳で終えると、篤農家の家え農業使用人として三年間住み込み、それからでない、獸醫學校其他の上級農業専門學校えわ入學を許さぬそである。我國の農業教育わ、單に机上の形式ばかりであり、ただ都會本位の商工業に附隨しての、農業技術や報告を傳達する農會の取次人を養成する程度であり、眞の農民の爲に農民と其指導者を作る農村教育わ、我國に存在せぬのである。

友部の日本國民高等學校を出た郡馬縣の黒澤勝己氏から聞かれた時の私の答に、農學校に居た時の行儀作法や、嚴肅な年中行事の日課が、また時々教えられたマラソン競争の眞似が、農繁期に出来ないとするれば、それわ友部の形式教育が、農民の實生活に適せぬからである。私の共働學校でわ、年中行事の些細な日課わ定めない。私わ人間精神と意識の根本を教え、日課の行事わ凡て良心に問えと諭

すだけである。しかし時間を無駄に空費しない體驗わさしている。實行のできない形式を農民教育の中心でもあるかに誤解するわ、精神と意識の根本を掴み得ないからである。マラソン競争などする暇があれば、一坪の開墾でもするがよい。一體農業わ經營が第一で、經營を忘れた處に、今日の農村疲弊がある。働け働けと只だ働いて、随分と多收穫や多角形農業をやつて來たが、經營を忘れた處に骨折損の草臥儲けが、今日の疲弊し切つた農村を出現せしめた。學校から月給を貰い、生活費を保證されて、農業で自分の飯を食わない役人が、農民を教育するなどと云うこと自體が、既に間違ひである。私の答わ少し手厳し過ぎる。友部の加藤校長わ實に立派な人であるが、しかし丁抹國民高等學校の開拓者クリステン・コルわ一層立派な人であつた。

一四 多收穫わどをなつたか

昔わ人穴を作つて子が親を生きたまま葬つたことがある。多收穫の大家、秋田縣の森繁氏わ、十數年以前より寒冷の地秋田縣に於て、自作水田の平均收穫を七石にまで高めた。彼が多收穫を思ひ立つた動機を私に語る。彼嘗て八丈島を旅行し、處々に大きな穴があるを不思議に思い、其穴の何であるかを尋ねると、島人わ人穴だと答えた。人穴とは昔人口が過剰したとき、六十歳を超える老父母を、其子が生きながら葬つた古蹟であるとのこと、友人森繁氏わ大に考えさせられ、それ以來開墾と多收穫を専心研究し、事實に於て全國隨一の水田開拓と、稲作の大家となつた。彼が多收穫わ富民協會の如く、經營を度外に於て無理にやるのでなく、自家の水田經營の收支計算上、最も引き合ふ多收穫を合理的にやるのである。

森氏曰う。多收穫わ教えるものでない。如何なる田でも多收穫が實行し得るものでなく、また氣候風土により、その方法が違ふから、多收穫の原理わ教へても、細い方法わ説くものでない。彼わ決して彼の多收穫を發表せず、コツコツとして自家の農業に専念している。けれども彼わ決して土臭い田

夫野人でなく、郷里淺舞町の農會長を勤め、北秋今泉の地に十數町の開墾地を經營している。その開墾地に興味ある話がある。

能代川に沿をた今泉の開墾わ、森氏が開いたのでわない。森氏の前に二代の所有者があつた。初代の開墾者わ持ち切れず、二代の他人え譲つた。二代目も持ち切れず、三代目の森氏に譲つた。私が訪問した時わ十二月であつたが、森氏わ農閑期に多數の男女を督勵して、土盛を直し、徹底的の耕地整理を自費でやつていた。

森氏曰う。水田初代の開拓者わ、借金せずにはやれば別であるが、借金して開拓した者に、維持の出來た例がない。なぜなら水田開拓の最初數年間わ土が固く、水平の地盛も不均一を免がれぬから、收穫が一反三俵位と見ねばならぬ。それでわ借金の利子が拂ひ切れず、切角の開拓水田を安價に人手に賣渡さねばならなくなる。安價に引受けた人も借金せず、また自作でもすれば別であるが、小作に出してわ到底銀行の金利が拂ひ切れる程の年貢が取れず、やむを得ず再び人手に渡さねばならなくなる。三代目が更に安く引受ける頃、漸く土も軟くなり水のかゝりも平均して良田となり、また引受地價が最初の開墾費用の幾分の一にも切下げられることであるから、借金していても銀行の金利が拂えることとなる。

能代川沿岸にわ原野が多く、大阪郊外寶塚郵便局長でいて、幾十萬圓の切手を横領した者が、其金で數十町の水田を開拓した古蹟もある。むろん失敗し銀行え流れ込んだが、其銀行でも持ち切れずいた。富根と云う處にわ新潟縣の地主市川氏の百町に近い大開墾地がある。それも散々の失敗であつたが、森氏が技師として招かれてから、小作人の共働經營とし、漸く收支が引き合ふ程になつた。森氏わ多收穫以上に、水田の開墾わ困難だと云う。借金せず自家勞力で、コツ／＼と自作するなら、どんな處でも引合ふであるが、借金し、高い人手を雇い、小作さしての開墾わ、水田わ勿論、山岳原野の畑でさえ、私自身の經驗からしても、決して收支計算上、引合になるものでないことを、此機會に注意して置く。だから借金と浪費の開墾助成や、耕地整理が、逆に農村を疲弊さす理由も、了解し得るであるを。

全部の土地が多收穫に適する譯でない。どんなに富民協會が宣傳しても、日本國中の水田を十石わ愚か、七八石の平均收穫にする望わ、まづないと云わねばならぬ。森氏わ多收穫を語つてわならぬと云うが、語つてもよい程度に多收穫を語るならば、森氏多收穫の第一わ土地そのものの改良であり、第二が有機物を多量に水田え入れることである。此點から森氏わ藁細工の副業に反對し、安價に藁を都會え出すなら、高價に水田え還えせと云うている。藁だけで足らず、淺舞町の森氏本宅でわ、附近

に草がない爲め、二つか三つ停車場を通り過ぎ、奥山の草山を買い、その草を鐵道で運搬している。處が草わ肥料と認めず、高價な運賃を取られるので、鐵道省に詰問すると、肥料と云うわ吠かますに入れたものことで、草や糞や厩肥うまじえわ肥料でないと回答されたのである。交通機關を預る鐵道省まで、都會萬能商工主義に徹底し、自然の有機物や、農民が作る厩肥の類わ、普通貨物の高い運賃で輸送を妨害する。愈々農業わ國の本でないのである。國粹を回復し、眞に農を國の本としよをとするにわ、文部省も鐵道省も、其他の國家機關の全部が、根本から考え直さねばならぬ。

多收穫わせねばならぬ。人穴え老父母を捨てる人間の淘汰たうたわ、どをしても承知することができない。しかし多收穫わ農村の爲であり、農民の爲でもなければならぬ。反對に多收穫が都會の爲であり、商工業や金融資本の満足の爲であれば、同じ多收穫わ、農民に取り、骨折損の草臥儲けくたびれもけにしかならぬ。

明治以來の農事改良と獎勵わ、多收穫を目的としたが、その動機わ都會萬能の商工本位からであつた。農民に取り骨折損の草臥儲けとなつた結果から見て、確に農村の爲に農民の爲の多收穫と農事改良を獎勵したのでわなかつたと云わねばならぬ。

都會の學者や言論記者が、机の上で論題をいじくると、人口食糧問題が飛び出す。マルサスと云う

英國の机上學者わ、人口と食糧の關係に付き左の如き、議論をいじくり出した。

人口わ幾何級數的に増加するに反し、食物わ算術級數的にしか増加し得ない。過去に於て人口と食物の均衡が保たれたのわ、戦争や悪疫や飢饉や貧窮や賣淫其他の不道德と災厄によつて、人類の繁殖が妨壓ぼあつされた爲である。もし何等の妨壓もなければ、人口わ二十五年毎に倍となるのである。それにも拘らず食物の増加わ算術級數的であるゆえ、兩者の均衡わ忽ち破れて、人口が食物に對する比例わ、二世紀の後にわ二百五十六に對し九となり、三世紀の後にわ四千九十六に對し十三となり、數十年後にわ測り知ることのできない大差となる。

机上でわ随分と出鱈目なことが言えるものである。農業の實際を知らない机上の形式統計數字記者の斯した言論に、農業の實際を知らない都會人、その中にわ政治家もあり、學者もあり、新聞雜誌の記者もある、それ等の都會人が驚いたのに無理わない。さてこそ人口食糧問題の解決策として多收穫の獎勵となつたのである。人口の多數が都會え都會えと流れ出ることわ、人口食糧問題に少しもおかまひなしの無關係として、國民の四割以下に減少した農民のみえ、多收穫の重荷が背負わされたから、農民わ過勞して草臥儲けくたびれもけの骨折損となつたのである。

決して多收穫を悪いと云わぬ。富民協會も誠に結構である。ただ動機が純眞で、何處迄も農村と農

民の爲であつて欲しい。農民本位に多收穫するなら、骨折損の草臥儲けわ、斷然とお斷りする。机上でテーマをいじくつたマルサスの誤謬理論など、おかまいなしに農を國の本とすれば、食糧以上に人口が増加することわあり得ない。

朝日常識講坐の人口問題講話に、徳川時代の人口が左の如く掲げてある。

西曆一七二二年	享保六年	二六、〇六五、〇〇〇
同 一七五〇年	寛延三年	二五、九一七、〇〇〇
同 一七八〇年	安永九年	二六、〇一〇、〇〇〇
同 一八一六年	文化一三年	二五、六二一、〇〇〇
同 一八四六年	弘化三年	二六、九〇七、〇〇〇

何故であるか原因わ第二として、農を國の本とすれば、人口わ無やみに増加しないらしい。人口問題に關する細論わ、著者の規範經濟學二百六十一頁以下に譲り、茲でわ農を國の本とすると、食料以上人口が殖えないを斷言するに止める。もし其以上に殖えれば、産兒調節と云う最も穩健な人爲淘汰の方法があり、最後にわ人穴があるが、人穴わ餘り過激すぎる。徳川時代にわ、此子わ要らぬ兒だと云えば、産婆が生れ兒の鼻孔に紙を貼つて呉れたと云うことであるが、それまでせずとも、穩健な

人爲淘汰の方法もあり、農を國の本とする限りに於て、農即ち食料が人口を決定し、人口食糧問題、即ち人口が食糧を決定するのではないことを理解し得る。だから此場合に於ての多收穫わ、人口食糧問題の解決策でなく、農村を文化に導き、農民を過勞から救うて、その生活を安樂にさす爲のものでなければならぬ。實際森氏わ洋服を着て、安樂な生活をしている。

しかし都會萬能商工主義から見ると、全く考え方が違ごをて來る。東京わ人口千萬人になりたいであるを。名古屋が人口百萬に少し缺げると、市長が責任を感じて謝罪したとか云う。食糧問題を恐れながらも、日本總人口が九千幾十萬人になると、景氣のよい笑い聲が、先づ新聞紙上に發表される。だから勞働者わ失業し、農民わ搾取されて疲弊するのだ。けれども商工金融業者わ別のことを考えてゐる。人口が多くなれば、それだけ多く商品が動く。商工業と金融業が繁昌するにわ、どをしても人口が殖えなければならぬ。人口が殖えると、都會の地價も上り家賃も高く取れ、雜作も高く賣れる。それで人口を殖すにわ、まづ食糧を殖し、しかも食糧を安價に供給ささねばならぬ。安價な食糧で、多數の勞働者が賃銀を安く働いて呉れると、原料に恵まれない、金利の馬鹿に高い、日本の製造工業でも、外國と競争ができません。だからこそ都會が膨脹して、内地人口の六割が密集し、農業する者わ徳川時代と變りない人數でいても、そんなことわ少しも人口問題に關係がなく、今迄の經濟學者わ一

向に存せぬ顔をしている。都會萬能商工金融資本主義からの人口多産萬歳の要求に應ずるため、無限に増加して行く都會人の食物を安價に供給さす機巧（かろう）からの多收穫獎勵だから、其結果わ農民を過勞に落し入れ、多收穫すればするほど、農民わ骨折損の草臥儲け（くたび）となつたのである。

米わどをであるか。麥わどをであるか。繭わどをであるか。茶も密柑も西瓜も大根も薩摩薯も里芋も馬鈴薯も胡瓜も茄子も葱も白菜も、農産物と云ふ農産物が、多收穫して骨折損とならぬ物が何一品あるか。

新潟縣で白菜の多收穫を獎勵したら、出來過ぎて賣れず畑のまゝで腐らした。千葉縣で大根が餘り安いので、部落農民が自動車雇い、滿載して東京中央市場え送り付けたら、仕切り代金が自動車運賃に足らず、自動車運賃を値切つたら、自動車屋が怒つて、今後百姓共の運搬わ御免蒙ると機嫌が悪るかつたそである。福島縣の部落から、一貫七錢でよいから馬鈴薯を賣つて呉れと頼んで來た。靜岡縣の三島在でわ、馬車一臺の野菜が一圓にしか賣れなかつた。胡瓜でも茄子でも、東京の八百屋で十錢出せば持ち切れない程澤山に買える。多收穫すればするほど、農作物わ暴落し、遂に農村が破産させられる。

安ければ安いほど農民わ多收穫せねば生活ができない。昨年秋群馬縣小野村へ行つたとき、共働學

校質疑科に來ていた其村の農會技術員桑原嗣夫氏わ、高い處から農村を指導するに忍びなくなり、一農民として下の方から部落の青年達と一所に共働の農牧をする實例を示したいと語る間に、繭が安くなるほど益々多く掃き立て、値段の安い埋め合せに、少しでも量を増そをとるものだから、多收穫して値段が安くなると、又益々多收穫して一層値段を安くし農民の困難わ到底救い切れないと嘆じた。多收穫わよい。けれども多收穫によつて、絶対に農産物が下落せぬ土臺の上で、農民わ安心して多收穫せねばならぬ。そのとき始めて多收穫の努力と結果が農民自身のものとなる。でなければ、多收穫の努力と結果わ悉く都會のものとなつてしまう。もし都會役人や都會評論指導者の獎勵と宣傳に乗つて懸賞附（けししょうつき）の多收穫を無自覺にやつていれば、農民わ全體として、全く骨折損の草臥儲けとなるのである。六千萬石米を作り一石三十圓ならば、我國内地農民の米作收入わ十八億萬圓であるが、一割多收穫して六千六百萬石作り一石十五圓に下落すると、内地農民の米作總收入わ九億九千萬圓に激減する。多收穫すれば、刈取と運搬だけでも餘計に骨が折れ、肥料も餘計に入る。その結果が逆に收入減となるよをでわ、それこそ骨折損の草臥儲けである。骨折を少なくし收穫と收入を多くするが、農村と農民に取つての有難い多收穫でなければならぬ。過去に獎勵された多收穫わ、全く反對の考え方に出ていたのである。農民わ完全に過去を清算せねばならぬ。其清算書を都會の奴等（やつら）に突き付けろ。

一五 多角形農業わどをなつたか

共働學校開拓科生を連れて、三島町郊外の長伏部落え、篤農の友人長澤榮太郎氏を訪問した。彼わ乳牛飼育の天才であり、獸醫の見捨てた難病でも、部落民の爲に無料で片はしから直してやる程である。彼の家にわ、静岡縣の品評會で一等を取つた乳房の太い乳牛がいる。彼わ水田作と養蠶にも優れた技術を持ち、田方郡を代表しての富民協會の多收穫選手となつた。三十年の経験を積み札幌農科大學を卒業していながらも、一農牧者として、三島大社の裏で、乳牛六頭を飼育して、自勞自給の生活をしてゐる廣瀬法潤氏の牧舎で話が長くなり、長澤氏を約束の時間に遅れて訪問した爲め、青年訓練所の指導者をしてゐる彼わ、村の小學校に出掛けていた。校門の前に待つ間に、小さな多角形農業をやつてゐる農家を發見した。鶏が二十羽、牛も一頭、豚もいる、鯉も飼つてゐる。水田あり、畑あり、しかし、どれを見ても満足なものはない。鶏は産卵期前であるが、雄を淘汰せず、約半數に近い雄を若雌と一處にしてある。肉用でない證據わ、白色レグホンである。其家から鋏を携げて、一人の若者が出て来て、家の周圍の乾田をうなり初める。廣い乾田の小はじと、やる瀬なさをとに闘り

でうなり初める。何時になればうなり終えることか。彼わ全く仕事に呑まれてゐる。共働農場の我等から見れば、彼のうなり仕事の遣方を、氣毒に思われた。時は十二月の末である。それから麥播きをするらしい。個人經營の多角形農業とわ、大體こんなものである。

長澤氏が出て來た。色々語り合をた。問わないのに彼は、個人農業の多角形でわも駄目だと、優れた天才でありながらも、悲觀して過去を回想するらしい。彼わ優れた天才であり、乳牛の管理わ申すまでもなく、二町に近い自作の水田から、年々平均して一反十二俵位の多收穫をしてゐる。桑園わ美事であり、養蠶成績も素晴らしい。云わば彼も多角形農業をやつてゐるが、彼の多角形わ其だけであり、餘り多くの方面え手を擴げない。

山形縣東田川郡大和村連枝に富樫直太郎氏がいる。雪深い庄内に於て、率先して水田の裏作に麥を作り、成功した成績を擧げている篤農の篤實家であり、數年前から私に心を寄せて、共働學校えも來てくれた。私も彼の家に泊り、非常に歡待された。彼の家わ、まだ若い父と一所に、睦しい多角形農業をやつてゐる。牛がある。馬わもちろんゐる。豚もゐる。鶏も成鶏が百羽以上、立派な鶏舎にゐる。堆肥わ山の如く積まれてゐる。見るから心持よい多角形農業の氣樂な生活をしてゐる。しかし彼わ多角形農業そのものに成功してゐるであらうか。飼糧を見ると直ぐ判る。鶏の飼糧も、豚や牛の飼糧も

自分で作ったものでなく、金で買わされた飼糧である。だから彼の多角形農業わ、損をせぬ程度のものである。彼も長澤氏と同様に稻作が主であり、多角形農業と云うても、肥料を取る程度で、本業の妨げをせぬ範圍の農業である。彼が名實共に多角形農業をやれば、彼務必す失敗したであらう。

●多角形農業に家畜の飼育わ付きものである。家畜わ活かして置くだけでわ收入にならぬ。鶏を飼えば産卵率のよい卵を産まし、牛を飼えば多量の乳を繼續して搾り、豚を飼えば肥育ひよくしまた多産せしめねばならぬ。處で此等家畜の飼糧を買っていると、多角形農業が普及すれば普及するほど、飼糧が高くなり、逆に卵や乳や肉わ安くなり、多角形で家畜を飼えば飼うほど缺損が行くことになる。例えば千葉縣わ醬油屋が多い結果、醬油槽で農家が競争して豚を飼いだすと、飼糧の醬油槽が高くなり、飼つた豚は安くなり、豚を飼うほど損が行きだす。反對に豚を飼うことを減らすと、醬油槽わ安くなり、豚わ高く賣れると云うのが現在と過去に於ける養豚事業の悩みである。養鶏でも乳牛でも、多角形農業の中心となる家畜わ、凡て此種の事情の下にあるのである。しかしながら、どをしても肥料を自給自足せねばならぬ我國將來の農業わ、是非とも多角形農業をして、種々な家畜を飼うことにせねばならぬ。しかるに、鶏を飼をても、産卵率を多くするにわ、優れた技術がある。乳牛でも豚でも鯉でも優れた技術なしにやれば、逆に缺損となる。

高橋廣治氏わ日本全體の鶏の平均産卵率を一羽一年に百個だと云うが、農家副業養鶏の産卵率わ、平均五拾個から七拾個に過ぎない。長野縣しげの野村の如きわ、村勢一覽によると、成鶏が三千六百二十六羽で、産卵個数が十七萬三千二百九十二個だから、一羽平均が一年四十七個しか産卵してをらぬ。そんな成績でわ、鶏を飼をても到底引合にならぬのである。

鶏一羽の飼糧を金で買えば、安いときでも一日一羽に八厘わいる。だから一羽の鶏に飼糧が二圓九十二錢かゝるので、平均百個の産卵でも、農家が卵を賣るにわ、平均一個二錢か二錢五厘位にしか見ることができないため缺損である。雛の飼育や鶏舎の消却費まで見積ると、一年二百個位の平均に産卵をさせぬと養鶏わ骨折損である。けれども平均二百卵の成績を擧げるにわ、優れた技術がある。

鶏の壽命わ短いから、産まぬ鶏を産むよをに育て直すことわできない。産まない成績不良の鶏わどしどし廢鶏はいけいとして處分せねばならぬ。そをすると、後から後からと雛を育て、成雛せいひいの補充をせねばならぬ。育雛いくすうにも綿密な注意と技術が入るが、更に綿密な注意の入ることわ、不良鶏の鑑別かんべつである。其の鑑別を誤まらず、成績の善い鶏のみを集めて置かぬと、一年二百卵と云う結果わ得られない。茲に養鶏の天才的な修養がいり、誰でも百姓でさえあれば鶏が飼えると思うわ大間違である。私の居村富岡村でわ、鶏を飼えば損すると決めているから、私の農場の鶏の卵わ、好都合にみな村中で賣れるの

である。それわ村にも幾人か養鶏を始めた者があつたが悉く失敗し、養鶏の爲に先祖からの田畑を失
のをたからである。

鶏と反對に乳牛わ、病氣をさせぬ心得と、病氣しかければ早速手当をして治す、云わば獣醫以上の
熟練な技術が入り、おまけに、産前産後其他の手當に注意せぬと、乳房炎にうばえんと稱し、牛の乳房を痛めて
乳を出なくしてしまい、牛を無用の廢物とする。鶏わ淘汰に技術を要するが、牛わ保護するに技術を
要する。長澤氏の談によると、乳牛を飼う部落でも、眞に牛の生理を心得て、十分に善い管理の出來
る人わ、一人か二人しかないと云うことである。だから家畜を中心としての多角形農業わ、特別技術
者でないときぬのである。

支那人わ家畜を飼う天才である。全部が天才でわないが、中に非常な天才がいて、鷺あひるでも馬糞で一
度に幾萬羽も孵化する。豚ならば鞭一つで、少年が幾百頭を連れて、草ある處え渡り歩く。その天才
と熟練なしに、家畜を飼て多角形農業に成功すると思えば大間違である。もし鶏で成功しよをと思
もえば、一人で二千羽の管理をせねば、西洋人と比較にならぬ。乳牛でも十頭位わ一人が管理し、羊
ならば數千頭の管理ができないでわ、世界の標準から遠い。しかし、其でわ多角形農業にならず、家
畜を飼う専門の農業となる。

疑問が此に起る。技術わ夫々の専門家に劣らぬを要し、しかも飼育の頭數を減じて、種々な多角形
農作と、また種々な家畜の多角形飼育と、其上に養蠶と、植林と炭焼と、果してそんな無理を要求し
ても、知識能力ある者の全部を都會に奪われて、凡人以下の人々しか残らぬ農村と農家に、千手觀音
でなければ出來ない多角形農業が成功するであるをか。五反か一町百姓の人手のない個人農家に向い
水田もやれ蔬菜も作れ、桑も果樹も麥も茶も綠肥も栽培しろ、牛も馬も豚も羊も山羊も鶏も蠶も飼い、
植林して炭を焼け、蠶細工もしろと、多角形を要求すれば、二兎を逐う獵帥と同じ徒勞でしかなくな
る。しかし最高の技術を十分熟練さして、水田もやり、裏作の麥も必ず播き、桑も果樹も茶も綠肥も
促成物そくせいぶつも栽培し、蠶も牛も馬も豚も細羊めいやうも山羊やまぎも兎も鶏もアンゴラ兎も犬も猫も飼い、其の上に植林
して炭を焼き、蠶細工もすれば、生絲も取り、絹も織り、大工も左官も鍛冶屋から床屋迄、徹底的の多
角形農業をせねばならぬ。之を自給自足な圓滿融通まんまんゆうつうの農業と云う。果してそんなことが人間業にでき
るであるをか。過去と現在にわ出來なかつたが、將來に於て必らず之に成功せねばならぬ。しかも無
理のない安全な方法で確實に之に成功せねばならぬ。その秘法ひほうこそ本書が説かんとする農村問題總解
決、共働經濟の理論と實際なのである。

多角形農業を引合わすにわ、家畜の飼糧を自給せねばならぬ。金の流出を防ぐ爲に、政府でわ國産

愛用の宣傳をするが、其の宣傳は日本都會の商工業品を愛用しろと云う。之も都會萬能商工金融資本主義の宣傳であり、農民に向かつて農民自作の國産品愛用を奨励したことがあるであらうか。農村と農民は疲弊して、都會の贅澤工業品などを愛用する餘分な金もない。無い金で、借金しても愛用せねばならぬものが二つある。第一は肥料であり、第二は家畜の飼糧である。都會の國産肥料を愛用させられる爲に、農村は疲弊して、田園將に荒れんとしている。都會の國産飼糧を愛用して家畜を飼う爲に高橋廣治氏の如く日本一の養鶏家で一年三百卵以上産ましている、一昨年の高い飼料でわ、引合にならぬとこぼしていた。農村を本位に國産品愛用を奨励するなら、第一に肥料の自給、それには家畜を飼わねばならぬから、青草の運賃の割引き位先づ斷行し、續いて農家をして肥料作物を有利に栽培さしねばならぬ。

東京澁谷の興農園で、私わ緑肥ルーピンの種子を買った。驚く勿れ一升二圓！ そんな高價な種子で、緑肥や飼料が作れるか。ついでに飼料作物ルーサン（アルファルファとも云ふ）の種子一升を七拾錢で買った。しかるにそのルーサンは古い種子で丸きり生えない。何處迄も農民を搾り且つ誤魔化す都會萬能の商人が、大きな看板をかけ、出鱈目な宣傳をして、農民を欺いていることよ。

多角形農業の都會を賣る物よりも、農家自身が使うもの、即ち肥料と飼糧を自作せねばならぬ。家

畜飼糧さえ自作すれば、肥料も當然に自給できる。しかるに飼糧まで自給することが、人手の少い五反百姓の我國農民にできるであらうか。だから静岡縣田方郡わ全國でも第二位の乳牛の盛んな處であるが飼糧は全部購入している。購入飼糧に依ての牛飼わ、牛乳が高價に賣れれば、どをにか引合になるがもし牛乳が高價に賣れねると、毎日七八十錢も飼葉を食う牛を飼をていてわ、農家わ破産する外ない。同じ伊豆の賀茂郡が、田方郡よりも先き牛を飼い、其乳を下田港にあつた東洋練乳會社の練乳の原料に納めていたが、東洋練乳會社が不成績で破産すると、牛を持つ農家わやり切れなくなり、賀茂郡から乳牛が姿をなくした。なぜなら都會萬能商工本位の本家内務省で、牛乳取締規則が設けてあり、農家の搾つた牛乳わ自由に消費者へ販賣できず、極端に云えば、隣の人えも金を取つて賣ることが出來ず、その牛乳わ結局練乳會社の工場え安く供給せねばならぬからくりになつてゐるからである。東洋練乳會社が破産する位だから、都會萬能商工本位の内務省から見ると、極力練乳會社を保護奨励せぬと、日本乳製工業を發達せしめ、コンデンスミルク類の輸入を防遏できないと思をたである。森永其他の大資本工場の魔手が、裏面に延びたでもあるを。噂に聞けば、大森永の魔手わ、駒場の農科大學の内部にさえ延びて、市民衛生と云う立場から、巧妙に言論機關さえも取込み、東京でわ警視廳を動かし遂に低温殺菌と云う類の大資本のみが爲し得る面倒い設備をしなければ、牛乳の販賣がで

きないことになつてゐる。だから無智無資力の農民わ、一合一錢二厘か三厘で、練乳會社の工業原料に牛乳を上納せねばならぬ。バタの原料に上納すれば、牛乳一合わ只の八厘位にしか金を渡されぬ。そをした都會萬能商工本位の仕組であるから、東洋練乳會社が破産すると、全賀茂郡の多角形農業わ乳牛と云う最大の財産を無効にされた。今、同じ運命が田方郡の農家を失望落膽さしてゐる。なぜなら、田方郡の多角形農民わ、戸毎に乳牛を持ち、其乳を毎日三島町にある森永練乳會社と極東練乳會社へ上納してゐるが、兩會社わ不景氣だからと云うて、牛乳の受入を制限し、且つ原料乳の非常な値下げを發表したからである。しかし若し飼糧を自給してゐたならば、全然影響が違つてたであらう。

しかし五反や一町百姓に、家畜飼糧の自給ができる筈がない。そんな餘分な耕地があつても、それをすれば餘りにも多角形になり過ぎて、千手觀音でなければ出来ない結果、房州でも伊豆でも、牛を飼う農家わ飼糧を買うことになつてゐる。しかし眞に國產愛用を宣傳するなら、亞米利加から輸入される麥糠や、滿洲から輸入される豆糟や高粱で牛や鶏を飼つてゐる愚かな多角形農業に向い、何故に國產飼料の愛用を宣傳せぬか。そをすると都會商人の仕事が細る。斷然と、そんな都會萬能商工主義わ放棄せねばならぬ。そのとき五反百姓の戸別農業でわ、飼料の自給ができないことを發見して、農村の共働經濟を建設する必要を悟るであらう。農村の共働經濟が建設されれば、廣大な山岳原野を開墾して

如何程でも家畜の飼料が自給され、從て肥料も自給される。農業が肥料と飼糧の自給自足をするとき都會商人の營業範圍わ幾分か細るが、外國肥料と飼糧の輸入がなくなり、たゞそれだけで、少くも年額三億萬圓の金貨が流出しなくなる。

一六 副業わどをなつたか

農林省に副業課が設けられ、一時馬力をかけて副業が宣傳されたものである。もし有利な副業があれば、宣傳せずとも、農民わ探し求めているのであるから、何處でも盛に副業をやつたであらう。しかし無いものわ、幾ら探してもなく、引合わぬものわ、幾ら宣傳しても、やる譯に行かぬ。農家に副業が果してあるであらうか。私わないと答える。無理に探し出して副業をやつても、決して引合にならぬと答える。

永い農閑期を持つ東北農民わ、随分と熱心に副業を探し求めている。東北の冬わ長く、彼等の農閑期わ、その長い冬よりも更に長い。田植から引續いて三番除草までわ、中々忙しい。三番除草が七月二十日に終わる。十月の初に、早稲の刈入れが始る。此の夏の三ヶ月間にも長い農閑期がある。水田ばかりで、畑のない東北地方でわ、むろん養蠶の出来る筈がなく、暇に苦しんでいる。刈入れが始り、秋の仕事が十一月末に片付くと、四月の耕耘まで、ずるぶん長い農閑期がある。四月の耕耘も、馬耕でやるから、馬を使う一人の男手に濟まないなあと云いつゝ、まだする程の仕事がない。五月に入

つてから、愈々猫の手も欲しくなる程忙しくなる。忙しいのわ、春と秋で、合計五ヶ月位であり、其餘の七ヶ月位わ、するにも仕事がない。だから彼等わ閑居して、ずいぶん根氣よく、青年に到るまで酒を飲む。

山形縣南平田村から共働學校一回生に菅原清一郎氏が來ていた。彼は禁酒禁煙の模範青年であるが青年の集會に出ると、何時も酒が出、酒を飲まない彼わ手や足を抑えられて、頭から酒を振りかけられると苦しい體驗談をして呉れた。それを云う工合に青年が閑居して、餘り善くない習慣に耽つて居るから、私が其村の農會から招かれたときなど、講演會え青年わ殆んど出て來ず、心配顔した中年以上の人々のみが聞いて呉れた。講話の後で、私わ必ず質問を許し、遠慮のない反對論や、聽衆一同の意見を聞くことにしている。質問の一に農閑期に適當する副業わないかと聞かれた。私わ即座に、都會を眞似した副業わない。あつても叩き倒されて、農村でやつてわ引合にならぬ。しかし諸君わ長い冬の炬燵に入れる炭をどをしているか。都會の商人から買をている。その通りである。賣る副業よりも、使う副業を考えれば、幾らでもあるわないか。先づ炭焼の副業から始め給え。家を建てる材木それも諸君の副業に依つて作るをわないか。着物、それも出来る。しかし諸君の村わ田のみで、山も原野もない。けれども二里か三里か行くと、羽後の三山が鳥海山でも、月山でも、羽黒山でも、其

他の山々が、長い裾野を引いて、諸君が来て呉れるのを待つている。私わ詳細に、部落農民が共働すれば、山岳原野に植林し、炭焼でも、製材でも、桑を植え蠶を飼ひ、蠶の生絲で織物を織れることを述べた。此等が副業であり、此等以外に、都會と競争しての金儲けの副業を断じてないことを、庄内三郡、秋田の仙北平野、新潟でも、津輕でも、會津でも、廣い平野の農民にわ必ず語り續けている。

副業を金儲けの仕事と思うから、探してもなく、無理してやつても引合わない。同じ南平田村から共働學校二回生として来た小林静治氏わ冬の農閑に藁細工をすると、暗いから暗いまで稼いで三十銭にしかならぬ。藁の原料代金十七銭を差引くと、純利益の手間賃が十三銭であり、米代さえも出て来ないと、遙るばる手紙で報告して呉れた。だから篤農家森繁氏わ藁を出さず、家畜の飼料にして土地の肥料に返えせと勧める。千葉縣で人造肥料の吠を盛に副業としているが、一手專賣の門倉商店が、全國え廣く手を延ばし、人造肥料會社の各工場内え専用倉庫を設けて、吠の製品を幾萬と積み上げ、何時でも即座に大量注文に應じられるよをにし、一方主要産地の各停車場えも、倉庫と出張員を派遣して置き、農家の作つた吠を残らず買占める。でわ高く買をて呉れるかと云うと、原料の藁を肥料とすると見做しての藁の元價え、最低手間賃一日二十銭か三十銭を加えた金高が、門倉商店の仕入一定値段であり、其仕入値段え大量輸送の運賃や諸費用を加えたもので、精々勉強して、一手專賣に、

大日本人造肥料會社の各工場わ申すに及ばず、全國の大工場え、必要次第即日幾十萬枚でも納めるから、到底仕方がないのである。農民の副業とわ、都會で出来ない仕事を、單に手辨當で働かして呉れる意味なのである。

人口の六割も七割もが都會で生活するのであるから、都會でやれる仕事わ、悉く都會え取り上げることになつている。農村に有利な副業があると思えば、農村と都會の人口割合直線を知らぬ者である。都會の發展とわ、都會で出来る仕事を都會え取る意味なのである。都會萬能の根本思想を訂正せず、農村に何か有利な副業あるまいかと探して見ても、金の草鞋わゴム足袋とゴム靴に變り、繻絆わメリヤスに變り、脚絆わゲートルとなり、國粹を宣傳する青年團も歐化主義の團服を纏ひ、自轉車と乗合自動車を見ると、テクテク歩く氣になれず、肥料も舶來、飼糧も舶來、洋風の菓子を噛み、カフェーの前にわ立ち止まり、小供もエプロンを喜んで、電氣の光る農村に、今時副業なぞ云うものが有り様がない。高橋龜吉氏わ生活様式の歐化に付き、面白い數字を示してくれた。(婦人運動十二月號)。

明治の初年我々日本人の生活様式わ急速に歐化した。ことに歐洲戰後、就中震災を劃期として衣食住のすべてが著しく歐化し、之れがためにこの方面の輸入が激増したと云う事實を見逃がしてわならない。紅茶、毛織物、自動車、ガソリン、活動フィルム、レース等を初め、衣食住が洋風化し

た結果として輸入が殖えたと考えられるものを調べて見ると、歐洲戦争までわ輸入全體の六分七八厘しかなかった。處が今日でわ一割一分内外に殖えて居る。金高で云うと戦争前までわ四千五百萬圓内外の輸入に過ぎなかつたものが、今日でわ二億五千萬圓内外になつて來た。其の外に原料として輸入される皮革類羊毛の如きものを入れて、戦前わ二億五千萬圓であつたのが、今日に於てわ十億三千八百萬圓になつて居る。

誠に面白い調べである。都會萬能、西洋形式謳歌の結果わ、農村の生活様式をも一變さし、今に米俵も改良されて、ガンニーバッグに變わるであるを。現に其を發明して、私の處えも宣傳に廻わして來た。

ガンニーバッグ式米袋わ布製であり、鼠と虫を豫防する薬品を浸み込ましてあり、十年位は使えるから、日本中が其を使うと、鼠喰や虫喰の損害だけでも幾千萬圓とか儲り、非常な國益となるぞである。其代り少し値段が高く二斗袋で八十錢、しかし十年も使用出来るから結局安く付くぞである。副業どころか、盆槍していると、今に米俵までガンニーバッグに取られてしまふぞ。

都會萬能商工本位を承認する限り、農村にわ絶対に金の儲かる副業わあり得ない。もし有れば直ぐ利巧な都會人が、其を都會で大量生産にやり出す。山本鼎氏が農氏美術を考案しても、儲かる品わ、

直ぐ都會の工場で大量生産をして壓倒されることである。だから農村にわ儲かる副業わないと絶對に覺悟し、副業に依て農村が立ち直るなど無い夢を見ず、眞の農村振興策、共働經濟の確立に向い、協力一致して進まねばならぬ。

儲かる副業わ確にない。私の郷里土佐の村々でわ、昔わ紙の副業収入が、本業の米よりも多い處があつたが、此頃でわ日本紙業株式會社と云う大工場で、瑞典や加奈陀から輸入されるパルプを、苛性曹達で溶かし、藁まで器用に突き雜ぜ、大きな鐵の圓筒のロールにかけて、一締一圓位の安い半紙を大量に生産するものだから、もを手漉の紙わ、土佐の農家の副業でなくなつた。今も残つて居る農家の副業わ、都會でやれないものばかりで、それも飯だけ食わしてもらつて、只だ働かせられる位の安い手間賃、即ち辨當代にしかならないものばかりである。例えば私の居村葛山附近わ、冬期箱根竹とも稱する野生の小竹を切つて、パイプや煙管の羅字を作つて居るが、山の竹籾に一日中入りびたりとなり、擔げるだけ擔いで歸り、終日の手間賃が四五十錢にしかならず、竹山を買をた竹の元代を差引くと、ほんの二十錢か三十錢が手間賃である。しかしそれでも、取らぬよりもましであり、辛棒してやつて居るが、行末を考へると冬の農閑期に山の開墾でもした方が、永久の生活安定となる。しかし開墾でわ其日に金が取れぬので、竹切りと云う誠に割の悪い儲からぬ副業があるため、日々の二十錢か三

十錢に誘われて、永久遠大の計畫を立てる事ができず、何時迄も苦しんでいる。だから副業を農村を救わず、永久にも農村を疲弊のドン底に縛り付けて置くものである。しかし心氣を一轉して、農村に共働經濟を確立するならば、一切の工業が成立し、農村の全局面が一變する。私は詳細に之を述べるであろを。

一七 移民わどをなつたか

共働經濟の徹底的な農村振興策を述べる前に、なを一つ有り觸れた農村疲弊の救済案移民に付いて少しばかり語つて置かねばならぬ。移民に依て農村の疲弊を救い得るであろをか。假りに移民が成功するとしよを。それでも移民を農村の振興に役立たぬ。たと移民が成功すれば、捌け口のない農家の次三男が喜んで外國へ出て行かれるだけである。だから移民を農村を振興せず、單に農村を人口過剰の惱から保護し得るだけである。

貧乏人の子澤山と、澤山に生れる小供が、何處へも出て行かず、大きくなつて何時までも家の中にごろくしていて、働く仕事さえないならば、其家潰れてしまふ。日本の田畑は六百萬町で、農家戸數は五百萬戸だから、一軒がざつと一町百姓をしている。その狭い一町の田畑を、次男や三男に分けていけば、五反百姓となり、三反百姓となり、忽ち貧乏になつて、とても遣り切れなくなる。今迄は兎も角も都會が膨張し、其の方へ貧乏な農村に生れ落ちた次男も三男も引取つて呉れたが、もを都會で満員で失業者が溢れ、この上農村の次三男を引取る餘地がない。此に海外移民の問題が起るのだ。

參謀本部でわ考えているであろを。随分と無理をし、國民の貴い血を流さして、朝鮮臺灣樺太を取り、滿洲も日本の勢力範圍にしたことであるから、殖えて餘る農家の次三男わ低きえ流れる水の如くどしどし出掛けて行く筈だと。しかるに事實わ反對であり、朝鮮にも臺灣にも樺太にも滿洲にも、日本人が移住して農牧林漁業をしている人數わ誠に少なく、昭和三年末の調べによれば、

朝鮮に 五萬三千八百八十人

臺灣に 一萬九十一人

關東州に 二千二百六十四人

合計僅に六萬五千五百三十五人が、内地から移住して農業や牧畜や林業や漁業に従事しているだけであり、朝鮮人や支那人の方が遙に多く内地え移住し込んで來ている。だから朝鮮を取つても臺灣を取つても、また滿洲を日本の勢力範圍にしてみても、よし西比利亞を取つた處で、日本人が海外え移民する氣遣わなく、或わ逆に氣候のよい日本が支那人や露西亞人の殖民地になるかも判らない。參謀本部あたりでわ、そをした筈でわなかつたのにと、不思議に思もをているであろを。

理由わ誠に簡單である。朝鮮にも臺灣にも滿洲にも、先住の朝鮮人や支那人がいる。彼等の生活程度わ西洋文明式でなく、其の土地の產物と、自分の工夫だけで、自給自足の生活をしているから、殆

んど金がかゝらず、非常に安價に生活して行かれる。だから、日本の金持が朝鮮や臺灣や滿洲で安く土地を買占めて、米や甘蔗や大豆の大農場を作ると、朝鮮人、支那人が手辦當で一日二十錢か三十錢で働きに來てくれる。其の中え日本の百姓が、先祖傳來の田畑を賣拂らい移住した處で、手辦當で二十錢や三十錢の勞働をし、しかも勞働の點でわ、朝鮮人支那人わ少しも骨折りを厭わす、うんと働くから、迎も筋肉勞働をしに日本の百姓が出掛けたのでわ、日本の百姓わ辛棒し切れず落伍者になる外わない。だから、貴い血を流して朝鮮や臺灣等を取つてみても、内地の大金持が安い土地を買占めて朝鮮人や支那人に職業を與える程のものである。日本内地の農民も、一時わ政府當局の宣傳に乗り、先祖傳來の田畑を賣つて出掛けてわ見たが、筋肉勞働の百姓を自分ですることに掛けて、とても朝鮮人や支那人に及ばず、つまり大金持が土地を買占めて、安く朝鮮人や支那人を使い、大農場を經營するにわ、朝鮮も臺灣も滿洲も好い處であるが、日本内地の農民が自分で百姓をしに行けば、結局、手辦當で一日二十錢か三十錢の朝鮮人や支那人と同じ收入にしかならず、到底辛棒し切れないのである。だから朝鮮や臺灣や滿洲え出掛けている内地人わ、自分で筋肉勞働をする農民でなく、大農場の經營者か、其監督者か、商工業者か、役人か、會社員に過ぎない。

こんな話もある。内地の魚屋さんが滿洲え出掛けて魚屋を始めた。初わ自分で天秤棒を擔ぎ勉強し

たが、支那人が一日二十錢か三十錢で来て呉れるので、自分で天秤棒を擔ぐが馬鹿臭くなり、支那人を雇せて天秤棒を擔がせ、自分わ背廣の洋服を着込み、大福帳を携けて、其後から着いて廻ることにした。幾月かたつと、その支那人が顧客の顔を覚え、自分で魚屋を始め、安賣して顧客を荒しだした。それでも内地の魚屋さんわ、二度と天秤棒が擔げず、新しい支那人に、新しい支那人にと、天秤棒を擔がせて、兎も角も魚屋を續けていと云うことである。内地の百姓が朝鮮支那へ移住しても、理窟わ略々同様であり、人を雇せて大農場を經營するほど資本のある者わ成功するが、そをでなければ働くが馬鹿らしくなり、結局秋の收穫物を朝鮮人や支那人と同じ相場に賣つて、その僅な賣上げ高の中から、よし一日二十錢にしる三十錢にしる、一年中に儲をた手間賃を差引くと、自分の生活費と翌年の經營資金が足らなくなり、即ち失敗してしまふのである。

ブラジル移民わどをであろをか。共働學校の終業者で、ブラジル移民を決心し、種々に調査した者がいる。私共の共働農場えわ絶えずブラジルえ渡航したいから、暫く滞在して百姓の稽古がしたいと云う希望者が来る。彼等わ眞剣にブラジルのことを研究している。彼等の友人や親戚でブラジルに行つてゐる者もある。其等の種々な材料が集まつて結局に於ての判斷わ、ブラジル移民が有望でないといふことである。

ブラジル移民の宣傳をして農村を廻る者わ、とても立派な洋服を着て、大きな長い髯を生し、デカイ時計の金鎖をぶら下げ、見るからにブラジルえ行けば、あんなにも金が儲かり、立派な身なりができてをだ。愚かな農民わ彼の身なりを見たばかりで參つてしまふ。しかしブラジルが儲かるのでわなく、ブラジルえ行く移民を搾り、或わ政府補助金の上前をはねるブラジル移民の宣傳者が肥え太り光り輝いてゐるのである。ブラジルえ移民する者わ、だいぶミイラになるらしい。年々一萬五千人も移民するのに在住日本人の總數わ十萬人位でしかない。

熱帯地方の廣いコーヒー園に入れられて、幾十エーカーの廣いコーヒー園の除草を請負わされ、その一年中の除草の請負賃が、邦貨に換算して七十圓と聞いただけで、移住者の困難が想像される。後から後からと盛に草が生える。毎日々々、終日々々除草ばかりしてゐる大陸の單純生活であるから、多角形集約農業の日本が戀しくなるが、行く時さえ旅費がなく、政府から補助されたのであるから、無論歸えることわできない。除草に氣負けて草が生えると、雇主と其監督が目を光らし、勝手に日雇人夫を入れ責任區域の除草をさす。しかし其費用わ、七十圓の請負賃から差引くので、間誤々々しているともマイナスになる。とてもやり切れないで夜逃げし、猛獸毒蛇の餌食になる者もあるとのことである。收穫期のコーヒーの實の取り入れに、高い梯子を上つて仕事すると、女でもガンニーバグー

杯が幾等かになる。之も請負制度であるから、一生懸命に働けば、どをにか一年中の生活わできるが、とても國元へ送金するなどわ思いもよらず、あえぎく生活している其苦しみを慰めるものわ、居酒屋程度の粗末な殖民地の飲食店であるが、蠅のいること、居酒屋の店先に並べてある料理の皿の上に、眞黒くなつての蠅ばかりである。そのうるさい蠅よりも一層うるさい奴が、ごまの蠅であり、のらりくらりと長虫のよをな博徒の親分が、要所々に陣取つて、よい鴨わ來ぬかと待つている。

考えても見るがよい。熱帯地方のブラジルくんだりまで、一年七十圓の除草賃を稼ぎに、二三百圓もかかる旅費を拂せて、苦しい労働をしに行く馬鹿が、世界わ廣いが何處にあるか。支那人さえも行かぬ。日本政府が旅費を補助して宣傳するから、つい騙されて行く氣になるのである。

ブラジルわ土地が安いから、資本さえ持つて行けば成功するであろを。なるほど二十五町歩位の大農場を經營するに、三千圓も用意すればよいのであるが、二十五町歩の大農場わ、とても自分一個の力でわ開拓も經營もできないから、どをしても人手を雇わねばならぬ。人手を雇えば、ブラジル人並に、請負制度でいじめて、搾れるだけ搾らねば、到底成功どころか生活できぬわ必定である。家族の自家勞力で狭い集約農業をし、多く人手を使つて、烈しく搾る經驗をしたことのない善良な日本農民に、そんな非道な眞似ができる筈がなく、だから日本農民がブラジル三界へ移民して、無事に成

功し得ると思えば、大きな誤である。

私わ決してブラジル移民の非難をして喜ぶ者でない。今迄のブラジル移民の方針が誤まつていゝことを指摘し、正當な確實に日本のブラジル移民を成功さす秘訣を語りた爲に斯く云うのである。土地の狭い日本人わ、必ずブラジルえも、南洋えも、亞弗利加えも、西比利亚えも、遂にわ世界各地え移民して成功しなければならぬ。しかし搾取されたり、搾取したりしてわ、到底今後の移民わ成功しない。東京の市内や、東京の郊外に、移民のことを教える公私の専門學校があるが、ブラジルや南洋え、東京に似た都會を建てに行く人足を教育するのでわあるまいし、東京の眞中や附近で移民教育をするわ、をかしいことである。札幌農科大學の卒業者が、熱帯臺灣の農事指導の全權を握つていゝのわ、札幌大學が殖民地にあり、自然と學生を殖民氣分で養成している結果であり、氣候の相違する臺灣の農業まで、駒場や京都や仙臺の農科大學を押し除けて、札幌農科大學の出身者が指導していゝるのである。斯した微妙の心理をよく了解せねばならぬ。

移民教育の大きな誤わ、軍國主義の指導精神である。鐵砲で土地を取代り、鋏で土地を取れと云う式の軍國移民教育の誤謬精神が、東京市内の拓殖大學あたりを教えている。そんな思想の人間が、心から土地を愛して終生の百姓ができるか。世界の未開の土地を殖民して、終生の百姓をするにわ、

非常な困苦に耐えて、自然と土地を愛する心から、精根を打ち込んで、コッ／＼と氣長く努力しなければならぬ。一氣呵成に鋤で土地を取る、そんな短氣の猪武者に、氣候の悪い未開地で、鈍重に努力せねばならぬ百姓の移民ができる筈がない。

南洋でも移民が成功してをらぬ。其原因に付き、まだ確定した結論に達してをらぬが、私が直接に聞いた實地識者の意見を紹介しよう。井上準之助氏に云う。南洋移民が駄目だ。南洋へ行くと二代目か三代目になると退化して、之が日本人の子孫かと思えるほど體格が悪くなる。だから日本人は到底南洋へ移民しても成功できない。井上氏に徹底的な悲觀論者である。幾回も南洋を視察し、また露西亞へ石油協定の日本代表として行き、移民問題を語る資格が十分にある奥村政雄氏に云う。南洋で日本人が退化するのわ、筋肉労働を怠るからだ。南洋へ行っている日本人は、決して自分で労働せず、農場やゴム園等で、土人の労働を監督するだけだから、身體が弱り退化する。奥村氏に悲觀論者でない。支那の奥地から、安南暹羅にまで永い間滞在し、最も早く日本の移民問題を調査した權藤成卿氏に云う。日本人はコッ／＼して猪武者的にやきもきしすぎるから、熱帯の南洋へ出ると、身體が續かなくなり、それに南洋にわ味の焼物など非常に安いから、つい食べ過ぎ、身體を駄目にしてしまふ。南洋土人は至極香氣で毎日少しばかり労働するが、それでも天然が生活品を除るほど與えてくれるから、土人は氣長く香氣に暮している。日本人も南洋へ行けば、土人の如く香氣に少しづつ労働してわ、味の物を少しづつ食ひ、猪武者の如くいら／＼せず、香氣至極にやつていけば、子孫が退化する心配はない。權藤氏に昔品川彌二郎氏が南洋移民をさして、一氣呵成の成功を夢見たとき、南洋でわ猪武者の反對に、ノラリクラリと氣長くやらねば却て失敗すると忠告したとのことである。眞理を恐らく三人の識者の言葉を集めた處にあるであらう。現在の移民の如く、監督だけして働かずにいけば、身體が弱るに決つてゐる。熱帯地方であるから、諸内臓の分泌作用を盛にせぬと消化不良等々の病氣を起すわ必定であるから、適度に身體を労働させる必要がある。併しいら／＼してわいけない。自分で労働せず、香氣至極な土人に働かし、いら／＼だけして鋤で土地を取る氣分であるから、退化して子孫が日本人でないらしい顔付をしますのである。鋤取式軍國主義の拓殖教育は是非改める必要がある。北海道の屯田兵のことも語りたが、餘り長くなるから省略し、北海道の開拓を決して屯田制度によつたものでないことだけを云うに止める。

共働主義のみが我國の海外移民を、世界の如何なる處にでも必らず成功させます。共働主義は海外移民だけでなく、内地移住をも成功させます。遠く海外へ移民する前に、まづ内地面積の八割を占める、廣大な山岳原野から開拓し、共働農業の大精神を現實に教育しようをでわないか。拓殖學校を東京市内に

設けず、箱根の山の高原か、廣い富士の裾野えでも移し、本當の拓殖氣分の中に、共働開拓と共働移民の大精神を養成しよをでわなないか。その大精神の養成によつてのみ、日本農民の疲弊が完全に救済される。ブラジルに於ける大獨逸移民の成功わ、全く共働精神による。大露西亞さえ、農村問題に悩み抜いて、共產主義から共働主義へと變つた。その共働五ヶ年計畫の下に、西比利亞さえも着々開拓されつつある。小日本わ一層奮勵一番、大に覺醒して知識を廣く世界に求めて、むしろ日進月歩の世界文明に先驅する努力に勵み、膽玉の小さい時代錯誤の歛取式軍國主義や、狭い小さい優越感教育を一掃し、世界全人類と打つて一丸となる、普遍意識の大共働國粹農本精神に蘇生せねばならぬ。そのとき始めて疲れ切つた我國農村が振興されて、農民わ復活するのである。

年々百萬人近く増加する人口をブラジルへ運ぶにわ少なくとも百萬噸の汽船がいり、其費用を思うとブラジルが無制限に日本移民を歓迎しても、増加人口の大部分を遠隔の地ブラジルへ送ることわできない。が、滿洲わ便利である。滿洲の歴史を調べると元來が朝鮮高麗の故地であり、朝鮮人や日本人が其處に發展するを妨害する理由わない。しかし我等わ領土擴張の軍國主義を理窟付ける爲でなく、世界わ全人類に對し平等に開放されねばならぬ眞の正義人道から、まづ滿蒙の國境より撤廢し日本人も自由に移住し得ることを主張する。此意味に於ての鬭争のみが過渡期に許されよお。

一八 結局農民わこんなになつた

長い間の封建武家の軍國主義と、佐々木四郎高綱式誤魔化し優越感教育に誤まれて、梶原源太景季をさえ欺く狡智と奸計が、農民を搾り疲らし、都會萬能の不景氣と失業と、行詰つて破産しかけた農村を出現せしめた。

高橋龜吉氏わ歐洲戰後、就中震災を劃期として、衣食住のすべてが著しく歐化したと云うが、確にそである。歐洲戰時の好景氣成金時代を劃期とし、既に都會でわ完全な歐化主義が流行した。官公私立の大學が濫設せられ昇格せられ、臺灣の殖民地にまで、人口に割當てての商科大學が設けられた都會萬能の知識教育が全盛を極め、官吏教員會社員わ増級せられ増俸せられ、此に歐洲戰時の好景氣を劃期として、彼等都會智識階級の歐化主義を大震災を経て、不景氣の今日にまでも維持する爲に、金融資本の利潤と、無數の官公吏教員を養う財源としての租税が、結局の負擔者を農民として課せられてゐる。農民わ今や重税に苦しんでゐる。

商工業者わ反對するかも知れぬ。我等商工業者わ、不憫な農民を搾らず、外國から安い原料を輸入

し、紡績や織物や紙や機械を作り、其を輸出して儲けている。鑛山や炭坑成金わ云うであろを。我等わ地下より鑛石や石炭を掘り出し金を儲けている。決して農民などを搾つてをらぬと、商工業者も鑛山師も異口同音に私を非難するであろを。『綿關係品、綿糸布とゆうものゝ輸出が殖えて居る、これが現在でわ五億圓許りあるが、然し原料たる綿花わ全部輸入品であるから、得るところわ加工賃に過ぎないのだから、今日對外支拂の大部分わ綿關係品によつて居ることになる』と、高橋龜吉氏わ云うて居る。それでもなを商工業者わ自分達の儲けで都會の繁榮を維持して居ると云うのか。紡績業者の莫大な儲けも、紡績糸や織物を外國へ輸出しての儲けよりも、日本内地の農民え高く賣り付けての儲けが多い。しかして原料の棉や、都會の歐化材料を輸入する支拂の資金わ、百姓の作つた桑と、百姓の育てた繭から來て居ることわ、毎年の輸出入總金高と、生糸其他絹製品の輸出金高とを對照して見れば直に判明する。例えば昭和四年に於て

輸入總金高

二十二億千六百二十四萬圓

輸出總金高

二十一億四千八百六十一萬圓

生糸輸出金高

七億八千四百萬圓

其他絹製品同上

二億二千六百萬圓

其他絹製品同上

一億千四百萬圓

生糸絹製品輸出總金高

九億二千五百四十四萬圓

我國の海外貿易を決議するものわ、生糸其他の絹關係品であるから、事實に於て農が今日でも我國の本なのである。もし農民が一年でも米と繭を作ること中止すれば、全人口の六割を占める都會人わ、忽ち青菜に鹽となつてしまふわ必定である。しかし農民わ芋でも大根でも麥でも作つて、平氣で一年位の我慢ができる。鑛山師や石炭堀が幾ら意張つても、永久に鑛物が掘れるものでなく、我國石炭の運命わ百年と續かない。鑛山師や石炭堀わ、永久にも大切に保つて、未來の國民の爲に節約して置かねばならぬ土中の寶を、亂堀し亂賣して私腹を肥しているのだ。亞米利加のロックフェラーや佛蘭西のロスチャイルドの富も、地下の石油を掘り出して亂賣した賣上金の横領でしかない。永久に循環して枯れない國本の財源わ土地表面の最有効利用、即ち農業なのである。

農民を絞り枯らすものわ、今日に於て金利と税金である。金利のことわ重ねて云わぬ。村々の村勢一覽で税金が如何に重い農民の負擔であり、農産賣上の三分の一以上が、好景氣時代でさえ、たいがいの農村でわ、租税に取り上げられていることを知つた。歐洲戰時の好景氣時代を劃期とし、増税の上にも増税が法律となり、村々でわ戸數割を必要に應じて引上げ、官公吏軍人判官教員の生活様式

を歐風に優遇した。上の好む所を下に強制し、農村青年や青年團服などを着せられ、農村の中學校や女學校や農學校でも、歐風の洋装をさし、農民や重税地獄で洋装したハイカラ鬼に締め殺されんとしている。

無味乾燥な統計數字を陳列する代わり、私が静岡新報の依頼に依て、昨年十月十四日の同紙に掲げたものを轉載する。

四五日前のことであつた。小笠原産業組合部會の主催で、不景氣打開、農村復活の講演會が堀之内農學校で開かれた。篤農家の永田新司郎氏と私とが出席した。満堂に溢れる聴衆、その中に小笠原の主な産業組合幹部を初め、町村長や農會の主要な人々も居られた。座談の席上で、地主らしい人が悲鳴を揚げた。米が安くなり、とてもやり切れないと、深い溜息まじりの大きな悲鳴を揚げた。彼曰く、小作人の取る分わ生産費と見て、土地収入わ一反三俵の小作米だが、農家にかかる一切の税金公課を計算すると、小作米一俵に對し、凡そ六圓に當る。米價が高く、一俵十圓以上であれば、土地所有者もなんとかやつて行けるが、此頃のを毎日米が下り、一俵七圓臺になると、逆もやつて行けない。もし米價が此うえ下り、一俵五六圓にもなれば、百姓が完全に破産だ。米を賣つて、其金で税金さえも拂えなくなる。

私わ餘り意外な話を聞いて、列坐の人々に果してそんなに税金が高いかを問い返した。やはり地主らしい人が一切の公課を計算すると、どをしても小作米一俵に六圓わかゝりますと、列坐の人が異口同音に答えた。それでも私わ餘り不思議に思い、其翌日幸にも横山小作官に行き遇をたので、往來の眞中での立ち話であつたが、一體静岡縣下の平均でわ、小作米一俵に税金その他の公課わ幾何かゝるか尋ねた。小作官わ別に統計わないが、小作米二百俵位を取る地主になれば、戸數割や所得税も多いから、種々の公課を加えると、小作米一俵に六圓になるでしよと、一俵六圓の悲鳴を裏書した。

意外であるが、もを私わ疑うことができない。小作人の如く、自作農の如く、地主さえも行詰り農村わ今や疲弊のどん底に墜ちて行きつゝある。地主に同情して、斯く云うのでわない。小作人や貧農が困つている事わ、事新しく云うまでもないが、地主さえも困つて、眞に農村わ疲弊のどん底にある事を云わんが爲に斯く物語るのである。富士郡でわ多數の大地主（例えば静岡縣隨一の大地主で、三條公爵の令嬢を娶つてゐる松永氏等）が没落して、農會費さえも支拂えない村が多いと聞いている。信用組合理事をしていて、信用組合の貸付金が回収できない爲め、低利資金の連帶保證人として、自分の全財産を農工銀行や勸業銀行え取上げられた數多い人を知つてゐる。……土佐か

ら来た手紙に、懐近不況に不況が加わり、殊に急變的に満價が低落し、殺人的の状態となりました。一方縣稅や村稅が増して来る。金持階級の人々や、もすれば借受人に向つて、不動産差押其他強制處分をする爲に、一日に何戸と云う破産者が續出してゐる。此手紙わ誇張でない。土佐山村の實狀を私に訴えたものである。

農村の殺人的不況わ我國ばかりでない。隣邦支那なぞでわ、眞に殺人的農村の行詰りよである。滿洲の友人から、支那農村の窮狀わ筆にすることさえもできません、銅貨二枚で最愛の子供を賣らねばならぬ人々さえある程です。……嗚呼、何と云ふ眞に殺人的の農村疲弊、世界を通じての農村疲弊、どをしても之を救わねばならぬ。

地主階級の代辯をする譯でわないが、事實に於て我國農村地主さえも遣り切れぬほど、深刻な疲弊に落ちている。今までわ小作人が地主に搾られて、窮迫してゐると思われていたが、地主をも搾り盡す都會萬能の商工金融資本主義があり、その機巧がらうの上になを政治の仕組が、小作米一俵に付き六圓の割で農村と農民を搾り枯している。農林省や帝國農會で聞いて見ても、世間はまだ公表わされてないが、田一反に對する税金公課の合計わ全國平均が十三圓五十錢程になるをであり、その上に、

寺院僧侶への寄附や、砂糖稅、酒稅、煙草稅、郵稅、電信電話稅、鐵道稅と云う種類の消費稅や官業

收益の國民負擔を總計すると、農村と農民わ、働き高の八割も九割も取上げられて、全く骨と皮とに瘦せ衰える譯である。でもあろを、英吉利勞働者わ長い間搾取と壓迫を受けて頭蓋骨づがいこつが彎曲し、三角の尖頭形に退化したと云うことであるが、我國貧農の子供は、元氣なく瘦せ衰ろえた青い顔で、口元わ締らず涎よだれを流し、光のない目の下から、青淚あそはなをぶら下げている。農民わ南洋え移民するまでもなく、頭腦のよい秀才の貴い血を都會に奪われて、日本内地に於て退化し初めた。疑うならば貧農の子供の顔と、都會智識階級の子供の顔とを、一所に並べて見較らべるがよい。

米一俵が六圓では、小作米の全部を租稅公課に差出さねばならぬので、地主も愈々食えなくなり、靜に坐つてゐることができず、小作地を取り上げて、自分で百姓することを始めた。其結果わ地主からの土地返還請求となるが、小作人わ地主から請求されても、田畑を返えすと、愈々完全に生活ができなくなるから、其請求に應じられない。此に地主の土地返還請求に基く小作爭議が起るのである。昭和四年中にそをした原因からの小作爭議わ六百二十件の多數に上つた。昨年わ一層、此種類の小作爭議が増加し、一月から六月までに既に五百七十二件の多數となり、全國小作爭議の六割以上が、地主よりの土地返還請求に原因してゐる。之も實際眞に農村が行詰つたからの、ぎり／＼結着けつちやくの地主と小作人との争であり、米價が下落のままに居据わり、租稅が相變らず小作米の大部分を取り續けてゐると

地主を止むを得ず小作地を取上げて自作を初め、或わ其土地を朝鮮人でも入れて、安く働かさねばならぬよをにでもなり、そのとき小作貧農を生佛いさばとひにならねばならぬ。友部ともべの日本國民高等學校式に、地主の子弟に唯だ働けと、自分で農業するを教えるもよいが、小作人に對する其影響をよく考えねばならぬ。共働農業のみが、地主と小作人との關係をも好都合に導き、共働農業となれば、地主は小作地を取り上げず、小作人と地主と一所に働いて、双方とも睦むつじく、萬人勞働がして行ける。困難な我國の土地問題をも、地主と小作人との血の出る小作爭議をも、凡てを凡て解決して、眞に農村の疲弊を救い、農村を永久の振興に導くものわ、ただ共働農業の規範きはん生活せいかつしかないのである。

一九 凡ては都會萬能の弊害だ

先輩師友權藤成卿翁、幾回となく私に語る。彼れ日韓合併の際、伊藤公の顧問として朝鮮統治に参劃し、朝鮮人の爲め極力歐化主義に反對したが、遂に彼を敬遠けいゑんされ、病と稱して内地に歸つた。歸るに臨み朝鮮統治の諸大官に向い、朝鮮古來よりの物々交換市場ぶつぐわんを決して壊こわしてわならぬと、最後の置土産みやげに呉れども語り残して置いたのに、彼が歸ると、濫澤一派の都市萬能商工金融資本主義が朝鮮統治を一嘗ひとしめにし、朝鮮内地の各地方に在つた物々交換の市場を、こんな野蠻なものと一喝し、貨幣交換の歐風制度に革命してしまつた。

農村の中心となる朝鮮の町々にわ、毎月二回位、物々交換の市場が開かれ、市場の入口にわ掛員かゑんがいて、農民が牛なり米なり豆なり、種々の餘分な農産物を持参すると、入口の掛員が其價額を値踏ねふみして、其價額に應じ、幾本かの竹の割符わりふを渡す。竹を二つに割り、相方え同じ番號を筆で書いたものを幾本か、價額に應じ渡してやるのである。竹を二つに割つたのであるから、同じ番號のものを合せるあはせると、全く一つに合ひ、決して偽造することわできない。しかも誠に簡單に直ぐできるのである。さて

竹の割符を幾本か貰らい、其代りに農産物わ市場の係員に引渡して、男も女も老人も小娘も、市場の中えぞろふと這入りこんで、町の商人も来て色々と砂糖や鹽や織物やを並べているから、欲しい品をなんなりと、例の竹の割符を代價に相當するだけ渡し、貨幣わほんの僅か、半端な釣錢にやり取りするだけであるから、穴の開いた一文錢が幾個かあれば、買う人も賣る人も、竹の割符だけで交換ができ、貨幣なしに取引が即坐に済む。買い餘つた竹の割符があれば、次の市にも有効であるから、其儘持ち歸つて差支なく、男も女も老人も小娘も、日暮れぬ内に、銘々の満足そをな品物を交換し終えて、嬉しく部落々々えと歸つたのである。處が、これを見た澁澤榮一氏と其一黨わ、なんだ野蠻だとい撃の下に、伊藤公以下、朝鮮總督府の役人を甘く欺きをさせて、都會萬能商工金融資本主義制度を、朝鮮内地の村々と町々え輸入し終えたのである。

今日朝鮮の内地を旅行してみるがよい。何處の町にも昔ながらの市場があるが、入口わ嚴しいコンクリートの門構で、立派な事務所が立ち、そこえわ銀行員か其手先が出張し、大きな金庫が備え付けてある。朝鮮の百姓が、男も女も、しかし稀にしか老人や小娘わ來ない、牛や米や豆や野菜類を持つて入口に來ると、市場の係員が値踏みして、其價額に相當する金高を銀行出張員の方え通知すると、大きな金庫から紙に印刷した札束を解いて、幾枚かの紙幣を渡して呉れるが、一日だけの紙片の前渡

し利息が一圓に付き四錢にも五錢にも相當する。農村の男や女わ、兎も角も紙幣の紙片を借りて市場に入り、入用な品物を買ひ、さて門口を出よをとすると又た係員が待ち構えていて、持ち込んだ農産物が賣れたかを調べ、賣れていれば銀行の出張員に通知する。それから銀行の係員わ帳面を調べて、前貸金の清算ができた出門切符を呉れ、やれやれと門を出るときわ、日わ西山に臼搗いて、まだ開け切らない朝鮮の部落を歩くにわ、老人や小娘に取り、風寒いことである。市場の歐風化された係員わ市場手数料も昔の三四倍に値上げして、一割位を取るであろを。物々交換の市場が、都會萬能の商工金融資本主義貨幣制度となつた當時に於て、一日の前借りの爲に、また市場の役人から、一割以上も差引かれた爲め、朝鮮人の生活に大打撃を與え、其當時わ冬の寒さに子供に着せる布を買うことができず、それ以來の朝鮮人の生活わ、哀れな程困難になり、反對に金融資本家の銀行わ、大きな金庫の前え出張員を坐らすだけで、只の一日の紙札の前貸に對し、四分にも五分にも當る金利を取り、全朝鮮の農産物を、斯くして都會の商品に化する其入口で、金融資本家わ濡れ手で粟の幾千萬圓を掴み取つていたのである。都會商工業と金融資本とが、如何に巧妙に農民を搾取する現制度を誤魔化し立てたかの内所談の一例わ斯くの如くである。

權藤翁わ我國古制度學の大家として、南淵先生以來、大江家の國學と、朝廷歴代の律令制度を傳え

併せて支那朝鮮の古制度史の奥底を極め、また支那の古文を読むことに於いても、恐らく世界唯一の現代人である。彼が明治維新以來、歴代の政府首腦者に招かれ、伊藤、山縣、桂、寺内の諸公も、重大制度を改める度毎に、我國古制度學者としての彼の意見を求めた。彼が常に農を國の本とすべきを遠慮なく述べたが、歴代の政府首腦者わ、また必ず福澤諭吉、澁澤榮一、田尻稻次郎氏等をも招き、西洋學者としての意見を徴した。福澤澁澤田尻の西洋學者が何と答えたかわ想像であるが、恐らく農を國の本と云う時代遅れで、そんな舊弊に捕われていると、西洋文明國の間に交り、一等國としての對等な交際が何時までも出来ないから、土臭い野蠻な百姓わ、そのままそつとして置き、知識と國力の一切を擧げて、文明都會の建設と、商工業による新しい經濟力の發展を圖らねばなりませんと進言したらしい。双方の意見を聞く者わ、伊藤山縣公の賢明を以てしても、耳を福澤澁澤田尻の方え傾けるわ當然であつた。かくして明治政府歴代の大方針わ、都會萬能商工本位主義より、最も利巧な金融資本主義へと進展したのである。日本銀行總裁松尾臣善氏等が、如何に狡智を以て桂公さえも欺き、我國金融資本の完全な搾取網を、會社や工場や鑛山や漁場や商店の背後と、全國農村の隅々えまで張りおせたかの奸計の巻わ、之を語らずに抹殺する。

我國にも古來物々交換の市場があり、竹の割符等が滞りなく其取引を計算していた。鎌倉時代など

物々交換が非常に發達していた爲め、殆んど貨幣を使う必要がなく、元寇のとき思い出して、幕府の金庫を開けてみると、長い間貯藏してある一文錢が互にくつ着き合い、打つて切り離すに難儀したとのことである。青砥藤綱が一文錢を拾をた古事わ、松明わ幾らでも山に行けばあるが、當時の錢わ支那からの舶來であり、容易に得られなかつた爲に、苦心して川に落ちたものまで探したのである。古事に通ずる權藤翁わ、官僚大學の講師に招かれたこともあるが、大學の馬鹿者共わよを教えぬと謝絶し、東京市外代々木上原一一八六に閑居している。志ある者わ邪魔にならぬ程度に訪問して教をうがよい。

農村疲弊の原因わ完全に判明した。その隠謀さえも暴露した。都會萬能の商工金融資本主義制度を清算し、天祖以來の我が國粹の精華を發揮するとき、農が再び本となつて、全人口の割合わ昔の農民八割に還えり、萬人わ勞働して不足のない生活ができる。そのとき初めて農村わ救われ、疲弊から反對の隆盛へと浮び上る。けれども福澤澁澤田尻も云う、土臭い舊式でわ、世界の一等國になれない。農を國の根本に取り返えしながらも、十分に西洋文明の長所を取入れて、眞に我國を世界の一等文明國とし、失業問題で破産しかけている獨逸や英吉利や亞米利加さえも、新しい正義と理想で指導し、また西洋文明の都會萬能商工金融資本主義により、搾取されて人民全體が青くなつて支那印度安

南暹羅 亞弗利加 ブラジル 等々の世界農民を幸福にするものわ、共働農業の新しい規範の生活なのである。

今迄の間違つていた。支那が減びねば日本が榮えない、合衆米國が盛になると日本が遂に亡びる。日本が結局世界を平定せぬと、日本人が枕を高くして寝ることが出来ない。此類の誤謬から、凡てに打ち勝つ獨逸を夢みて、カイゼルが世界大戦争の大賭博をした。都會萬能の商工金融資本軍國主義から割出すと、必らずそをした優越感の搾取思想となるのである。優越感の搾取思想こそ、都會と其學者が机上に思案する倫理である。

第一相互生命保險會社の専務重役石坂泰三氏が私の舊友である。隨分と親しい舊友であつた。正月休みに一所に伊豆へ旅行した事がある。種々な議論の中で、彼と私とが最後に離れた點わ、私わ全人類の利害が必ず一致すると云うに對し、彼わ人類相互の利害を決して一致せぬと固執した。私わ飽迄も、自分の利害わ他人の利害に一致し、他人の利害わ他人の利害に一致し、日本の利害わ、支那や印度や、合衆國の利害にも必らず一致すると強く主張した。此の最後の意見の相違から彼わ都會の住民として、商工金融資本主義の親分矢野恒太氏の寵兒となり、私わ都會を捨て、商工金融資本の財閥から去り、農村の山奥に入つて、コツ／＼と新しい農村本位の共働規範の生活を開拓している。

私わ都會に生れて都會に育ち、官吏にもなり會社員にもなり、都會の消費組合と其聯盟をも組織した。全人類の利害が必らず一致すると思ひ、少しも動かない信念を持ち乍らも、官吏生活をしてみると、其の内部にわ決して上下同僚の間に利害の一致がないを發見した。官吏こそ國利民福の爲に寢食を忘れて努力する貴い公職であると正直に思ひ込み、何も知らなかつた職人の俸の私わ、苦學して官吏の生活をして見た。中央官廳の最高の局課で、法律を制定し其解釋をする下働きもしてみた。けれども官吏の生活をしてみると、決して純眞な動機から租税の月給を頂いてるのでなく、上下が軋り同僚が競い、地位と俸給を競争して、のらりくらりと生活をしている虚偽を發見して驚き、私わ私を清算し私わ實業の會社に入つた。しかし其處でも、國民の需要供給を都合よく一致さす爲に利益の手數料を貰っているのではなことを發見した。再び私を清算して、都會労働階級の爲に、ずいぶんと種々な努力を續けて來た。しかし都會労働者も其指導者も、決して純眞に全人類の幸福を圖る動機からでなく、全人口の二割以内でなければならぬ筈の、都會労働階級の狭い階級利益の爲に、即ち不純な動機の爲に闘争しているを發見した。農民を思うとき、全人口の八割を占めねばならぬ農民を思つてみると、彼等わ搾られ疲れ行詰り、都會労働者より遙に酷い生活に苦しんでいる。日本人だけでなく、支那人も印度人も、全世界の農民わ、都會と商工業と金融資本から搾取されて、非常に惱み苦

しんでいる。彼等の爲に彼等と共に働くことが、新しい私の使命でなければならぬ。そして身を農村に入れたとして思えば、自分で働いて自分で生活する農民に搾取がなく、搾取されることもない。だから農民のみが完全に全人類の利害と一致するものである。私わ初めて青年時代の理想に一致する生活を、農村と農民に発見した。三度私わ自己を清算して、單身富士南岳の愛鷹山中葛山かつらやまに海拔千六百尺の山中農夫として私を見出し、何人をも搾らず、何人にも搾られず、全人類と利害を一致させて、心の底まで清く晴れ渡つた生活をしている。

朝と晩とわ薯いもを食う。夏から秋にかけてわ蕎麥そばや麥を食う。日中わ筋肉労働をし、未明の三時に起きて原稿を書く。しかし、そんな肉體や物質生活の不自由なんでもない。精神の奥底から、晴れ晴れしい理想の光が、なんと人生の幸福そのものとなつて私を喜ばす。妻も子供も山中無人の農園で、最も近い隣家え二十町あるのに、少しも淋しくなく喜んでゐる。都會人にわ奇蹟と見えるかも知れない此光榮、そこに自分自身を楽しみ得るわ、我等が共働農業の規範生活をしているからである。

獨りでわ淋しい。五百萬人の東京の眞中にいても、利害の反對する敵に圍まれていれば、逆も淋しい。失業して仕事が必要れば、景色のよい清澄公園のベンチに毎日据つていても、やり切れぬほど淋しい。しかし共働して忙しく働く我等わ、無人の山中にいて、一分間も淋しくないのである。それわ

共働農業の規範生活をする賜である。私の周圍にわ絶えず先驅の青年が集り、先驅の青年達と共働して、自給自足の農業に毎日の努力を忙しく続ける我等の誰にも、芋と麥を食ふ不自由位を嘆息する不平わ、一言も出ないのである。

無理に芋を食うのでわない。自分が作るのだから、作つたものが芋であれば、芋を食うのわ當然過ぎるほど當然である。自給自足とわ、芋や麥を食うことでなく、共働農業により、成るべく種類の多い、多量の作物を多收穫して、成るべく甘い物を満足に食ひ、且つ立派な文化の生活をするが目的である。だから我等の生活わ、自給自足の生活と云ふよりも、有る物生活と云うが正しい。有るものを増加して、有り餘る生活に擴けて行くのが、愉快な我等の努力であり、無いものを借金して生活するわ抑々搾取の初まりである。

共働經濟が理解されて、我等の共働農場が山から平野え擴がる時、先驅者の我等わ樂な生活をしだす。平野から部落の中え擴がり、水田も桑畑も、全農村を共働規範の經濟え進めるとき、全農民と我等わ、有り餘る文化の生活をしだす。更に共働文化農村の部落が互に聯合しだせば、聯合の本部が都會を管理し、工場鑛山等々も都會人のものでなくなり、商工業さえも、商工業をれ自身の爲に存在せず、凡てを農村と全農民の爲に、共働農村の聯合體が管理することになる。この新しい黎明の太陽

が地球の全表面に高く昇れば、金融資本の怪物共も、正體を暴露して、暗い處を隠れてしまい、奸計の魔術も力を失のをて、全人類の利害を、我も人も日本も支那も印度も、全世界が農業を本とする新しい規範生活に於て一致しだす。全人類を幸福にし、失業や不景氣や就職難や農村疲弊をなくするものわ、農業本位の共働規範の生活でしかない。

都會人わ儲けて生活する。儲けるにわ、安く仕入れて高く賣り、即ち賣り手と買手と、雇う者と、雇われる者と、搾る者と、搾られる者と、完全に利害が反對し、人わ人と争い、親しい父と子と兄弟とさえ、都會でわ別の心で別の利害を持ち、詐欺と隱謀と反感苦肉の策略の中で、互に偽わりながら嘘の生活をせねばならぬ。斯した一切の誤謬と罪惡わ、學問からも思想からも、都會と都會人から發生した。完全に此等一切の誤謬を清算し、全人類を利害共通の一致の上に、人間らしく手を握らして、文化の人間生活を永久にも保證するものわ、自分で作つて自分で生活し、少しも搾取と金儲けの必要がない、農業を本位としての新しい規範の生活のみである。農村生活團體の共働組合と其聯合がこの新しい規範生活の内容である。

110 學問や思想を顧みる

現代生活の行詰りわ、悉く都會萬能の弊害から生じた。之を人間生活に關する學問や思想に付いて見ても、過去を指導し現在を指導しているものわ、みな都會から都會を中心として、都會人により説かれた。小學校で教える地理や歴史の教科書でさえ、また讀書や作文の課題でさえ、都會を中心扱われ、なかにも實際生活に直接に關係がある經濟學と思想や主義わ、重大な社會問題となつて論じられているが、經濟學の右翼も左翼も、主義や思想の穩和派も過激派も、すべて都會から見ても都會人が都會を中心説くものである。簡單に之を暴露しよを。

右翼の經濟學わ、今日大學校などで公然と教えられるものであるが、それによると、經濟學にわ需要供給に關する根本原理があり、この根本原理によつて、米でも繭でも大根でも一切の生産貨物と消費貨物の價額が決定せられ、また勞働の賃金でも、土地の地代でも、家や建物や機械や道具の借り賃でも、また資本と云ふ紙札の借り賃でも、なにもかも、經濟の世の中で、金を取り、金を支拂うその金高わ、悉く此需要供給に關する根本原理によつて定まると云ふのである。役人の月給でもまた

同様に需要供給によつて定まるであらう。だから、世界中でも数多い役人や軍人や教員を持つ、世界第一等の官僚役人國の我日本で、其数多い役人等々に、洋服を着せて歐化生活をさし、國民指導の實際模範を見せて貰うにわ、彼等の贅澤な生活を十分に保證し、且つ退職して死ぬまでの不足のない恩給や、死んでからでも遺族の困まらぬ扶助金まで、需要に應じ我等農民に供給せねばならぬのである。でわ農民にも、そをした善い生活を保證するため、農民の生活に必要な生産費を標準にして、米、繭其の他の農産物の價額を正當に支拂をて呉れるであらうか。

農産物の價額も、需要供給の經濟學原理に依つて決定される。しかし其の決定の仕方わ農民本位でなく、都會本位である。即ち米でも繭でも野菜でも果物でも、都會の需要だけを農民が生産していれば、經濟學者の云うよをに需要と供給が一致して、机上で適當な價額が定められるかも知れない。でわ需要と供給が一致したとき、其時の價額を幾許と誰が定めるか。かく質問すると經濟學者わ口を閉して何も答えない。此に右翼經濟學の誤謬が暴露され、大學校の生徒でも頭の善い者わ、それ位の質問をし初めるから、忽ち先生わ揚げ足を取られ、先生わ色々の學者の説を引張り出して誤魔化ををとするが、頭の善い學生が鋭く質問すると、どんな經濟學の博士でも誤魔化し切れず遂に本音を吐き、價額論わ經濟學でも一番難かしい疑問であるから、諸君も一生の研究問題にして勉強して呉れ給えと

曰う。でわ其参考書わと質問すると、マルクスと云ふ人の書いた資本論があると洩す。マルクスの資本論こそ、左翼經濟學の經文である。

左翼經濟學の價額理論を紹介する前に、農産物の價額が都會を中心決定されることを、もう少し述べなければならぬ。需要と供給が一致する場合にわ、今日の經濟學でわ價額を決定のしよをがない。だからこそ農林省の役人も頭を悩まし、米價基準案と云う、とても難かしい米の値段の決め方を、米價調節委員の方々え相談している。しかし需要と供給が一致することわ、實際に於て有りつこなく、實際の經濟社會でわ需要が多過ぎるか、供給が多過ぎるか、必らずどちらかが多過ぎ、さてこそ需要と供給の關係によつて毎日の如く、東京の蠣鼓町や、大阪の堂島で、米の相場が上つたり下つたり、だからもし經濟學の原理により明日の米の相場を正確に云い當て得る人があれば、彼わ相場をして日本中の金を集めて大成金になり得るであらう。けれども經濟學の原理でわ、明日の米の相場さえ判らず、單に需要が多くなれば相場が上り、供給が多くなれば相場が下ると云うのみである。しからば需要が多くなれば如何ほど上り、供給が多くなれば如何ほど下るかと聞くと、また大學の經濟學博士わ黙つて答えができない。それほど不完全な經濟學を右翼の大學教授わ教えるものだから、頭のいゝ學生わ決して承知せず、先生から洩されたマルクスの資本論を一生懸命に獨學自修することになるので

ある。

需要供給の大學經濟學原理でわ、上つても下つても、決して價額の金高を云い當て得ないが、しかし需要が多くなれば相場が上り、供給が多くなれば相場が下る位のことわ云い當て得る。それにしても、米の一年中の需要わ決つてをり、昨年中に生産された米の供給總量も決つてをるから、取引市場で毎日のよをに米でも繭でも大根でも、上つたり下つたりすることわ不思議でなければならぬ。この不思議も大學經濟學の誤謬を暴露するものである。

毎日の如く米や繭の相場が上つたり下つたりするのわ、需要と供給の關係が毎日變化するからでなく、日本全體、又わ世界全體の需要とか供給とか云うても、到底正確なものわ判らないのであるから、ほんの推量で需要とか供給とかと云うに止まり、毎日都會の相場師どもが寄り集まつて需要と供給を推量し、その推量が相場を上らしたり下らしたりするのである。その推量わ人により違ひ、また同じ人でも毎日推量し直すので、さてこそ相場に強氣とか弱氣とか云う相違が生じ、即ち相場わ机上の需要供給統計數字で決まるのでなく、取引所で強氣と弱氣が推量し合をて、同じ推量をする強氣が多數になると、其多數決により相場が上り、また反對に同じ推量をする弱氣が多數になると、其多數決により相場が下るのである。だから相場を決定する者わ、都會の取引所に於ける強氣と弱氣の相場師であり、決して米や繭を需要する消費者でも、米や繭を生産する農民でもないのである。かく東京や大阪の取引所で、強氣と弱氣の相場師が寄合ひ、毎日幾度となく推量の思惑を改める多數決議をし直し、其決議の相場値段がラヂオや電報や新聞で全國え報道され、其値段を標準にして、停車場の米屋も農業倉庫の役人も買値段を決めるから、農民わ自分の懐工合から、農民自身に必要な需要や供給で、何一品の價額を決定することができない。もつと噛み碎いて云えば、こをである。

需要供給の原理と云うのわ、日本中、又わ世界中の米なり麥なり繭なりの生産者の供給數量と、それに對する消費者の需要數量とを、實際に取調べて双方に都合よく相場を決定すると云うのでなく、賣方と買方との駈引による強氣と弱氣の、よい加減な取引によつて相場を決定すると云うのである。だから賣手が多く買手が少なく、賣ろをと云う弱氣の駈引が勝つと相場が安くなり、賣手が少なく買手が多く、買をと云う強氣の駈引が勝つと相場が高くなるのである。處で、農民が賣るときにわ、日本全國五百萬軒がみな賣手であり、村で云えば數百軒の農民がみな賣手であるのに、買方わ停車場の二三軒の商人だけであるので、つまり農産物を賣る時わ、何時も賣手が多く買手が少ない結果、少ない方の買手の思惑通り、多い方の賣手の農民わ駈引に負けて、仕方がない安くても賣ろをと云うことになり、何時も停車場の商人が云う相場で安く賣らされるのである。停車場の商人わ東京や大阪から

の電報を見て、鐵道運賃や自分の生活に必要な手数料を差引き、至極安い値段で米でも繭でも農民から買上げる。

それでわ農民が砂糖でも織物でも肥料でも買うときは、こちらの必要に應じて、懐工合の許す程度で買えるかと云うに、其等の都會商品を農民が買う段になると、買いたい消費者わ村全體の數百人で賣る商人わ三人か四人しかないから、また需要供給の原理から來ると、こんどわ買手が多く賣手が少なく、相場わ高くなつて、少ない方の賣手の思惑通り、砂糖一斤は二十錢、木綿一反わ一圓、過磷酸一俵わ一圓二十錢と、商人が勝手に決めた値段で買わされ、農民の方で少し懐工合が悪いからと相談をしても、決して商人わ負けて呉れない。即ち農民わ農産物を賣る場合にわ、都會商人の決める値段で賣り、都會商品を買う場合にも、また都會商人の決める値段で買ひ、商人わ賣る時と、買う時とに二重に利益を取るのである。鐵道でも運送店でも、賣る品と買う品とに二重に損のない運賃や手数料を取り、東京や大阪の都會の間屋でも、賣る品と買う品とに十分な二重の口錢を取り、最後に都會の工場でも、社長重役株主以下労働者に至るまで、數多い其等の人々が需要する生活費や遊興費に不足のない、月給や賞與金や配當や賃銀を遠慮なく取り、其品が問屋から、運送屋から、地方商人に廻り、手を潜ぐる度毎に、十分な手数料を加えて、一切の都會人が、儲かつて需要に不足のない生活を

して行ける値段で、農民わ米や繭や野菜等の農産物を賣らされ、砂糖や織物や肥料等の都會商品を買わされる。即ち農民わ賣るときも、買うときも自分の需要や供給から算盤をはじいて、たとい参考になりとも意見を述べることを許されず、都會の商人工業家鐵道省運送屋等々が都會を繁榮さすに都合のよい算盤をはじいて決めた値段に、絶對無條件の服従を強制されるのである。だから全人口の六割に膨張して、ビルヂングと洋服と自動車で歐化した都會生活住民の需要に應ずる如く、彼等の生活日用品の一切を、彼等の云うままに供給せねばならぬ全人口四割の農民わ、事實に於て彼等の奴隷である。好景氣時代でも全日本の農産物を、彼等の勝手に決めた相場わ三十幾億圓と値踏みする。けれども都會の全人口わ、我等農民の生産物によつて贅澤に生活しているのであるから、正當にもし農作物の價額を農民の立場から農民が決定するならば、全日本一年の農産物價額わ百億萬圓をも超えなければならぬ。本來都會人わ農民生活の餘りに依つて、農民に感謝しつつ農産物の分配を受けて、愼しみやかに生活せねばならぬ筈である。仁徳天皇わ、民の富めるわ朕の富めるなりと仰せられた。

右翼經濟學の需要供給に關する原理わ誤謬である。誤謬を通り越して、學問の理論になつてをらぬ。學問の理論わ、必らず標準を確定し、標準を離れて、上つたり下つたりする變態え脱線するものでわない。上つたり下つたりの變態も調査せねばならぬが、學問わまづ學理の基礎に標準となる價額を數

字の上で判明に決定し、上つたり下つたりする場合にわ、判明に決定された標準の價額が、上るときは幾割幾分上り、下るときも何割何分下ると、正確な推定ができねば、價額を論ずる經濟學に學問としての値打がない。そのできない右翼經濟學は、學問としての値打がないもの、都會商工業者の横暴な現在の遣り方だけを見て、其不都合な現在の遣り方に、需要供給と云う言葉を當て蔽めて、學問の原理でもあるかの如く、誤魔化し説いたものであり、少し頭の鋭い學生から質問されると、大學博士も沈黙して、完全に揚げ足を取られる程度の馬鹿々々しい出鱈目である。

大學教授から参考書として洩らされたマルクスの資本論こそ、左翼の社會主義經濟學の經文である。當世の學生は坊主が經文を読む程度に、マルクス經濟學を捧讀みに暗記している。しかしマルクス經濟學も誤りであり、それわ學問と云うよりも、思想またわ主義と云ひ得る程度のものである。

マルクス經濟學によれば、靴でも織物でも、一切貨物の價額を生産に要した労働時間で定まると云う。十時間で生産された靴にわ、十時間人間労働と云う價額があり、二十時間で生産された織物には二十時間人間労働と云う價額があり、凡ての貨物の生産に要した労働時間に依つて交換されねばならぬと説く。此説明が誠に判明であり、貨物の價額を數字で正確に示すことができ、需要供給で上つたり下つたりと不明瞭なことを云わなくてすむ。だから數字的に判明なマルクスの労働價値經濟學を讀

んだ學生は、長い間の疑問が忽ち解決された喜びの光明を認め、無條件にマルクス説の全部を、經文の如く坊主讀みに暗記してしまうのである。

都會人が都會にいて都會の經濟學を書き、都會人の爲に都會人に讀ますのなら、マルクスの經濟學は立派である。しかし農民が讀むと、どをしても了解することができない。

靴や織物わ都會の産物であり、都會の工場で動力や器機を使い、都會労働者が生産するものであるから、東京の靴と大阪の靴と、英吉利の紡績糸と日本の紡績糸と、遠く産地が違つても、生産に要する労働時間は大體が同一であり、夫々の都會商品の價額を、大たい生産に要した労働時間で決定することができる。だから都會人にわマルクスの労働時間價値主義でも大した差支わないのである。處が農産物になると、氣候風土や地形其他の天然の條件により、同一労働時間で同一數量の農産物が取れるかと云うと、それわ絶対にできないことであり、農民はどんな愚な頭の鈍い者でも、氣候の適する地方でわ米でも芋でも三倍も四倍も多量に取れるが、氣候の悪い處でわ、殆んど收穫にならぬことをよく知つている。米も水田でわ一反十俵位取れるが、畑でわ三俵しか取れぬことをよく知つている。そして人手間を、一反十俵を取る水田の方が遙に樂で、一反三俵しか取れぬ畑の方、非常に骨が折れて多くの労働時間をかけねばならぬことを、どんな香氣な百姓でも、子供のときからよく知つ

ている。マルクスが農民であつたら、もう少し違ごをた経済學を書いたであろを。農民が經濟學を書けば、經濟學が農民の手に依り、農民の爲に書かれたならば、需要供給の右翼經濟學でなく、労働時間價值説の左翼經濟學でもない、全く別の經濟學が生れたのであろを。規範經濟學こそ、右翼と左翼の誤謬を蹴飛ばす、新しい農民の爲の農民の經濟學である。

經濟學に右翼と左翼の誤謬學説がある如く、思想や主義に、穩和派と過激派がある。公明正大の大道わ穩和でもなく過激でもない、眞の正義と理想である。

穩和派わ資本家と労働者、地主と小作人の對立關係を認め、其間を適當に妥協さそをとする主義や思想の方針を持ち、過激派も資本家と労働者、地主と小作人の對立關係を認め、しかし労働者や小作人わ暴力によつて資本家を叩きのめし地主を追放し、労働者と小作人のみの世界にしよをと説く主義や思想であるが、之が實行されたとき、労働者と小作人わどんな關係になるかと聞くと、過激主義者の或人わ、都會プロレタリアートの農民支配だと答え、或人わ労働者農民よと呼びかけ、都會労働者と農民とえ同じ約束をする。

労働者農民よと呼びかけられて、さて労働者と農民が世界を取り、労働者が相變らず都會を占領して、労働者と農民の間に、嵌み形の體裁が生じないでいられよをか。現在の露西亞わ之を證明

している。英吉利労働黨が永久に英國を支配したとして、農民の印度人に、英吉利労働者と同じ約束を實行するであろをか。過激主義わ都會労働者に都合がよいが、農村と農民にわ都合が悪るそをだ。都會労働者が農民の後援により天下を取つたとき、恐らく彼等わ今日の都會人が持つて一切の特權を取り上げて放さぬであろを。農村と農民を幸福にするものわ、農村生活團體の共働組合と其聯合でしかない。

農村生活團體の共働組合、階級の身なりを捨て、の地主と小作人と自作農を受入れる。都會から搾取されて疲れ切つた農民に、部落で内輪喧嘩をする餘分な暇と氣力があるをか。農民の全部が共力一致して完全に結合した生活團體の共働組合を作り、その聯合が結成されるとき、農民わ農産物を賣る場合にも、また都會から工場の商品を買う場合にも、別々の數百軒でなく、唯だ一つの共働組合となるから、賣る農産物わ勝手に自分で値段を決め、買う商品も氣に向く値段でなければ買わず、進んで共働組合の聯合で種々な工場を作り、何もかも自分達農民が製造しだす。もを都會の労働者など、そんな特別な存在わなく、凡てが農民ばかりとなり、農民の生活團體と、其の共働組合の聯合が管理する工場で働く者さえも、農村の青年男女でしかなくなる。これこそ穩和派と過激派を通り越して、日本全民族と世界全人類を幸福にする唯一の永久方針である。

二二 正しい理論

右翼も左翼も間違っている。正しい規範經濟學の唯一理論が発見された。價額に関する其理論を、平易に紹介しよう。

需要供給によつて、價額が上がったり下がったりするが、需要供給そのものわ、決して米や繭の價額の數字を決定するものでない。けれども労働時間が價額そのものでないことも明であり、價額わ米や繭等の品物が持ち、労働時間わ労働者や農民の人間が持つ。でわ價額そのものの本質わなにであり、また價額わ何によつて其數字が決定されるであろをか。

價額わ人間の労働時間でなく、米や繭や砂糖や、それらの品物が我々人間に對して持つ數量關係である。だから價額わ何圓何十何錢と、正確に數字で決定せねばならず、需要供給で上つたり下つたりでわ、價額にならぬのである。

價額わ夫々の品物が人間に對して持つ數量關係である。しかし數量わ何等かの實物を表わすものであり、空に一とか二とか三とか云う數量がある譯でない。十でも百でも、必らず數量わ米一石の十倍か百倍か、炭一俵の十倍か百倍かでなければならぬ。だから價額わそれらの品物が人間に對し持つ數量關係でわあるが、その數量關係わ、それらの品物が人間に對して持つ實質關係を現わすものであり、空に何圓何十何錢と云う價額の數量や數字がある譯でない。

價額わ數量關係であるけれども、その數量わそれらの貨物が人間に對し持つ實質關係を示すものである。即ち價額とわ、それらの貨物が人間に對する實質關係を、數量の側より表わすものである。米ならば五合食べると二千五百カロリーの營養價值、薩摩薯ならば百匁食べると五百カロリーの營養價值、肉類もまた百匁で五百カロリーの營養價值と夫々の貨物わ人間に對する實質關係に應じて數字上の價額を持つ。だから貨物の價額わ人間の労働時間とわ全然別ものである。

貨物わ性質に應じ、それらの價額を持つ。價額とわ、それらの性質に應じ、貨物が人間に與える價值である。従て價額と労働時間とわ完全に違ふ。價額わ人間労働でなく、貨物が人間に與える價值を、數字で現わし、之を價額と云うのである。

貨物を使えば、貨物の性質に應じ、人間わ何等かの得を受ける。貨物の價額とわ、貨物が人間に與える、人間から見て得になる處の利益なのである。その利益わ普通人間の労働力を増加することに役立つ。しかし貨物が人間の労働力を増加し、或わ労働して失のをた人間の精力を恢復することわ、貨

物が人間に對し與える利益の結果であり、價額そのものでわないのである。價額わ何處までも貨物の持つ性質であり、逆に人間が貨物に對し與える處のもの、例えば勞働力とか勞働時間とか云うものとわ全く別である。

貨物が人間に與える處の利益の價額わ、貨物の種類により千差萬別であり、決して何圓何十何錢と單純に其數量を計算することができない。例えば米や薩摩薯や豚肉の價額わ營養カロリーで計算できるが、靴や下駄の價額わ、幾十萬メートル人間を運ぶに耐えるかと、里數によつて計らねばならず、ペンや鉛筆の價額わ、幾枚の原稿紙に書き得るか枚數により計らねばならぬ。家や道路の價額になると、少し計算が面倒い。また五合の米が二千五百カロリーの價額を與えるなら、五升の米わ二萬五千カロリーの價額を與えるかと問うと、五升も飯を食うと下痢を起し、勞働力を得どころか、病氣になつて寐なければならぬ。そをすると愈々價額わ容易に計算ができないことになる。しかし價額わどをして正確に計算し、また米や靴やペンや道路と種類を異にしても、互に其價額を比較することの出来るよをに工夫する必要がある。

自然のままでも、價額わ容易に計算できない。しかし毎日の生活上、どをして凡ての貨物の價額を正確に計算し、且つ比較する必要がある。自然のままでも、海を渡れず、空を飛ぶこともできないが、しかし海を渡り、空を飛ぶ必要が起ると、汽船を發明して海を渡り、飛行機を發明して空を駆け、こをした工夫を人間の叡智と云う。

叡智ある人間わ自然のままでも出来ないことを、色々工夫して出来るよをにする。元らい貨物の價額わ容易に計算できず、互に比較することもできないが、しかし毎日の生活上、之を正確に計算し、且つ彼此と比較する必要があるので、之に應ずる工夫を、實わ價額論の中心問題とする。

今迄の學者わ、價額の性質を詳しく調べず、漠然と價額わ需要供給によつて定まるとか、勞働時間が價額だなどと云うていたが、價額わ夫々の貨物が人間に對し與える利益の數量關係であり、自然のままでも正確に決定することができない。それで之を正確に計算して互に比較の出来るよをに工夫する。こをした工夫から價額を正確に數字で表わすよになり、經濟學に云う價額論とわ、こをした工夫のことなのである。かくと決つてみると、價額を數字で現わす方法わ左まで難かしくわない。海を歩くよりも、空を飛ぶよりも、遙に易い問題である。

價額わ夫々の貨物の最高生産費によつて計算される。なんでもないことである。しかし勝手な最高生産費でわなく、其時代の人間が需要する貨物の分量を生産するに必要な、生産費の中の最高で、其貨物の價額が決定されるのである。例えば日本でも毎年六千萬石の米が必要であり、米を氣候の暑い

臺灣で作ると一石の生産費わ十圓であり、氣候の温い九州で作ると一石の生産費わ二十圓であり、氣候の温くない新潟で作ると一石の生産費わ二十五圓であり、氣候の冷い青森で作ると一石の生産費わ三十圓であり、氣候の寒い樺太で無理に作ると一石の生産費わ五十圓だとする。そして六千萬石の米わ青森縣まで作れば得られ、北海道や樺太まで作ると六千五百萬石になるとする。そのときわ日本に必要な米の總量六千萬石を生産するにわ、青森縣の農民迄が米を作らねばならぬ。此場合に何處の農民でも損のゆくことわ出來ないし、また政府の役人でも都會の勞働者でも、國民の必要によつて、青森縣の農民にまで米を作れと勸めて、青森縣の農民にまで米を作る義務を負わすにわ、青森縣の農民に損害を與えぬよをな價額を支拂わねばならぬ。だから米一石の價額わ青森縣の生産費一石三十圓で決まることになるのである。一石三十圓でわ樺太の農民わ損をするが、しかし樺太の農民わ日本國民の必要とせぬ米を勝手に作るので、經濟學わ常に標準を決定し、勝手な思いの餘分なことまで心配してやらぬから、樺太の農民が勝手に餘分な米を作つて賣り出すなら、やはり青森縣同様の一石三十圓でしか賣れないことを覺悟せねばならぬ。簡單でわあるが、之が眞實な價額の原理である。

時代の人間が必要とする貨物の分量を生産するに必要な生産費中の最高で、凡ての貨物の價額が決定されるならば、誰にも損害が掛らず、四方八方に好都合である。ただ損害の掛るわ、必要のない分

量を勝手に作つた者であるが、そんな勝手な者にまで損害のゆかないよをにして上げることわ、經濟の學理でわない。學問の理論と云うものわ、常に標準を決定し、その標準から人間が勝手に脱線することわ、禁止できないけれども、その脱線を學問の理論で保護してやるわけに行かぬのである。例えば人間の道德を定める倫理學わ、普通一般の人間心理を標準として、盗むな殺すな淫らなことをするなど、西洋の昔から定めていても、癖の悪い變態心理の人わ、勝手に盗んだり殺したり淫らなことをする。しかし之を禁止することわできないから、仕方なく刑務所え入れて、人類の邪魔にならぬよをにして置くのである。學問の論ずる處わ、何時も必要な標準であるを、よく理解しなければならぬ。

二二 共働渦巻形の原則

價額に必要な貨物分量の最高生産費によつて決定される。現在の取引でも、實わ之が標準となつて凡ての貨物の價額が決定されているが、都會の商人等が種々惡智恵わるちゑを出し、都會人に都合のよいよに、役人も銀行家も相場師も問屋も小賣商人も、寄つてたかつて經濟學の正しい價額の理論を歪ゆがめるものだから、農産物わ最高生産費よりも安い相場で農民から買取られ、反對に都會の商品わ、最高生産費よりも高い相場で農民え賣り渡されることになつてゐる。かく都會商人等の惡るだくみにより、農産物が學問の正當な標準よりも安く買取られてゐるからと云うて、また都會の商品が學問の正當な標準よりも高く賣渡されてゐるからと云うて、相場が最高生産費で決定されねばならぬと云う規範經濟學の原則を疑うたがへてわならぬ。學問わ常に正しい標準を決定し、泥坊や殺人や強姦や賣惜みや買占め迄に、御無理御尤ごちよつともと御世辭を云うものでわない。

でも不景氣で都會の工場や商人も損してゐるでわないか。しかし都會の工場と商人の中にわ、どんな不景氣でも決して損をせぬ人がゐる。損をする工場や商人わ、六千萬石以上の不用な米を作る樺太の農民にも似て、押すな押すなと勝手に都會え、全人口の六割が集まり、無用な工場や商店を開くものだから、損をせぬ工場や商店わ、農民が必要とする分量迄を取扱とくあう工場や商店に限られ、その中の最高生産費よりも高く、凡ての都會の商品が取引されるから、どんな不景氣な時でも、其等の一流工場や商店わ決して損をせぬのである。

農民わ太陽熱を利用して地球の表面に散在して仕事をせねばならぬから、幾等臺灣の米の生産費が安いからと云うて、臺灣だけで米を作る譯にゆかぬ。どをしても九州でも本州でも、青森の北の端までも米を作らねばならぬ。けれども都會の工場わ、儲たくわかりさえすれば、うんと資本を多く下おろして、日本中わ愚か、世界中に必要な品を、唯一の大工場で製造できないでもない。また東京中の商品を、丸ビルよりも大きなビルヂングを建て、一箇處で纏まとめて賣ることもできるのである。そこで銀行や保險會社などの金融事業を經營する大資本家が、大工場や大商店を建てだし、そをした大工場や大商店わ、不景氣知らずの萬年好景氣であるが、それ以下の工場や商店わ、好景氣知らずの萬年不景氣と云うことになる。しかし金融資本家わ、金を貸さないで儲からないから貸せるだけ貸して、倒れぬ程に拂える程に、云わば殺さず生かす程度に、凡てすべの工場と凡ての商店を、凡てを凡て搾り上げることにしてゐる。それにわ、金融業を大きく營む大富豪が自分の大工場や大商店を、特別にうんと儲か

る程度に經營し、しかし餘り大きくわ擴け過ぎず、東京えも大阪えも、全國の都會え、金を借りて呉れる程度の群小資本家に、大小無數の工場を建てさし、大小無數の商店を並べさし、それ等の工場と商店え金融資本家の有り餘る資本を貸し付け、實わ群少資本家の工場と商店の利益を全部取り上げてしまふ仕組にしている。かくして都會萬能商工本位が何時の間にか都會萬能金融資本主義に進み、金融大資本家わ、一方に直屬の大工場や大商店を建て、思い存分に儲けて置き、但し自分の銀行や保險會社から借金している群少資本家の無數な工場や商店が、自分の大工場や大商店並に儲かると、金を借りてくれなくなるから、實わ裏え廻つて儲かりそをな會社や商店の株を買取り、成績のよい會社や商店の儲けわ、悉く株主配當に頂戴して、群少會社や商店わ幾等儲けても、何時迄も永久に金融資本家から金を借りねばならないよをにし、日本中と世界中に、金融大資本家以外にわ、金持と云う者がないよをに計畫し終えた。之が今日の都會萬能金融大資本主義の策略である。金融大資本わ、都會の商工業を搾り盡したので、こんどわ魔の手を農村え延したのである。今や農村と農民わ疲弊のどん底にある。

都會で小さな資本家が、工場や商店を開いて見ても、金融財閥の大資本家から見れば、斧を振う蠶さなぎつちか、よい鴨位にしか見えなない。況して農村の地主位のもものが、先祖傳來の田畑を賣り、子弟を馬鹿

馬鹿しい大學など卒業さして、工場や商店を都會に開かした處で、都會大資本家の番犬にとり、よい兎でしかない。都會を夢に見ることを、農民わ地主も小作人も、も止めねばならぬ。

都會と違ひ農村にわ、天然や風土氣候から生れる、自然の生産費の相違がある。この相違わ、役人も金融資本家も蹂躪じゆうりつすることが出来ない。氣候風土の相違から、また農事技術の巧拙や、經濟組織の良否により、凡ての農産物にわ生産費の相違がある。しかるに農産物の價額わ、最高生産費によつて決定されるものであるが故に、農民さえ少し目醒めて、自分の農産物を正當な規範經濟學の最高生産費によつて賣る工夫をすれば、農民のみわ確實に儲かる。生産費の相違から、氣候や風土のよい、技術が優れて、經營組織の巧妙な農村と農民えわ、必らず生産剩餘の儲けが残るのである。價額わ最高生産費によつて定るので、最高生産費によつて農作物を賣ると、現實な自分の低い生産費との間に、農民と農村えわ必らず確實に生産費以外の利益が残る。この利益わ最高生産費の價額から自分の現に要した生産費を差引いた純粹の剩餘利益じよよりえきなので、規範經濟學わ純剩餘と名付け、生産より生ずる利益でもあるが故に、生産剩餘とも名付ける。

都會でわ金融財閥の大資本に壓倒あつとされて、普通の工場や商店わ儲けることができなない。けれども農民のみわ確實に生産剩餘を利得する。農民が土を愛して、土を改良し、其土に適當する最も有利な作